

# 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ヒ

## 一日中ノ分布

委員理學博士 大森房吉

### 緒言

一〔地震ト時トノ關係〕 地震ハ等一ニ時ニ分布セラ

ルモノニアラザルコトハ吾人ノ知ル所ナルガ抑地震ノ原因ハ

地殼中ニ弱點即チ歪チ存シ其極ニ達スルニ及ンテ斷層、裂罅、

若クハ横折チ起スニアルモノナレバ地震活動力、即地殼ノ地

震ヲ生シ得ベキ能力ハ時ニ從ツテ變化アルノ理ナリ而シテ月

ノ引力、潮水ノ干満、積雪ノ重量、空氣ノ壓力等ノ如キハ皆

ナ地殼ニ働ク外力ニシテ地震ノ直接ノ原因トハ稱スベカラザ

ルモ其副因トナリテ地殼中ノ變動ヲ増大シ若クハ速ナラシム

ルコトハ有リ得ベキナリ然ルニ此等ノ諸外力ハ皆周期アルモ

ノナレバ地震ノ度数ニモ亦外力ト同様ナル數多ノ周期アルモ

ノト考ヘ得ラルベシ、故ニ一般ニ地震ノ時ニ於ケル分布ハ周

期ナキ變化ト、周期アル變化ト相重ナリタルモノヨリ成ルモ

ノト見做スベキナリ

周期ナキ、時ト地震トノ關係、例之バ一地方ニ於テ地震活動

力が最古ノ有史時代ヨリ漸次ニ衰滅スルガ如キ場合モ數千年  
若クハ數萬年ノ長キ時限ヲ取リテ考フレバ矢張り周期アル關  
係トナルベシト思ハル、蓋シ地震ノ現象ハ既ニ其性質ニ於テ  
永久(少ナクトモ地殼ノ冷却ガ繼續スル間ハ)時ニ從ヒ盛衰ヲ  
順次ニ繰リ返スモノナレバナリ

既ニ地震度數ニ於テ一ノ周期アルコトヲ確メタルトキハ、其  
ノ「ハルモニックス」、即其二分一、三分一、四分一、……等ノ  
長サヲ有スル數種ノ短周期ガ存スルコトモ有リ得ベキナリ

二〔地震度數ノ周期〕 地震度數トハ任意ノ時限内ニ於

ケル地震回數、例之バ一時間、一日間、一ヶ月間、若クハ一年

間ノ地震回數ノ如キ是ナリ

地震度數ノ周期ヲ見出サントスルニハ大地震後ニ發起スル餘

震ニ若クコト無カルベシ、即餘震ノ數ハ非常ニ夥シキノミナ

ラズ大地震後ハ其震原若クハ直接附近ニ於テ擾亂セラレタル

地殼ハ特ニ外力ノ影響ヲ受ケ易カルベクナリ、左ニ本委

員ガ嘗テ提出セル餘震ノ調査中ニ載セタル地震度數ノ周期ニ

關スル結果ヲ鈔出ス(震災豫防調査會報告第二號參照)

明治二十二年七月廿八日熊本大地震ノ餘震ハ其度數ノ變化

ニ於テ平均四、六日間、十二日間、三十三日間及ビ約三ヶ月

間ノ四周期ヲ示ス

明治二十四年十月二十八日濃尾大地震ノ餘震ハ其度數ノ變化ニ於テ平均四時間乃至四時間半、八時間乃至九時間、一日間、四日半、十二日及び三十三日間ノ六周期ヲ示ス

明治二十六年九月七日鹿兒島縣知覽村大地震ノ餘震ハ其度數ノ變化ニ於テ平均四、四日間、十二日間及び約三十三日間ノ三周期ヲ示ス

此ノ如ク地震度數ノ周期ハ既ニ發見セルモノノミニテ六種ニ及ベリ尙此他ニモ長サノ異ナル周期アルベキナランカ以上六種ノ周期ノ内ニテ四時間乃至四時間半ノモノト八時間乃至九時間ノモノハ一日間ノ周期ノ各約六分一及び三分一ニ近ク、即其「ハルモニツクス」ト見做スベキナリ（第「十九」章參照）

一年間ノ周期ハ既ニ諸先輩ノ認知セル所ナリ本篇ニハ日本ニ於ケル地震度數ノ一年中及び一日中ノ變化ニ就キテ詳論セシトス

### 三(調査ノ材料)

去ル明法三十一年ヨリ次第ニ全國ノ主要ナル地震地方ノ諸測候所ニ宛テ其設立ノ當初ヨリ現時ニ至ル迄ノ地震發震時ノ表ヲ送附アランコトヲ依頼シタルガ今明治三十三年二月始メ迄ニ必要ノ材料ヲ報告セラレタルハ札幌、函館、秋田、山形、宮古、石巻、福島、宇都宮、前橋、新潟、長

野、沼津、濱松、名古屋、岐阜、彦根、津、和歌山、廣嶋、濱田、高知、大分、熊本、鹿兒島ノ二十四測候所ナリ此等諸測候所ノ所員諸氏ニ對シテ本委員ハ茲ニ深ク調査上幫助ヲ與ヘラレタル好意ヲ謝ス以上二十四測候所ノ中ニテ濱田及び高知ニ於ケル地震回數ハ少ナクシテ充分ノ統計ヲ得ル能ハザルモ暫ク其儘ニ存シ置キタリ尙此ノ外ニ東京中央氣象臺及び根室測候所ニ於ケル地震記錄ヲ加ヘタレバ下條ニ論スルハ合計二十六個ノ測候所ニ於テ其設立ノ最初ヨリ明治三十二年十二月末日迄ノ地震觀測ノ結果ニ係ルモノトス二十六個測候所ノ中ニ二十八日ノ大地震ヨリ三十二年十二月卅一日迄ニ四千二百二十回ノ地震ヲ觀測セリ又地震回數ノ最少ナルハ濱田ニシテ測候所設立ノ始メヨリ明治三十二年十二月三十一日迄ニ僅ニ三十回ノ地震ヲ觀測シタリ又上記二十六個所ニ於ケル地震觀測ノ回數ヲ總計スレハ實ニ一萬八千二百七十九ノ大數ニ及ベリ余ガ單ニ各地測候所ノ地震記錄ノミヲ取りタルハ測候所ノ觀測ハ郡、市、町、村役場等ノ觀測ニ比スレバ精密ナルノミナラズ其多數ハ地震計ニ依ルモノナレバ結果ノ正確ナルヲ以テナリ

地震ト時トノ關係ハ日本國中ノ全部ニ就キテ必ズシモ同一ナ

ラザルコトモ有り得可ケレバ茲ニハ別々ニ各地方觀測ヲ取リ地震回数ノ一年中十二個月別々、及ビ一日中二十四時間別々ノ表ヲ調製シタリ。日本全國ニ於ケル諸測候所及ビ郡、市、町、村役場ヨリノ地震回数報告ヲ凡テ混同スレバ全國ニ關スル地震回数ト時トノ關係ノミヲ知ルベクシテ（此等ハ既ニ震災豫防調査會報告第二十六號ニ於テ大地震ト普通小地震トニ

(第一表) 測候所地震觀測表(測候所ハ順次ニ北方ヨリ列記ス)

區別シテ詳論シタリ) 必ズシモ各地方個々ニ關スル結果ヲ代表シ得ルモノニアラザルナリ  
**四(測候所)** 二十六個測候所ヲ地震回数ト時トノ關係ニ從ヒ便宜上(甲)(乙)ノ二類ニ別ツ(第七(七)章參照)其地震觀測ヲ開始シタル年月、觀測セル地震ノ總回数及ビ地震計ヲ据ヘ付ケタル年、月ハ次ノ第一表ニ示スガ如シ

(甲)													
測候所	測候所ニテ地震觀測ヲ開始セル年月	地震觀測ヲ開始セル時ヨリ明治卅二年十二月迄ノ年月數	地震計ヲ据ヘ付ケタル年月	地震觀測ヲ開始セル時ヨリ明治卅二年十二月迄ニ觀測セル地震總回数	札 幌	函 館	東 京	新 潟	長 野	沼 津	濱 松	名 古 屋	岐 阜
測候所ニテ地震觀測ヲ開始セル年月	明治九年九月	二十三年四月	明治十六年一月	百五十六回	同	同	同	同	同	同	同	同	同
地震觀測ヲ開始セル時ヨリ明治卅二年十二月迄ノ年月數	二十七年	二十四年	同二十八(但十四年七月ヨリ簡單地震計)	三百五回	同	同	同	同	同	同	同	同	同
地震計ヲ据ヘ付ケタル年月	二十七年	二十三年九月	同二十八(但十四年七月ヨリ簡單地震計)	二千七百七十三回	同	同	同	同	同	同	同	同	同
地震觀測ヲ開始セル時ヨリ明治卅二年十二月迄ニ觀測セル地震總回数	二十七年	二十三年九月	同二十八(但十四年七月ヨリ簡單地震計)	二百十六回	同	同	同	同	同	同	同	同	同
地震計ヲ据ヘ付ケタル年月	二十七年	二十三年九月	同二十八(但十四年七月ヨリ簡單地震計)	三百十回	同	同	同	同	同	同	同	同	同
地震觀測ヲ開始セル時ヨリ明治卅二年十二月迄ニ觀測セル地震總回数	二十七年	二十三年九月	同二十八(但十四年七月ヨリ簡單地震計)	六百十二回	同	同	同	同	同	同	同	同	同
地震計ヲ据ヘ付ケタル年月	二十七年	二十三年九月	同二十八(但十四年七月ヨリ簡單地震計)	九十九回	同	同	同	同	同	同	同	同	同
地震觀測ヲ開始セル時ヨリ明治卅二年十二月迄ニ觀測セル地震總回数	二十七年	二十三年九月	同二十八(但十四年七月ヨリ簡單地震計)	千九百八十回	同	同	同	同	同	同	同	同	同
地震計ヲ据ヘ付ケタル年月	二十七年	二十三年九月	同二十八(但十四年七月ヨリ簡單地震計)	四十二回	同	同	同	同	同	同	同	同	同
地震觀測ヲ開始セル時ヨリ明治卅二年十二月迄ニ觀測セル地震總回数	二十七年	二十三年九月	同二十八(但十四年七月ヨリ簡單地震計)	四十二回	同	同	同	同	同	同	同	同	同

茲ニハ明治二十四年十月廿八日大地震以後ノ分ノミ取ル

凡テ地震計ヲ以テ觀測

(乙)																
高知	濱田	彦根	前橋	宇都宮	福島	石巻	宮古	山形	秋田	根室	鹿兒島	熊本	大分	廣島	和歌山	津
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十二年二月	二十六年二月	二十七年一月	二十九年十二月	二十四年一月	二十二年五月	十九年一月	十六年三月	二十二年十二月	十六年一月	十八年一月	十八年三月	二十二年七月	二十年一月	十七年十二月	十二年九月	明治二十二年七月
十六年十一月	六年十一月	六年	三年一月	九年	十年八月	十四年	十六年十月	十七年一月	十七年	十五年	十四年十月	十年六月	十三年	十五年一月	二十年四月	十年六月
同	同	観測ス	観測ス	同	同	同	同	同	明治二十七年七月	明治十九年八月	同	同	同	同	同	明治三十二年二月一日
二十六年十二月	二十七年七月	観測ス	観測ス	二十六年七月	二十八年三月	二十九年七月	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八十六回	三十回	二百四十五回	百二十六回	四百九十二回	八百五十七回	千零三十四回	七百零四回	百九十七回	三百七十三回	千三百四十三回	四百零六回	千五百七十八回	二百六十四回	百零七回	四百零四回	四百十六回

(總計)二十六個測候所ニ於ケル地震觀測ノ回數

一萬八千二百七十九回

二十六個測候所ノ内ニテ最早ク地震觀測ヲ始メタルハ函館ニシテ明治六年一月ヨリ三十二年十二月迄滿二十七年間ニ及ブ之ニ次ギテ觀測年間ノ長キハ、東京、札幌、和歌山ニシテ二十四年乃至二十年四月ナリ。地震計ヲ最早ク据ヘ付ケタルハ東京ナリ又未ダ全ク地震器械ノ備ヘ無キハ沼津、濱松ノ二測候所ニシテ共ニ静岡縣ニ屬ス

一年中ノ地震分布

五(東京及ビ岐阜ニ於ケル地震回數表) 東京及ビ

岐阜(例トシテ舉グ)ニ於ケル毎月地震度數ノ變化ヲ曲線ニテ現ハセバ特ニ數年間ノ平均數ヲ取ルコトナクシテ直チニ一年間及ビ半年間ノ周期ヲ認ムルコトヲ得ベシ

曲線ヲ畫ク方法ハ、 $x$ 軸ヲ時トシ(月或ハ四季別ニテ示ス)リテ $y$ ニ對スル地震度數、即 $x$ ナル月、若クハ季ニ起レル地震度數トナシテ(×)點ヲ記ルス而シテ直接ニ諸點(×)ヲ折線ニテ連結セシテ相隣レル各二點間ノ平均位置ヲ通ジテ自在畫法ヲ以テ折線(折線ハ混雜ヲ避クル爲圖中ニハ示サズ)ニ凡テ此等ノ位置ニ於テ切セシムル曲線ヲ畫グニアリ

東京ニ於ケル地震觀測ハ凡テ地震計ニ依ルモノナレバ非常ニ

貴重ナル研究材料ニシテ此レヨリ得ベキ一年中(或ハ一日中)ノ周期ニ關スル結果ハ勿論寒暖、晝夜等ノ別ニ從ヒテ觀測者生活上ノ状態ニ左右セラル、コトナキ正確ノモノナリト謂フベシ。第一圖(甲乙丙丁)ハ明治九年一月ヨリ三十二年十二月迄ノ東京毎月地震回數ヲ示ス、其(甲)、(乙)及ビ(丁)ニ於ケル點線ハ更ニ曲線ノ平均位置ヲ通ジテ畫シタルモノニシテ明瞭

ニ一ケ年間ノ周期ヲ示スヲ見ルベシ又(丙)ハ平均六ケ月間ノ周期ヲ示ス

第三圖中岐阜毎月地震回數ノ曲線ハ平均六ケ月間ノ周期ヲ示ス。比較ノ爲第三圖ニ根室及ビ名古屋ニ於ケル毎月地震回數ノ曲線ヲ與フ其根室曲線ハ粗ボ岐阜曲線ト同様ノ結果ヲ示スヲ見ルベシ、又名古屋曲線モ多少岐阜曲線ト相似タレドモ $a$ 、 $b$ 等ノ點ニ於ケル如ク却テ互ニ反スルノ狀アリ以テ場合ニ依リテハ相近キ地方ニテモ地震度數ノ變化ハ必ずシモ一致セザルコトアルヲ知ルベキナリ

六(各地ニ於ケル毎月及ビ每季地震回數表) 一般

一年中ノ地震分布ヲ見 $\nu$ 爲ニ各測候所ニ於ケル地震觀測ノ原記錄ヨリ毎月地震回數表ヲ製シ其ヨリシテ一ケ年中ノ平均

月別及ヒ四季別地震回数ヲ計算シタリ第二表〔甲一〕ヨリ〔甲十五〕同ク〔乙一〕ヨリ〔乙十一〕ニ示スガ如シ

各測候所月別地震回数表ノ下段ニ「合計」トアルハ一年十二ヶ月ノ毎月ニ對スル地震總回数ナリ、此レヲ觀測ノ年數ヲ以テ除シテ平均月別回数ヲ得タルモノトス。但シ平均月別回数ノ計算ニ於テハ測候所ノ附近若クハ遠距離ノ地ニ大地震或ハ強地震アリテ數多ノ餘震ヲ伴ヒ起コセル月ヲ省キタリ即チ其ノ結果ハ主トシテ平年（大地震ナキ年）ノ地震分布ヲ示スモノト認ムベキナリ。此ノ如クシテ省キタル月ハ表中ニ（\*）ヲ附シテ區別セリ之ヲ列記スレハ左ノ如シ

平均月別回数ノ計算ヨリ省キタル年月

〔東京〕  
明治廿四年十月（十月廿八日濃尾大地震ノ餘震）  
同 廿七年三月（三月廿二日北海道大地震ノ餘震）  
同 廿九年六月（六月十五日三陸大津浪ヲ起セル地震ノ餘震）

同 三十年八月（八月五日三陸ニ小津浪ヲ起セル地震ノ餘震）

〔沼津及ビ濱松〕明治廿四年十月（濃尾大地震ノ餘震）

〔名古屋及ビ岐阜〕明治廿四年、廿五年（十月廿八日濃尾

大地震及ビ九月廿八日激震ノ餘震）及ビ明治廿七年（同

年一月十日激震ノ餘震）

〔津〕明治廿四年十月ヨリ廿五年三月迄六ヶ月（廿四年十月廿八日濃尾大地震ノ餘震）

明治廿二年七月ヨリ十二月迄（七月廿八日熊本大地震直接ノ餘震）

〔熊本〕

同 廿七年八月ヨリ十二月迄（八月八日熊本強地震ノ餘震）

同 廿八年八月ヨリ十二月迄（八月廿七日熊本強地震ノ餘震）

〔鹿兒島〕

明治廿六年九月（九月七日知覽村大地震ノ餘震）  
同 廿七年一月（一月四日薩摩強地震ノ餘震）

〔根室〕

明治廿七年三月ヨリ十二月迄（三月廿二日北海道大地震ノ餘震）

〔秋田〕

明治廿九年八月及ビ九月（八月卅一日陸羽大地震ノ餘震）

明治廿九年六月（三陸大津浪ヲ起コセル地震ノ餘震）

〔宮古〕

同 年九月（八月卅一日陸羽大地震ノ餘震）  
同 三十年二月（二月廿日仙臺地方激震ノ餘震）

同 年八月（八月五日三陸小津浪ヲ起セル地震ノ餘震）

〔彥根〕明治廿七年一月（一月十日濃尾激震ノ餘震）

地震度數四季ノ分布ハ月別平均地震回數ヨリ得、即チ左ノ如クス

春 三、四、五月ノ平均月別地震回數ヲ合セルモノ

夏 六、七、八月 同上

秋 九、十、十一月 同上

冬 十二、一、二月 同上

各地ニ於ケル月別平均地震回數ノ最大數ヲ $a$ トシ、其最小數ヲ $b$ トス、又一月ヨリ十二月迄ノ毎月平均地震回數ヲ更ニ平均シタル數即每一ヶ月ノ平均地震度數ヲ $c$ トス $\leftarrow a$ ト $b$ ノ差ヲ $d$ トシ $\frac{d}{c}$ ナル比、即一ヶ年間ノ平均地震月別回數ノ増減ヲ百分率ニテ示シタルモノヲ $e$ トス $\leftarrow$ 同様ニ四季別ノ場合ニモ最大數ヲ $A$ トシ最小數ヲ $B$ トス、又每一季ノ平均地震回數ヲ $C$ トシ、 $A$ ト $B$ ノ差ヲ $D$ トシ $\frac{D}{C}$ ナル比、即チ一ヶ年間ノ平均季別地震回數ノ増減ヲ百分率ニテ示セルモノヲ $E$ トス $\leftarrow$ 此等ノ諸數ハ各表ノ終リニ附ス

第二表 (甲,一) 札幌 毎月地震回数  
 (明治九年九月ヨリ全三十二年十二月ニ至ル)  
 [明治十六年一月地震計据付ク]

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
明治九年									1	0	0	1	2
十年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
十一年	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	4
十二年	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
十三年	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
十四年	0	3	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	6
十五年	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	4
十六年	1	2	0	2	0	2	2	2	0	2	4	0	17
十七年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
十八年	0	0	1	0	0	1	2	0	2	2	0	0	8
十九年	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
廿年	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
廿一年	0	3	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6
廿二年	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
廿三年	0	1	1	0	1	0	0	0	1	1	2	0	7
廿四年	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
廿五年	1	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	6
廿六年	0	0	2	0	0	3	0	0	0	1	1	2	9
廿七年	0	4	5	3	1	2	1	3	4	2	2	3	30
廿八年	3	0	0	2	0	0	0	1	1	1	1	1	10
廿九年	0	2	1	1	0	0	0	0	0	3	3	1	11
三十年	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	5
卅一年	0	2	0	3	0	1	1	0	0	1	1	1	10
卅二年	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	0	0	5
合計	6	20	14	17	6	11	7	12	13	21	17	12	156
平均	0.26	0.87	0.61	0.74	0.26	0.48	0.30	0.52	0.54	0.88	0.71	0.50	6.67

(最小)  
= b

(最大)一ヶ月平均.....0.56  
= a

春 (三.四.五月).....1.61  
 夏 (六.七.八月).....1.30 (最小)=B  
 秋 (九.十.十一月).....2.13 (最大)=A  
 冬 (十二.一.二月).....1.63  
 每季平均回数 .....1.67 .....=C

暖期 (四月-九月)..... $\frac{1}{2}$ .....2.84       $D=A-B=0.83$        $E=\frac{D}{C}=\frac{1}{2.01}=50\%$

寒期 (十月-三月).....3.83       $d=a-b=0.62$        $e=\frac{d}{c}=\frac{1}{0.90}=111\%$



第二表 (甲,二) 函館毎月地震回数  
 (明治六年一月ヨリ同州二年十二月ニ至ル)  
 [明治十四年七月一日以降簡單地震計使用]  
 [同廿八年一月一日以降普通地震計使用]

年	月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治	六年	2	0	3	2	0	3	2	3	0	1	1	0	17
	七年	2	5	1	0	1	1	0	0	0	1	1	0	12
	八年	3	2	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	10
	九年	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	2	6
	十年	1	1	1	1	3	0	1	0	1	1	2	4	16
	十一年	1	0	1	0	0	1	1	1	3	0	1	0	9
	十二年	0	2	1	0	2	0	0	1	1	0	1	0	8
	十三年	0	1	1	0	0	1	0	2	2	0	0	1	8
	十四年	0	1	0	2	1	0	0	0	0	2	0	0	6
	十五年	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	1	5
	十六年	0	0	1	2	0	1	1	1	2	2	1	1	12
	十七年	1	1	0	0	2	1	0	2	1	0	3	1	12
	十八年	0	0	1	1	0	2	3	0	2	1	0	0	10
	十九年	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3
	二十年	0	3	0	0	2	0	2	2	0	0	1	0	10
	二十一年	1	1	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	7
	二十二年	2	1	1	3	1	0	1	1	1	12	1	1	25
	二十三年	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	5	0	8
	二十四年	0	1	0	2	0	1	1	0	0	1	1	3	10
	二十五年	2	0	0	1	0	0	1	2	0	2	0	0	8
	二十六年	1	1	1	0	1	4	0	0	1	2	0	1	12
	二十七年	0	3	5	3	3	2	1	0	0	2	3	1	23
	二十八年	2	1	0	0	1	1	0	0	0	2	0	1	8
	二十九年	1	3	0	5	1	3	1	1	2	2	1	0	20
	三十年	0	1	1	0	1	0	2	2	0	1	0	1	9
	三十一年	1	0	2	2	0	1	0	1	1	3	3	3	17
	三十二年	0	1	2	1	2	1	1	0	0	1	5	0	14
合計		20	29	25	27	23	25	21	20	19	38	35	23	305
平均		0.74	1.07	0.93	1.00	0.85	0.92	0.78	0.74	0.70	1.41	1.30	0.85	113.0

(最小)<sub>=b</sub>(最大)<sub>=a</sub> 一ヶ月平均.....0.94  
 .....<sub>=c</sub>

同  
 春 (三. 四. 五月).....2.78  
 夏 (六. 七. 八月).....2.45.....(最小)=B  
 秋 (九. 十. 十一月).....3.41.....(最大)=A  
 冬 (十二. 一. 二月).....2.66  
 每季平均回数.....2.82.....=C

暖期 (四月—九月).....<sup>同</sup>5.00  $D = A - B = 0.96$   $E = \frac{D}{C} = \frac{1}{2.9} = 34\%$   
 寒期 (十月—三月).....6.30  $d = a - b = 0.71$   $e = \frac{d}{c} = \frac{1}{1.3} = 76\%$

第二表(甲,三) 東京 毎月 地震 回数  
 (明治九年一月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)  
 [最初ヨリ地震計ニテ観測ス]

年	月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治	九年	3	4	6	11	5	3	3	5	3	3	4	6	56
	十年	4	5	6	5	8	9	6	4	1	8	6	9	71
	十一年	3	8	7	2	5	4	4	1	2	4	6	4	50
	十二年	6	7	14	0	9	4	3	4	1	7	6	9	70
	十三年	9	9	6	6	2	9	8	4	1	3	10	10	77
	十四年	13	8	8	8	4	3	3	3	2	3	3	8	66
	十五年	4	7	15	6	3	2	2	1	1	4	1	0	46
	十六年	6	0	3	3	6	2	3	1	0	1	3	4	32
	十七年	5	2	8	2	9	4	1	4	2	8	8	15	68
	十八年	7	9	8	4	3	6	0	3	8	10	3	7	68
	十九年	3	3	3	2	8	4	2	8	7	4	2	8	54
	二十年	10	4	3	8	13	5	6	2	10	0	5	14	80
	廿一年	4	15	7	7	11	9	9	7	11	4	13	4	101
	廿二年	5	16	11	18	13	7	5	8	7	8	9	6	113
	廿三年	5	5	6	15	14	5	12	7	4	8	10	2	93
	廿四年	1	4	6	7	10	7	8	4	4	45*	12	15	123
	廿五年	9	11	3	7	7	9	14	2	7	11	4	8	92
	廿六年	5	4	5	7	10	10	4	3	6	3	3	1	61
	廿七年	7	8	23*	11	9	9	6	3	8	4	8	5	101
	廿八年	20	9	8	17	11	12	11	5	10	17	6	3	129
	廿九年	42	17	15	21	10	51*	22	18	7	5	7	10	225
	三十年	11	18	11	8	17	6	11	32*	5	8	15	22	164
	卅一年	4	8	16	17	16	13	16	13	15	5	11	10	144
	卅二年	7	11	17	13	6	9	8	16	8	8	13	8	124
合計		193	192	215	205	209	202	167	158	130	181	168	188	2208
平均		8.1	8.0	8.3	8.5	8.7	6.6	7.0	5.5	5.4	5.9	7.0	7.8	86.8

(最大)  
=a

(最小)  
=b

一ヶ月平均.....7.2  
=c

春 (三.四.五月).....25.5...(最大)=A  
 夏 (六.七.八月).....19.1  
 秋 (九.十.十一月).....18.3...(最小)=B  
 冬 (十二.一.二月).....23.9

$$D = A - B = 7.2 \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{3.0} = 33\%$$

$$d = a - b = 3.3 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{2.2} = 46\%$$

毎季平均回数 .....21.7 .....=C

暖期 (四月-九月).....45.1  
 寒期 (十月-三月).....41.7

第二 (表甲,四) 新潟 毎月地震回数  
 (明治十九年四月ヨリ明治三十二年十二月ニ至ル)  
 (明治廿六年十二月地震計据付)  
 (同 廿七年一月観測ヲ始ム)

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合 計
明治十九年				1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
二十年	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
廿一年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
廿二年	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
廿三年	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
廿四年	2	1	0	29	9	4	0	0	1	2	0	0	48
廿五年	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	2	6
廿六年	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
廿七年	0	2	2	1	0	2	0	2	0	8	8	0	25
廿八年	1	0	0	1	1	0	5	0	0	2	0	0	10
廿九年	2	1	0	5	1	2	2	5	12	2	2	0	34
三十年	3	5	2	4	11	14	2	5	2	3	0	4	55
卅一年	2	1	4	2	7	6	2	0	0	3	0	0	27
卅二年	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
合 計	12	11	11	43	29	29	15	12	15	20	13	6	212
平 均	0.92	0.85	0.85	3.07	2.07	2.07	1.07	0.86	1.07	1.43	0.93	0.43	15.62

(最大)  
=a

(最小) 一ヶ月平均 1.30  
=b =c

回  
 春 (三.四.五月) 5.99 .....(最大)=A  
 夏 (六.七.八月) 4.00  
 秋 (九.十.十一月) 3.43  
 冬 (十二.一.二月) 2.20.....(最小)=B  
 每季平均回数 3.90.....=C

$$D = A - B = 3.79 \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{1.03} = 97\%$$

$$d = a - b = 2.64 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{0.49} = 203\%$$

回  
 暖 期(四月—九月) 10.21  
 寒 期(十月—三月) 5.41

第二表 (甲,五) 長野毎月地震回数  
 (明治廿二年三月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)  
 [明治廿二年四月地震計据付]

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治廿二年			1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3
廿三年	2	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	5
廿四年	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	3	7
廿五年	2	5	1	0	0	1	1	0	2	2	2	5	21
廿六年	0	2	2	0	3	0	4	3	2	5	5	3	29
廿七年	7	0	3	8	2	2	2	1	1	3	2	0	31
廿八年	3	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	6
廿九年	2	4	2	2	0	1	3	3	1	0	1	1	20
三十年	6	3	2	12	27	4	5	1	4	3	4	3	74
三十一年	0	3	3	1	1	2	3	1	0	17	9	7	47
三十二年	4	14	17	8	13	5	1	1	0	2	2	0	67
合計	26	31	32	32	48	16	19	10	12	36	26	22	310
平均	2.6	3.1	2.9	2.9	4.4	1.5	1.7	0.9	1.1	3.3	2.4	2.0	28.8

(最大)  
=a

(最小)  
=b

一ヶ月平均……2.4  
=c

回

春(三・四・五月)・10.2(最大)=A

夏(六・七・八月)……4.1(最小)=B

秋(九・十・十一月)……6.8

冬(十二・一・二月)……7.7

每季平均回数……7.2……=C

$$D = A - B = 6.1 \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{1.17} = 85\%$$

$$d = a - b = 3.5 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{0.71} = 146\%$$

回

暖期(四月—九月)……12.5

寒期(十月—三月)……16.3

第二未 (甲,六) 沼津毎月地震回数  
 (明治十七年十二月ヨリ同卅二年十二月ニ至ル)  
 [未ダ地震計ノ備付クナシ]

年	月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	合計
明治十七年													2	2
十八年		1	2	2	0	0	2	0	0	4	1	1	0	13
十九年		0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
二十年		5	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	8
廿一年		0	0	2	2	1	3	0	0	0	0	0	0	8
廿二年		1	1	0	2	1	1	0	0	0	2	0	1	9
廿三年		2	0	1	2	0	0	1	2	2	0	1	2	13
廿四年		0	2	1	0	0	0	0	0	1	8*	0	3	15
廿五年		2	1	1	0	0	2	0	0	1	1	2	0	10
廿六年		1	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	5
廿七年		4	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	12
廿八年		2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	6
廿九年		2	4	1	1	3	0	1	1	0	0	0	0	13
三十年		1	1	3	0	2	0	2	2	1	2	0	1	15
三十一年		0	1	5	4	0	2	3	1	1	1	3	0	21
三十二年		1	1	1	2	1	1	0	0	0	2	1	0	10
合計		22	15	21	16	10	12	8	7	15	18	9	9	162
平均		1.5	1.0	1.4	1.1	0.7	0.8	0.5	0.5	1.0	0.7	0.6	0.6	10.4

(最大)  
=a

(最小)  
=b

一ヶ月平均...0.9  
=c

回

春 (三.四.五月).....3.2(最大)=A

夏 (六.七.八月).....1.8(最小)=B

秋 (九.十.十一月).....2.3

冬 (十二.一.二月).....3.1

每季平均回数.....2.6.....=C

回  
 $D = A - B = 1.4$        $E = \frac{D}{C} = \frac{1}{1.9} = 54\%$

$d = a - b = 1.0$        $e = \frac{d}{c} = \frac{1}{0.9} = 111\%$

回  
 暖期 (四月—九月)...4.6  
 寒期 (十月—三月)...5.8

第二表 (甲,七) 濱松 毎月地震回数  
 (明治十八年一月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)  
 [未タ地震計ノ備付ケナシ]

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治十八年	0	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	5
十九年	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
二十年	3	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	8
廿一年	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3
廿二年	0	0	0	2	2	1	0	0	0	1	0	0	6
廿三年	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
廿四年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20*	13	6	39
廿五年	2	3	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	9
廿六年	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
廿七年	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
廿八年	1	1	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	6
廿九年	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
三十年	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3
三十一年	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	4
三十二年	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
合計	12	9	4	10	6	4	1	2	3	25	16	7	99
平均	0.80	0.60	0.27	0.67	0.40	0.27	0.07	0.13	0.20	0.36	1.07	0.47	5.31

(最小)  
=b

(最大)一ヶ月平均...0.4  
=a =c

回  
 春(三.四.五月)... 1.34  
 夏(六.七.八月)... 0.47(最小)=B  
 秋(九.十.十一月)... 1.63  
 冬(十二.一.二月)... 1.87(最大)=A  
 每季平均回数... 1.33... =C

$$D = A - B = 1.40 \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{0.95} = 105\%$$

$$d = a - b = 1.00 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{0.44} = 227\%$$

回  
 暖期(四月—九月)... 1.74  
 寒期(十月—三月)... 3.57

第二表(甲,八) 名古屋毎月地震回数  
 (明治廿九年十月廿九日ヨリ同三十二年末日ニ至ル)  
 [凡テ地震計観測ニ依ル]

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治廿四年										332*	407*	113*	852
廿五年	43*	29*	16*	11*	11*	12*	4*	15*	13*	12*	15*	15*	196
廿六年	8	5	11	11	16	9	14	14	8	9	4	8	117
廿七年	90*	29*	31*	19*	10*	19*	12*	17*	19*	19*	10*	11*	286
廿八年	31	16	18	10	11	8	5	2	8	20	7	7	143
廿九年	16	8	24	12	6	9	3	7	13	0	5	6	109
三十年	6	5	6	3	9	4	1	20	3	4	2	2	65
卅一年	3	3	3	7	1	1	5	10	1	1	3	4	42
卅二年	5	2	6	7	4	2	3	5	1	2	4	3	44
合計	202	97	115	80	68	64	47	90	66	399	457	169	1854
平均	11.5	6.5	11.3	8.3	7.8	5.5	5.2	9.7	5.7	6.0	4.2	5.0	86.7

(最大)  
=a

(最小) 一箇月平均...7.2  
=b =c

回  
 春(三.四.五月).....27.4(最大)=A  
 夏(六.七.八月).....20.4  
 秋(九.十.十一月).....15.9(最小)=B  
 冬(十二.一.二月).....23.0

每季平均回数.....21.7.....=C

$$D = A - B = 11.5 \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{1.9} = 53\%$$

$$d = a - b = 7.3 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{1.0} = 100\%$$

回  
 暖期(四月—九月).....42.2  
 寒期(十月—三月).....44.5

第二表 (甲,九) 岐阜毎月地震回数  
 (明治廿四年十月廿九日ヨリ同卅二年十二月末日ニ至ル)  
 [凡テ地震計観測ニ依ル]

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治廿四年										617*	1086*	416*	2119
廿五年	164*	114*	87*	90*	54*	30*	35*	52*	107*	47*	48*	39*	867
廿六年	31	20	52	59	32	12	18	13	20	19	16	16	308
廿七年	62*	14*	19*	8*	5*	16*	19*	19*	12*	6*	29*	20*	229
廿八年	21	17	10	24	19	18	8	10	14	18	6	7	172
廿九年	12	9	4	9	4	14	17	10	10	9	7	13	118
三十年	22	15	11	6	20	7	2	7	8	9	22	8	137
三十一年	6	6	9	15	6	9	5	6	5	13	16	5	101
三十二年	4	7	3	12	2	2	4	3	1	5	10	9	62
合計	322	202	195	223	142	108	108	120	177	743	1240	533	4113
平均	16.0	12.3	14.8	20.8	13.8	10.3	9.0	8.2	9.7	12.2	12.8	9.7	149.6

(最大) = a                      (最小) = b                      一箇月平均.....12.5 = c

回  
 春 (三.四.五月).....49.4(最大)=A  
 夏 (六.七.八月).....27.5(最小)=B  
 秋 (九.十.十一月).....34.7  
 冬 (十二.一.二月).....38.0

每季平均回数.....37.4.....=C

$$D = A - B = 21.9 \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{1.7} = 59\%$$

$$d = a - b = 12.6 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{1.0} = 100\%$$

回  
 暖期(四月—九月).....71.8  
 寒期(十月—三月).....77.8

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布



第二表 (甲,十) 津 毎 月 地 震 回 數  
 (明治二十二年七月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)  
 [明治三十二年二月一日地震計据付ク]

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合 計
明治廿二年							1	2	2	4	0	0	9
„ 廿三年	1	0	3	1	0	1	0	1	2	0	4	5	18
„ 廿四年	1	1	2	0	0	0	1	1	0	141*	89*	24*	260
„ 廿五年	12*	10*	7*	4	1	1	1	7	2	4	0	4	53
„ 廿六年	2	2	1	1	1	2	0	0	0	0	1	1	11
„ 廿七年	12	1	1	0	1	1	0	0	0	0	3	1	20
„ 廿八年	1	2	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	7
„ 廿九年	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	4
„ 三十年	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
„ 三十一年	1	0	1	2	0	0	0	1	0	0	2	1	8
„ 三十二年	1	1	11	6	1	0	2	0	1	0	1	1	25
合 計	32	17	26	15	7	6	6	13	7	150	100	37	416
平 均	2.2	0.8	2.1	1.5	0.7	0.6	0.5	1.2	0.6	0.9	1.1	1.3	13.5

(最大)  
=a

(最小)  
=b

一箇月平均...1.1  
=c

回

春(三.四.五月).....4.3(最大)=A

夏(六.七.八月).....2.3

秋(九.十.十一月).....2.6(最小)=B

冬(十二.一.二月).....4.3(最大)=A

每季平均回數.....3.4.....=C

$$D = A - B = 1.7 \quad \text{回} \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{2.00} = 50\%$$

$$d = a - b = 1.7 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{0.65} = 155\%$$

回

暖期(四月—九月).....5.1

寒期(十月—三月).....8.4

第二表 (甲,十一) 和歌山 毎月地震回数  
 (明治十二年九月ヨリ同卅二年十二月ニ至ル)  
 [明治廿一年一月地震計据付ケ]

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合 計
明治十二年									2	0	0	1	3
十三年	0	0	0	1	2	2	2	0	0	1	0	1	9
十四年	0	0	1	1	1	1	2	0	0	0	0	0	6
十五年	1	1	0	1	2	0	1	2	1	0	1	0	10
十六年	1	0	2	1	2	0	2	2	3	2	1	0	16
十七年	1	3	2	2	2	1	1	2	5	2	1	6	28
十八年	0	2	1	0	3	1	2	2	2	1	1	1	16
十九年	4	1	4	1	4	2	0	0	1	3	2	0	22
二十年	0	2	0	3	0	1	2	1	2	0	1	1	13
廿一年	2	0	0	1	3	1	2	0	2	3	1	1	16
廿二年	2	3	2	1	2	0	1	0	0	1	0	1	13
廿三年	1	2	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	9
廿四年	1	0	0	2	2	2	2	3	1	5	5	2	25
廿五年	3	2	1	3	2	3	1	1	2	2	1	0	21
廿六年	1	0	2	1	1	0	1	1	1	1	5	2	15
廿七年	4	1	6	3	3	2	2	2	2	2	0	3	30
廿八年	9	3	0	2	0	1	2	1	1	2	1	2	24
廿九年	0	1	1	2	7	3	6	1	1	2	3	0	27
三十年	4	2	1	3	5	4	3	4	5	0	2	0	33
卅一年	2	0	3	6	4	5	1	2	2	1	2	3	31
卅二年	2	2	14	3	1	3	4	4	0	2	3	1	39
合 計	37	25	41	38	46	32	38	28	34	30	31	26	406
平 均	1.8	1.2	2.0	1.9	2.3	1.6	1.9	1.4	1.7	1.4	1.5	1.2	19.9

(最小)  
=b

(最大)  
=a

一ヶ月平均.....1.6  
=c

春(三.四.五月).....6.2(最大)=A

夏(六.七.八月).....4.9

秋(九.十.十一月).....4.6

冬(十二.一.二月).....4.2(最小)=B

每季平均數回 .....4.9.....=C

暖期(四月—九月).....10.8  $D = A - B = 2.0$   $E = \frac{D}{C} = \frac{1}{2.5} = 40\%$

寒期(十月—三月).....9.1  $d = a - b = 1.1$   $e = \frac{d}{c} = \frac{1}{1.5} = 67\%$

第二表 (甲,十二) 廣島 毎月地震回数

(明治十七年十二月ヨリ同州二年十二月ニ至ル)

[明治廿五年十二月地震計据付ク但器械ニ故障アリ]

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及び一日中ノ分布

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合 計
明治十七年												1	1
十八年	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	2	0	5
十九年	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
二十年	3	2	1	1	2	0	0	1	0	1	1	0	12
廿一年	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	2	2	8
廿二年	1	1	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	7
廿三年	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
廿四年	0	0	1	0	1	0	2	2	0	2	0	0	8
廿五年	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	5
廿六年	0	3	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	6
廿七年	0	0	0	2	3	0	0	1	0	1	1	0	8
廿八年	1	2	0	0	0	0	1	2	0	2	1	0	9
廿九年	0	1	0	1	0	0	0	1	1	1	1	0	6
三十年	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	5
卅一年	0	1	0	4	0	0	1	0	1	1	1	3	12
卅二年	2	1	2	0	1	1	0	0	0	2	2	0	11
合 計	12	11	6	10	9	5	9	8	6	12	12	7	107
平 均	0.8	0.7	0.4	0.7	0.6	0.3	0.6	0.5	0.4	0.8	0.8	0.4	7.0

(最大)  
=a

(最小)  
=b

(最大)  
=a

一月平均...0.6  
=c

春(三.四.五月).....<sup>回</sup>1.7  
 夏(六.七.八月).....1.4 (最小)=B  
 秋(九.十.十一月).....2.0 (最大)=A  
 冬(十二.一.二月).....1.9

每季平均回数.....1.75.....=C

$$D = A - B = 0.6 \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{2.9} = 86\%$$

$$d = a - b = 0.5 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{1.2} = 34\%$$

暖期(四月—九月).....<sup>回</sup>3.1

寒期(十月—三月).....3.9

第二表 (甲,十三) 大分 毎月地震回数

(明治廿年一月ヨリ同卅二年十二月ニ至ル)

[明治二十一年一月小形鋌形地震計据付ク全二十八年一月新器据付ク]

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合 計
明治二十年	1	0	0	1	0	1	0	1	2	1	0	0	7
廿一年	1	0	0	2	2	0	0	4	2	2	2	4	19
廿二年	6	4	5	1	5	2	8	6	1	1	2	1	42
廿三年	2	0	2	4	1	3	3	2	0	4	3	5	29
廿四年	2	5	6	8	1	1	2	1	0	12	17	5	60
廿五年	1	4	1	2	0	0	0	0	2	1	0	0	11
廿六年	0	1	0	0	0	0	0	0	3	2	0	1	7
廿七年	4	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	8
廿八年	1	0	3	0	2	1	0	1	0	1	1	0	10
廿九年	1	2	0	2	1	2	0	2	0	0	0	0	10
三十年	2	1	1	1	0	0	1	1	2	0	2	0	11
卅一年	0	1	1	2	0	0	2	5	3	3	2	5	24
卅二年	2	5	3	4	0	2	2	2	1	1	2	2	26
合 計	23	23	22	28	12	14	18	26	16	28	31	23	264
平 均	1.8	1.8	1.7	2.2	0.9	1.1	1.4	2.0	1.2	2.2	2.4	1.8	20.5

(最小)  
=b

(最大)一ヶ月平均...1.7  
=a =c

春(三.四.五月).....<sup>回</sup>4.8  
 夏(六.七.八月).....4.5(最小)=B  
 秋(九.十.十一月).....5.8(最大)=A  
 冬(十二.一.二月).....5.4  
 每季平均回数.....5.1.....=C

$$D = A - B = 1.3 \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{3.9} = 25\%$$

$$d = a - b = 1.5 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{1.1} = 88\%$$

暖期(四月—九月).....<sup>回</sup>8.8  
 寒期(十月—三月).....11.7

第二表 (甲,十四) 熊本 毎月地震回数  
 (明治廿二年七月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)  
 [明治二十三年二月ヨリ地震計ニテ観測但三十年八月ヨリ新器械据付ク]

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治廿二年							113*	243*	41*	77*	51*	41*	566
廿三年	15	8	39	16	34	26	20	19	14	6	7	3	207
廿四年	8	19	6	9	7	7	2	1	0	11	9	9	88
廿五年	3	3	3	3	7	3	4	1	2	5	3	2	39
廿六年	2	1	1	1	0	1	0	0	9	8	3	0	26
廿七年	7	4	0	0	2	2	2	123*	37*	13*	17*	12*	219
廿八年	7	10	3	14	8	6	0	34*	30*	22*	21*	7*	162
廿九年	19	16	10	10	9	13	0	10	7	13	1	3	111
三十一年	5	1	6	6	2	6	4	3	6	6	2	8	55
卅一年	7	6	2	10	10	6	3	10	7	2	6	6	75
卅二年	9	2	4	2	0	2	2	1	0	2	6	2	32
合計	82	70	74	71	79	72	150	445	153	165	126	93	1578
平均	8.2	7.0	7.4	7.1	7.9	7.2	3.7	5.6	5.6	6.6	4.6	4.1	75.0

(最大)  $=a$  (最小)  $=b$  一ヶ月平均...  $6.3 = c$

春(三.四.五月)..... $22.4$ (最大) $=A$   
 夏(六.七.八月)..... $16.5$ (最小) $=B$   
 秋(九.十.十一月)..... $16.8$   
 冬(十二.一.二月)..... $18.3$

每季平均回数..... $18.8$ ..... $=C$

$$D = A - B = 5.9 \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{3.2} = 31\%$$

$$d = a - b = 4.5 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{1.4} = 71\%$$

暖期(四月—九月)..... $37.1$   
 寒期(十月—三月)..... $37.9$

第二表 (甲,十五) 鹿兒島 毎月地震回数  
 (明治十八年三月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)  
 (明治二十一年十一月[ミルソ]氏地震計据付ケ)  
 (同 三十二年 一月九日 新器 据付ケ)

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治十八年			1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	7
十九年	2	1	1	0	0	0	1	1	1	1	0	0	8
二十年	3	1	0	2	0	0	1	0	0	0	2	1	10
二十一年	4	9	6	6	0	1	0	1	3	9	2	6	47
二十二年	3	0	2	0	0	1	1	5	6	6	1	3	28
二十三年	1	5	0	2	9	3	3	3	1	1	0	2	30
二十四年	0	3	1	1	0	1	2	0	2	3	0	0	13
二十五年	0	1	3	2	1	1	0	1	0	2	0	0	11
二十六年	0	0	0	1	1	0	0	1	17*	3	1	4	28
二十七年	24*	4	8	4	0	0	0	2	0	0	0	0	42
二十八年	1	0	1	2	1	2	1	4	1	2	2	0	17
二十九年	0	1	0	6	11	3	1	1	0	0	1	4	28
三十年	0	0	0	3	0	0	0	0	2	1	1	1	8
三十一年	0	0	0	2	3	5	0	3	2	4	14	6	39
卅二年	7	9	5	20	4	7	11	4	13	8	2	0	90
合計	45	34	28	51	30	25	21	27	49	41	27	28	406
平均	1.6	2.4	1.9	3.4	2.0	1.7	1.4	1.8	2.3	2.7	1.8	1.9	24.9

(最大)  $=a$                       (最小)  $=b$                       一ヶ月平均.....2.1  $=c$

春 (三. 四. 五月).....7.3(最大)=A  
 夏 (六. 七. 八月).....4.9(最小)=B  
 秋 (九. 十. 十一月).....6.8  
 冬 (十二. 一. 二月).....5.9

每季平均回数.....6.2.....=C

$$D = A - B = \frac{\text{回}}{2.4} \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{2.6} = 39\%$$

$$d = a - b = 2.0 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{1.1} = 95\%$$

暖期(四月—九月).....12.6

寒期(十月—三月).....12.3

第二表 (乙,一) 根室毎月地震回数(其一)  
 (明治十八年ヨリ同廿六年ニ至ル)  
 [明治十九年八月地震計据へ付ク]

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合 計
明治十八年	0	0	3	1	1	4	5	1	4	7	6	1	33
十九年	2	5	4	3	3	3	2	4	4	5	2	6	43
二十年	2	2	0	2	7	2	5	5	1	1	3	3	33
廿一年	0	3	4	0	1	2	1	2	1	2	1	1	18
廿二年	6	3	1	3	7	2	7	3	6	3	3	4	48
廿三年	3	3	3	6	7	6	0	3	4	2	10	7	54
廿四年	2	3	7	3	2	3	3	3	2	4	2	11	45
廿五年	5	1	1	2	3	0	2	1	4	5	3	3	30
廿六年	3	1	2	2	4	12	4	5	5	4	4	2	48
合 計	23	21	25	22	35	34	29	27	31	33	34	38	352





第二表 (乙,二) 秋田 毎月地震回数  
 (明治十六年一月ヨリ同卅二年十二月ニ至ル)  
 [明治廿七年七月地震計据付ク]

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治十六年	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
十七年	0	0	2	1	4	0	0	1	0	0	1	0	9
十八年	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
十九年	0	1	0	2	2	0	1	0	0	0	0	2	8
二十年	1	0	0	1	3	0	1	0	0	0	0	2	8
廿一年	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	5
廿二年	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	4
廿三年	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	4	1	7
廿四年	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
廿五年	0	0	0	0	0	0	1	0	7	0	0	1	3
廿六年	1	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	5
廿七年	0	2	2	1	0	1	0	1	0	7	3	2	19
廿八年	2	0	0	1	1	1	3	1	0	0	0	1	10
廿九年	1	0	0	2	1	10	2	67*	102*	9	3	0	197
卅一年	0	5	2	1	2	2	5	14	4	1	1	3	40
卅二年	3	0	2	5	1	0	4	3	0	1	1	0	20
合計	12	16	11	16	18	22	24	90	110	25	16	13	373
平均	0.71	0.94	0.65	0.94	1.06	1.29	1.41	1.44	0.50	1.47	0.94	0.76	12.11

(最小) (最大) 一ヶ月平均.....1.01  
 =b =a =c

春(三.四.五月).....<sup>回</sup>2.65  
 夏(六.七.八月).....4.14(最大)=A  
 秋(九.十.十一月).....2.91  
 冬(十二.一.二月).....2.41(最小)=B

每季平均回数.....3.03.....=C

$D = A - B = 1.73$        $E = \frac{D}{C} = \frac{1}{1.75} = 57\%$

$d = a - b = 0.97$        $e = \frac{d}{c} = \frac{1}{1.04} = 96\%$

暖期(四月—九月).....<sup>回</sup>6.64  
 寒期(十月—三月).....5.47

第二表 (乙三) 山形 毎月地震回数

明治廿二年十二月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル  
 (明治二十二年七月地震計据付ク)  
 (但自明治廿五年六月至明治廿七年八月使用停止)

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治廿二年												1	1
廿三年	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
廿四年	0	0	1	4	5	0	3	0	0	0	0	0	13
廿五年	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
廿六年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
廿七年	2	1	1	0	0	0	0	1	0	5	0	0	10
廿八年	1	0	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0	7
廿九年	5	1	1	7	7	15	7	11	8	0	1	1	64
卅一年	1	5	3	0	9	5	5	16	1	1	0	5	51
卅二年	4	1	1	5	4	3	4	2	2	0	0	2	28
卅三年	0	3	2	2	1	0	0	2	0	0	0	0	10
合計	13	14	9	19	29	26	20	32	13	6	1	15	197
平均	1.3	1.4	0.9	1.9	3.0	2.6	2.0	3.2	1.3	0.6	0.1	1.4	19.7

(最大)  
=a

(最小)一ヶ月平均...6.1  
=b =c

春 (三. 四. 五月).....<sup>回</sup>5.8

夏 (六. 七. 八月).....7.8(最大)=A

秋 (九. 十. 十一月).....2.0(最小)=B

冬 (十二. 一. 二月).....4.1

每季平均回数.....4.9.....=C

$$D = A - B = 5.8 \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{0.84} = 118\%$$

$$d = a - b = 3.1 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{0.52} = 194\%$$

暖期 (四月—九月).....<sup>回</sup>14.0

寒期 (十月—三月).....5.7

第二表 (乙,四) 宮古 毎月地震回数

(明治十六年三月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)

(明治二十九年六月地震計据へ付ケ、但其前ニモ地震計ヲ備へア)  
(リシガ不完全ナリキ)

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治十六年			1	1	1	0	1	1	1	1	2	0	9
十七年	1	0	0	0	3	2	0	2	0	0	0	1	9
十八年	0	0	0	1	0	2	0	0	0	2	0	2	7
十九年	1	1	0	2	2	1	1	1	0	0	0	1	10
二十年	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	6
廿一年	0	3	0	1	1	0	1	1	0	0	0	2	9
廿二年	2	1	2	0	1	4	2	0	0	4	2	2	20
廿三年	0	0	0	1	0	2	0	0	2	1	2	1	9
廿四年	0	0	1	4	4	3	0	1	0	3	1	3	20
廿五年	1	1	0	1	2	1	3	1	0	2	0	0	12
廿六年	1	0	0	0	1	4	5	1	4	2	1	2	21
廿七年	0	2	7	2	1	1	3	1	2	5	5	3	32
廿八年	4	1	3	2	3	4	4	2	3	2	1	3	32
廿九年	5	4	1	16	1	59*	24	34	28*	7	9	1	189
三十年	6	42*	8	7	8	12	9	42*	7	12	12	12	177
卅一年	7	4	11	11	7	5	8	12	4	2	3	2	76
卅二年	2	4	9	6	2	6	5	7	3	9	11	2	66
合計	32	63	44	55	38	106	67	106	55	52	49	37	704
平均	2.0	1.4	2.6	3.2	2.2	2.9	3.9	4.0	1.7	3.1	2.9	2.2	32.1

(最小)  
=b

(最大)  
=a

一ヶ月平均.....2.7  
=c

春(三.四.五月).....8.0

夏(六.七.八月).....10.8(最大)=A

秋(九.十.十一月).....7.7

冬(十二.一.二月).....5.6(最小)=B

每季平均回数.....8.0.....=C

$D = A - B = 5.2$

$E = \frac{D}{C} = \frac{1}{1.5} = 96\%$

暖期(四月—九月).....17.9

$d = a - b = 2.6$

$e = \frac{d}{c} = \frac{1}{1.0} = 65\%$

寒期(十月—三月).....14.2

第二表 (乙,五) 石 卷 每 月 地 震 回 數  
 (明治十九年一月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)  
 [明治廿九年七月以降大形鏡形地震計使用]  
 [其前使用小形地震計据付年月不詳]

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合 計
明治十九年	3	1	1	2	2	0	1	0	1	0	1	4	16
二十年	3	3	1	3	5	0	2	1	0	0	0	0	18
廿一年	0	4	0	2	3	0	1	2	0	1	2	4	19
廿二年	2	2	1	0	0	1	1	2	0	4	1	4	18
廿三年	1	1	1	2	1	3	0	1	1	4	8	3	26
廿四年	0	1	3	7	7	4	5	3	5	10	24	13	82
廿五年	10	9	5	9	3	4	12	9	3	6	3	2	75
廿六年	1	0	5	4	7	33	24	14	22	12	25	9	156
廿七年	2	2	5	2	6	6	27	25	27	15	15	7	139
廿八年	2	4	4	14	6	6	3	2	3	1	2	3	50
廿九年	1	1	0	1	1	4	12	12	18	11	11	1	73
三十年	4	17	12	11	19	6	14	49	7	13	12	10	174
卅一年	11	3	9	15	21	7	14	8	11	5	6	7	117
卅二年	2	11	7	12	4	3	3	8	10	5	3	3	71
合 計	42	59	54	84	85	77	119	136	108	87	113	70	1034
平 均	3.0	4.2	3.9	6.0	6.0	5.5	8.5	9.7	7.7	6.2	8.1	5.0	73.8

(最小) = b (最大) = a 一ヶ月平均.....6.1 = c

春(三. 四. 五月).....15.9  
 夏(六. 七. 八月).....23.7(最大)=A  
 秋(九. 十. 十一月).....22.0  
 冬(十二. 一. 二月).....12.2(最小)=B  
 每季平均回數.....18.4.....=C

$$D = A - B = 11.5 \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{1.6} = 62\%$$

$$d = a - b = 6.7 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{0.93} = 110\%$$

暖期(四月ヨリ九月迄).....43.4  
 寒期(十月ヨリ三月迄).....30.4

第二表 (乙六) 福 嶋 毎 月 地 震 回 數  
 (明 治 廿 二 年 五 月 ヲ ヲ 卅 二 年 十 二 月 ニ 至 ル)  
 [明 治 廿 八 年 三 月 廿 七 日 地 震 計 据 付 ケ]

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合 計
明治廿二年					1	2	0	2	1	3	8	5	22
廿三年	2	2	2	6	5	2	1	0	3	3	4	2	32
廿四年	0	2	1	2	3	2	4	1	2	1	3	1	22
廿五年	2	4	0	4	1	2	5	1	0	0	1	2	22
廿六年	2	1	2	2	9	16	7	4	2	1	1	2	49
廿七年	1	2	9	5	2	3	3	3	2	9	5	3	47
廿八年	6	1	4	9	2	10	9	6	8	6	3	4	68
廿九年	22	13	12	40	9	39	22	20	21	7	7	5	217
三十年	9	27	13	6	8	3	15	41	6	11	13	19	174
卅一年	8	3	13	18	7	7	7	3	6	0	4	3	79
卅二年	0	5	11	13	19	5	4	12	10	17	23	26	125
合 計	52	60	67	105	66	91	77	93	64	58	72	52	857
平 均	5.2	6.0	6.7	10.5	6.0	8.3	7.0	8.5	5.8	5.3	6.5	4.7	80.5

(最大)  
=a

(最小)  
=b

一ヶ月平均……6.7  
=c

春(三. 四. 五月)……<sup>回</sup>23.2

夏(六. 七. 八月)……23.8(最大)=A

秋(九. 十. 十一月)……17.6

冬(十二. 一. 二月)……15.9(最小)=B

每季平均回數……20.1……=C

$$D - A - B = \frac{\text{回}}{7.9} \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{2.6} = 39\%$$

$$d = a - b = 5.8 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{1.2} = 83\%$$

暖期(四月—九月)……<sup>回</sup>46.1

寒期(十月—三月)……34.4

第二表 (乙,七) 宇都宮 毎月地震回数  
 (明治廿四年一月ヨリ同卅二年十二月ニ至ル)  
 [明治廿六年七月地震計据付ク]

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治廿四年	0	4	1	3	4	3	2	2	1	6	3	3	32
廿五年	5	6	1	4	0	4	2	0	2	4	3	2	33
廿六年	4	1	2	5	2	5	1	1	2	0	1	2	26
廿七年	2	4	2	4	0	4	5	3	3	3	10	3	43
廿八年	14	3	4	7	4	7	7	3	2	10	2	3	66
廿九年	10	10	5	2	6	9	4	11	1	1	0	3	62
三十年	5	6	3	3	15	4	5	16	9	9	4	11	90
卅一年	5	3	6	9	3	9	14	6	6	8	8	8	85
卅二年	4	3	9	7	5	1	6	8	2	6	3	1	55
合計	49	40	33	44	39	46	46	50	28	47	34	36	492
平均	5.4	4.4	3.7	4.9	4.3	5.1	5.1	5.6	3.1	5.2	3.8	4.0	54.6

(最大)(最小) 一ヶ月平均……4.6  
 =a =b =c

春(三. 四. 五月)……<sup>回</sup>12.9  
 夏(六. 七. 八月)……15.8(最大)=A  
 秋(九. 十. 十一月)……12.1(最小)=B  
 冬(十二. 一. 二月)……13.8  
 每季平均回数……13.7……=C

$$D = A - B = \overset{\text{回}}{3.7} \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{3.7} = 27\%$$

$$d = a - b = 2.5 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{1.8} = 55\%$$

暖期(四月—九月)……<sup>回</sup>28.1  
 寒期(十月—三月)……26.5

第二表 (乙,八) 前橋 毎月地震回数  
 (明治廿九年十二月ヨリ同卅二年十二月ニ至ル)  
 [最初ヨリ地震計ヲ以テ觀測ス]

年 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治廿九年												2	2
三十年	2	5	3	0	4	1	3	4	1	5	1	2	31
三十一年	1	1	3	2	2	5	7	5	9	5	6	4	50
三十二年	2	2	11	6	1	0	3	5	0	2	6	5	43
合計	5	8	17	8	7	6	13	14	10	12	13	13	126
平均	1.7	2.7	5.7	2.7	2.3	2.0	4.3	4.7	3.3	4.0	4.3	3.3	41.0

(最小) = b      (最大) = a      一ヶ月均平.....3.4 = c

春(三. 四. 五 月).....<sup>回</sup>10.7  
 夏(六. 七. 八. 月).....11.0  
 秋(九. 十. 十一月).....11.6(最大)=A  
 冬(十二. 一. 二月).....7.7(最小)=B  
 每季平均回数.....10.3.....=C

$$D = A - B = 3.9 \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{2.64} = 38\%$$

$$d = a - b = 4.0 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{0.85} = 118\%$$

暖期(四月—九月).....<sup>回</sup>19.3  
 寒期(三月—十月).....21.7





第二表 (乙,十) 高知 毎月地震回数

(明治十六年ヨリ三十二年ニ至ル)

[明治二十六年十二月地震計据へ付ク]

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治十六年	0	1	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	5
十七年	0	0	0	0	2	1	0	2	0	0	0	2	7
十八年	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
十九年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二十年	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	5
廿一年	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4
廿二年	0	1	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	5
廿三年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
廿四年	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	4
廿五年	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
廿六年	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4
廿七年	2	3	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	8
廿八年	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	3
廿九年	0	2	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	5
三十年	1	1	1	4	0	0	1	0	2	0	1	0	11
卅一年	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	2	3	11
卅二年	1	1	2	0	1	2	1	0	0	2	2	0	12
合計	6	10	8	8	4	9	7	6	5	7	7	9	86
平均	0.35	0.59	0.47	0.47	0.24	0.53	0.41	0.35	0.29	0.41	0.41	0.53	5.05

(最大)  
=a

(最小)  
=b

一ヶ月平均.....0.42  
=c

春(三.四.五月).....<sup>回</sup>1.18

夏(六.七.八月).....1.29

秋(九.十.十一月).....1.11(最小)=B

冬(十二.一.二月).....1.47(最大)=A

每季平均回数.....1.26.....=C

$$D = A - B = \overset{\text{回}}{0.36} \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{3.5} = 29\%$$

$$d = a - b = 0.35 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{1.2} = 83\%$$

暖期(四月—九月).....<sup>回</sup>2.29

寒期(十月—三月).....2.76

第二表 (乙,十一) 濱田 毎月地震回数  
 (明治二十六年ヨリ同卅二年ニ至ル)  
 [明治二十七年七月地震計据ニ付ク]

年	月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
明治廿六年		0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
廿七年		0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
廿八年		0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	4
廿九年		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
三十一年		2	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	7
卅一年		0	0	0	1	1	0	0	2	0	1	0	2	7
卅二年		0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	1	1	6
合計		2	2	2	1	1	1	1	4	3	6	3	4	30
平均		0.29	0.29	0.29	0.14	0.14	0.14	0.14	0.57	0.43	0.86	0.43	0.57	4.29

(最小)  
=b

(最大) 一ヶ月平均.....0.36  
=a =c

春(三. 四. 五月).....<sup>回</sup>0.57(最小)=B

夏(六. 七. 八月).....0.85

秋(九. 十. 十一月).....1.72(最大)=A

冬(十二. 一. 二月).....1.15

每季平均回数.....1.07.....=E

$$D = A - B = 1.15 \quad E = \frac{D}{C} = \frac{1}{0.93} = 107\%$$

$$d = a - b = 0.72 \quad e = \frac{d}{c} = \frac{1}{0.50} = 200\%$$

暖期(四月—九月).....<sup>回</sup>1.56

寒期(十月—三月).....2.73

### 七(地震度數一年中ノ變化ハ諸地方必ズシモ同

一ナラザルコト) 第二表が與フル地震度數一年中ノ變化ヲ圖解ニテ明カナラシムル爲、第四圖(一)ヨリ(五)迄、並ニ第五圖(一)ヨリ(三)迄ニ於テ四季別地震度數ヲ曲線ニテ示ス

第四圖及ビ第五圖ヲ相比較スレバ諸地方ニ於ケル地震度數四季ノ變化ハ全ク同一ニアラズシテ主トシテ左ノ如ク殆ド互ニ反對セル甲、乙ノ二種ニ大別シ得ルヲ見ルベシ

(甲)、四季中最大地震度數が春(一ニノ場合ニハ冬)ニアリテ最小地震度數が夏若クハ秋(一ニノ場合ニハ冬)ニアルモノ

(乙)、四季中最大地震度數が夏(秋ノ場合一ヶ所アリ)ニアリテ最小地震度數が冬若クハ秋ニアルモノ

(甲)ニ屬スル地方ハ北ヨリ數フレバ東京、新潟、長野、沼津、濱松、名古屋、岐阜、津、和歌山、廣島、熊本、鹿兒島ノ諸地方ナリ其他ニ札幌、函館、大分三ヶ所ニ於ケル地震度數四季ノ分市ハ少シク前記諸地方トハ異ナレドモ最小地震度數が夏ニアルヲ以テ同一種類ニ屬スルモノト見做シタリ

(乙)ニ屬スル地方ハ同シク北ヨリ數フレバ根室、秋田、山形、宮古、石巻、福島、宇都宮、前橋、彦根、濱田、高知ノ諸地方ナリ

但シ濱田、高知二ヶ所ニ於ケル地震觀測ノ回数ハ少ナクシテ充分ノ材料ヲ與フルモノトハ認め難キモ暫ク其儘ニ存シ置キタリ

第一表中ニ二十六個ノ測候所ヲ(甲)、(乙)ノ二類ニ分チタルハ即本章ノ區別法ニ本キタルモノナリ。次ニ與フル地震度數一年中ノ分布ニ關スル諸表中ニモ亦皆同様ノ區別ヲ用井タリ

### 八(地震度數一年中變化ノ割合) 第三表ニ諸地方ニ

於ケル地震度數一年中變化ノ割合、即月別並ビニ四季別平均地震回数一年中ノ増減ヲ百分率ニテ示セル結果ヲ與フ

第三表中 e d e C D E ノ意義ハ第〔六〕章ニ記シタルガ如シ e 及ビ E ハ此ニ所謂地震度數一年中變化ノ割合ニシテ e ハ月別ケ數ニ關シ、E ハ四季別ケ數ニ關ス、又 S ハ以上ノ諸數ヲ計算スルニ利用シタル各地ニ於ケル地震總回数ナリ

第三表 各地方地震度数一年中變化ノ割合

S=計算ニ用ヰタル地震總回数

$c$  = 一ヶ月平均地震回数,  $C$  = 毎季平均地震回数,  
 $d$  = 一ヶ月間地震回数ノ最大數ト最小數トノ差,  $D$  = 一季間地震回数ノ最大數ト最小數トノ差,  
 $e = \frac{d}{c}$  = 一年間月別地震回数増減ノ割合,  $E = \frac{D}{C}$  = 一年間四季別地震回数増減ノ割合,

測候所	月別			四季別			S	記 事
	c	d	e %	C	D	E %		
(甲)								
札幌	0.56	0.62	111	1.67	0.83	50	156	大部分器械ニ依ル.
函館	0.94	0.71	76	2.82	0.96	34	305	大部分器械ニ依ル.
東京	7.2	3.3	46	21.7	7.2	33	2056	全ク器械ニ依ル.
新潟*	1.30	2.64	203	3.90	3.79	97	216	大部分器械ニ依ル.
長野	2.4	3.5	146	7.2	6.1	85	310	全ク器械ニ依ル.
沼津	0.9	1.0	111	2.6	1.4	54	154	全ク人体ノ感覺ニ依ル.
濱松*	0.45	1.00	222	1.33	1.40	105	99	全ク人体ノ感覺ニ依ル.
名古屋	7.2	7.3	101	21.7	11.5	53	520	全ク器械ニ依ル.
岐阜	1.25	12.6	101	37.4	21.9	59	898	全ク器械ニ依ル.
津	1.1	1.7	155	3.4	1.7	50	133	殆ント全ク人体ノ感覺ニ依ル.
和歌山	1.6	1.1	67	4.9	2.0	40	406	過半器械ニ依ル.
廣島	0.58	0.5	34	1.75	0.6	86	107	半ハ器械ニ依ル. 但シ器械ニ故障アリ
大分	1.7	1.5	88	5.1	1.3	25	264	殆ント全ク器械ニ依ル.
熊本	6.3	4.5	71	18.8	5.9	31	696	殆ント全ク器械ニ依ル.
鹿児島	2.1	2.0	95	6.2	2.4	39	365	殆ント全ク器械ニ依ル.
平均	3.28	4.00	89	13.81	6.49	48		
(乙)								
根室	4.3	1.6	37	13.0	2.7	21	729	全ク器械ニ依ル.
秋田	1.01	0.97	96	3.03	1.73	57	204	過半人体ノ感覺ニ依ル.
山形	1.6	3.1	194	4.9	5.8	118	197	大部分器械ニ依ル.
宮古	2.7	2.6	96	8.0	5.2	65	533	大部分器械ニ依ル.
石巻	6.1	6.7	110	18.4	11.5	62	1034	大部分人体ノ感覺ニ依ル.
福島	6.7	5.8	83	20.1	7.9	39	857	器械ニ依ルモノト感覺ニ依ルモノト相半ハス
宇都宮	4.6	2.5	55	13.7	3.7	27	492	大部分器械ニ依ル.
前橋	3.4	4.0	118	10.3	3.9	38	126	全ク器械ニ依ル.
彦根	3.2	3.0	94	9.6	6.1	64	225	全ク器械ニ依ル.
濱田*	0.36	0.72	200	1.07	1.15	107	30	一部分器械ニ依ル.
高知*	0.42	0.35	83	1.26	0.36	29	86	一部分器械ニ依ル.
平均	4.11	3.61	93	12.35	9.57	52		

[\*印ヲ附シタルハ平均數ノ計算ニ用ヰザル地方ナリ]

第三表ノ結果ヲ約言スレバ左ノ如シ(但シ地震觀測總回數ノ百回未滿テ論ズ、又新潟ノ地震度數ニ就キテハ明治二十四年四月ノ回數二十九回ニシテ他ノ月ヨリハ非常ニ多クレバ新潟モ此處ニハ暫ク省キタリ)

(甲)地方「月別」度數ニ於テハ一年間地震度數増減ノ割合ハ百分ノ三十四ヨリ百分ノ百五十五ノ間ニアリテ平均百分ノ八十九トナル「又四季別」度數ニ於テハ一年間地震度數増減ノ割合Eハ百分ノ二十五ヨリ百分ノ八十六ノ間ニアリテ其平均ハ百分ノ四十八トナル

(乙)地方「月別」度數ニ於テハ百分ノ三十七ヨリ百分ノ百九十四ノ間ニアリテ平均百分ノ九十三トナル「又四季別」度數ニ於テEハ百分ノ二十一ヨリ百分ノ百十八ノ間ニアリテ平均百分ノ五十二トナル

爰ニ平均數ヲ計算セル方法ハ地震觀測ノ總回數Sガ五百回以下ナル地方ト、其五百回以上ナル地方トヨリ得タル結果ノ價値ハ其比ガ假リニ一ト二トノ如キモノト見做シテ得タル平均數ナリ下條ニモ同一ノ方法ヲ用井タリ

以上ノ結果ヲ約言スレバ(甲)地方及ビ(乙)地方ニ於ケル平均地震度數一年中ノ變化ノ割合ハ殆ト相等シク、即チ月別「數」ニ就キテハ約百分ノ九十、又四季別「數」ニ就キテハ約百分ノ五十ナリ、但(甲)地方ト(乙)地方トハ地震度數ノ最大及ビ最小數ガ現ハル、月、若クハ季ハ殆ト相反スルモノトス

### 九(寒暖ト地震度數トノ關係)

第四表ニ各地方ニ於ケル一年中寒暖二期ノ平均地震度數及ビ其比ヲ與フ、寒暖二期及ビ其平均地震度數算出ノ方法ハ左ノ如シ

〔暖期〕四月ヨリ九月迄ノ六ヶ月間トス

暖期平均地震度數ハ四月ヨリ九月迄ノ毎月別「平均地震度數」ヲ加ヘタルモノトス

〔寒期〕十月ヨリ三月迄ノ六ヶ月間トス

寒期平均地震度數ハ十月ヨリ三月迄ノ毎月別「平均地震度數」ヲ加ヘタルモノトス

第四表 一年中寒暖二期ニ於ケル平均地震度数.

(甲)

地名	暖期	寒期	比, $\frac{\text{暖}}{\text{寒}}$
札幌	2.84	3.83	1.35
函館	5.00	6.30	1.26
東京	45.1	41.7	0.92
新潟*	10.21	5.41	0.53
長野	12.5	16.3	1.30
沼津	4.6	5.8	1.26
濱松	1.74	3.57	2.05
名古屋	42.2	44.5	1.05
岐阜	71.8	77.8	1.08
津	5.1	8.4	1.65
和歌山	10.8	9.1	0.84
廣島	3.1	3.9	1.26
大分	8.8	11.7	1.33
熊本	37.1	37.9	1.02
鹿児島	12.6	12.3	0.98

平均.....1.14

(乙)

地名	暖期	寒期	比, $\frac{\text{暖}}{\text{寒}}$
根室	27.5	24.7	1.11
秋田	6.64	5.47	1.21
山形	14.0	5.7	2.46
宮古	17.9	14.2	1.26
石巻	43.4	30.4	1.43
福島	46.1	34.4	1.34
宇都宮	28.1	26.5	1.06
前橋	19.3	21.7	0.89
彦根	21.7	16.6	0.31
濱田*	1.56	2.73	0.57
高知*	2.29	2.76	0.83

平均.....1.32

\* 印ヲ附シタルハ平均ノ計算ヨリ省キタル地方ナリ(第八章参照)

第四表ニ依ルニ(甲)地方ニテハ寒期ニ於テ、暖期ニ於ケルヨリモ地震度數ノ多キコト平均一、一四ト一トノ割合ナリ又(乙)地方ニテハ(甲)地方トハ反對ニシテ暖期ニ於テ寒期ニ於ケルヨリモ地震度數ノ多キコト一、二三ト一トノ割合ナリ

**十(平均地震度數ノ最大ト最小トガ現ハル、月及ビ季)** 第五表ニ各地ニ於テ平均地震度數ノ最大ト最小トガ現ハル、月及ビ季ヲ示ス

第五表 平均地震度數ノ最大ト最小トガ現ハル、月及ビ季

(甲)						(乙)					
地名	最大	最小	最大	最小	季	地名	最大	最小	最大	最小	季
札幌	十月	一月	秋	夏	室田	五月	七月	夏	冬		
函館	十月	一月	秋	夏	山形	五月	七月	秋	冬		
東京	十月	一月	秋	夏	古卷	五月	七月	秋	冬		
新潟	十月	一月	秋	夏	石巻	五月	七月	秋	冬		
長野	十月	一月	秋	夏	宮城	五月	七月	秋	冬		
沼津	十月	一月	秋	夏	宇都宮	五月	七月	秋	冬		
濱松	十月	一月	秋	夏	前橋	五月	七月	秋	冬		
名古屋	十月	一月	秋	夏	彦根	五月	七月	秋	冬		
岐阜	十月	一月	秋	夏	高知	五月	七月	秋	冬		
津和野	十月	一月	秋	夏							
歌山	十月	一月	秋	夏							
廣島	十月	一月	秋	夏							
大分	十月	一月	秋	夏							
熊本	十月	一月	秋	夏							
鹿児島	十月	一月	秋	夏							

夏8 冬6  
秋2 秋4  
冬1 春1

春10 夏10  
秋3 秋3  
冬2 冬2

第五表ノ結果ヲ約言スレバ左ノ如シ

月別<sup>々</sup>數ニ就キテ云ヘハ(甲)(乙)兩地方トモ最大及ヒ最小數ノ現ハル、月ハ種々ニシテ一定セズ、四季別<sup>々</sup>數ニ就キテハ最大及ヒ最小數ノ現ハル、時期ガ頗ル整然タルヲ見ルベシ即(甲)地方ニ屬スル十五測候所ノ内ニテ最大數ガ春ニ現ハレタルモノ十個所、最小數ガ夏ニ現ハレタルモノ十個所ナリ又(乙)地方ニ屬スル十一測候所ノ内ニテ最大數ガ夏ニ現ハレタルモノ八個所、最小數ノ冬ニ現ハレタルモノ六個所ナリ

京都地震千三百十八回月別表

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
九十五回	九十五回	百三十二回	百三十六回	百三十三回	百七十七回	百七十七回	百二十四回	百八十七回	百四十七回	百十七回	百十九回

十一(京都地震)

京都近年ノ地震回數ハ僅カニシテ平均一ヶ年五回(震災豫防調査會報告第二十六號第四百十六頁參照)ニ過ギザレバ充分ノ統計材料ヲ得ル能ハザレドモ歴史ニ存スル京都地震記録ノ總數ハ八世紀ヨリ慶應三年末迄ニテ大地震三十四回、強地震百九十四回、小地震千九十四回、合計千三百十八回ノ大數トナル(震災豫防調査會報告第二十六號第四百十四頁參照)之ヲ月及ヒ四季ニ別カテバ次ノ結果トナル

同上四季別表

春(三、四、五月)	三百六十一回
夏(六、七、八月)	三百三十八回
秋(九、十、十一月)	三百八回
冬(十二、一、二月)	三百九回

同上寒暖二期別表

暖期(四、五、六、七、八、九月)	六百五十四回
寒期(一、二、三、十、十一、十二月)	六百六十二回



上表ノ結果ハ第六圖ニ示ス

第六圖ニ依レバ京都地震ハ春ニ於テ最大ヲ示シ秋、冬ニ於テ最小ヲ示ス即チ京都ハ(甲)地方(第七章參照)ニ屬スルモノト見做シ得ベシ

## 十二地震度數一年中ノ分布ト地理トノ關係

既ニ前章ニ述ベタル如ク(甲)地方ト(乙)地方トハ一年中ノ地震分布ニ於テ殆ド相反スルモノトス其地震度數一年中ノ變化ト地理トノ關係ヲ明カナラシメンガ爲ニ第七圖ニ色別ケテ以テ示ス即チ赤色ノ地方ハ(甲)ニシテ青色ノ地方ハ(乙)ナリ、(紀州ノ南部ハ測候所ノ設ケ無クシテ其何レニ屬スルヤヲ審カニセザルヲ以テ暫ク着色セズ)

第七圖ニ依レバ(甲)ニ屬スル地方ト(乙)ニ屬スル地方トハ一定ノ法則ニ從ヒ區劃セラル、モノナルヲ見ルベシ

(乙)ニ屬スル地方ハ北海道ノ東半ヨリ三陸、兩羽、磐城、岩代、常陸、下野等ノ諸國ノ全部、越後ノ北部、上野ノ大部分武藏ノ北部、下總ノ大部分等ニシテ即チ我日本國ノ東北部ヲ凡テ包有ス又彦根及ビ濱田ノ附近、并ニ四國ノ南部ハ同ツク(乙)ニ屬スル地方トス(甲)ニ屬スル地方ハ北海道ノ西半及ビ(前記ノ彦根、濱田附近ト四國ノ南部ヲ除キテ)越後武藏、房總半嶋ヨリ以西ノ日本全土ヲ包有ス(紀州南部ハ暫ク不明

トス)

上述ノ如キ地震度數一年中ノ變化ト地理トノ關係ハ如何ナル原因ヨリ來ルヲカ考究セントスルニ當リ第一ニ注意スベキ點ハ(甲)(乙)兩地方ノ主ナル境界線(イロハニ)ノ形狀及ビ位置ガ北海道ノ東南或ハ三陸ノ東ニ當ル海中ヨリ發起スル強震ノ等震線若クハ震動區域ノ外界線ニ類似スルノ事實ナリトス(震災豫防調査會報告第三號北海道大地震、并ニ北海道地震記錄ニ關スル調査、同ツク第二十九號宮古地震驗測ノ報告ヲ參照スベシ)即チ日本ノ諸地方ニテ感ズル地震ノ起原點ノ位置ト地震度數一年中ノ變化トハ密接ノ關係アルヲ推知シ得ラルベシ、今大體ニ就キテ觀察スルニ日本ノ東北部ヲ震動スル地震ノ多數ハ其ノ震原點ヲ太平洋中ニ有ス、殊ニ福島ノ如キハ内地ニアル地方ナリト雖ドモ其三陸東方海中ニ發シタル地震ニ能ク感ズルコトハ著シキ事實ナリトス、之ニ反シテ日本ノ中央ヨリ西部ニ於ケル地方ヲ震動スル地震ノ多數ハ陸地内ニ震原點有ス、殊ニ長野、岐阜、名古屋、熊本、鹿兒島ノ如キハ顯著ナル例ナリトス、又日本西部ノ(甲)地方中ニアリテ孤立セル濱田附近及ビ四國ノ南部ヲ震動スル地震ノ多數ハ海中ニ震原點有スルヲ以テ此等二地方ハ(乙)ニ屬スルモノナルベシ、獨リ彦根ノ場合ハ海中地震ノ多數ニ依リテ震動セラル、

ト謂フ能ハザルヲ以テ例外ナル如クニ見ユルモ或ハ其ノ地ガ  
琵琶湖ニ濱スルガ爲ニアラザランカ、暫ク疑ヲ存スル地理ト  
地震度數一年中ノ變化トノ關係ヲ約言スレバ左ノ如シ

(甲)地方ヲ震動スル地震ノ多數ハ陸地内ヨリ發起ス

(乙)地方ヲ震動スル地震ノ多數ハ海中ヨリ發起ス

次に地震度數一年中ノ變化ヲ生ズル原因ニ就キテ考フルニ其  
主因ハ氣壓ナラント思ハル即氣壓ハ地殼ニ働ク外力ニシテ其  
壓力ヲ以テ地殼内ノ變動ニ影響ヲ及ボシ得ベケレバ一般ニ高  
氣壓ハ比較的地震ノ多數ヲ伴ヒ、低氣壓ハ少數ヲ伴フモノト  
推スルヲ得ベシ而シテ陸地上ニ於テハ氣壓ハ夏ニ最低ニシテ  
冬ニ最高ナレバ(甲)地方ノ如ク震原ヲ多ク陸地内ニ有スル場  
合ニハ夏(若クハ秋)ニ於テ地震度數ガ最少ニシテ春若クハ冬  
ニ於テ地震度數ガ最多ナルハ理ノ當然ナルモノト認メ得ベキ  
ナリ、之ニ反シテ海底ハ一年中氣壓變化ノ影響ヲ受クルコト  
微少ナルベキノミナラズ、且ツ寧ロ夏ニ於ケル方冬ニ於ケル  
ヨリモ高氣壓ヲ受クベキヲ以テ海底ヨリ地震ノ發起スルハ夏  
(若クハ秋)ニ於ケル方冬若クハ春ニ於ケルヨリモ多數ナラン  
トスルノ傾向アルベシ而シテ此ノ傾向ハ其隣接ノ陸地ニ於ケ  
ル反對ノ地震度數一年中ノ變化ノ爲ニ益々強メラルベキナリ  
即(乙)地方ニ於ケル地震度數ノ最多數ハ夏期ニアリテ、其ノ

最少數ガ却テ寒期ニ現ハル、ノ事實ヲ了解シ得ベシ「氣壓一  
年中ノ變化ハ次ニ詳述スルガ如シ

### 十三 大洋ニ於ケル氣壓一年中ノ變化ニ就テ

海上ニ於ケル氣壓ニ關シテ第一ニ注意スベキハ大洋面ニ於テ  
一年中幾何カノ氣壓變化アルモ海底ハ必ズシモ同様ニ壓力ノ  
變化ヲ受ケザルベキコト之ナリ即大洋面ニ氣壓増セリト假定  
セシニ海水ハ平均ノ位置ヲ保タン爲ニ相應ニ下降スベシ、又  
洋面ニ於テ氣壓減ゼリト假定セシニ同一ノ理由ニ依リテ海水  
ハ相應ニ上昇スベシ故ヲ以テ海底ニ於ケル全体ノ壓力即海水  
ノ重量ト氣壓トノ和ハ洋面ニ働ク氣壓ノ變化ニ伴フテ必ズシ  
モ多ク變化スルヲ要セザルベシ

第二ニ注意スベキハ北太平洋ニ於テハ夏期ニ於ケル方、冬期  
ニ於ケルヨリモ氣壓高キコトナリ、即一千八百九十六年ノ發  
刊ニ係ル獨逸海上觀象臺(Deutsche Seewarte)ノ太平洋地文  
圖(Stiller Ocean)ニ依ルニ一月及ビ二月ニハ北太平洋「アリウ  
シヤン」群島ノ邊ヲ中心トシ「アラスカ」西南岸ヨリ「カムチャ  
ツカ」半島ノ南ニ達シテ其長軸ガ殆ド緯度線ニ平行スル橢圓  
形ノ低氣壓區域アリ(最低壓七百五十二、五「ミリメートル」)  
之ニ反シテ七月及ビ八月ニハ「アラスカ」ノ南ニ當ル洋中ニ於  
テ東經約百五十二度半、北緯約三十七度半ノ邊ヲ中心トシ長

軸ガ粗ボ緯度線ニ平行ナル不規則ノ橢圓形ヲ有スル高氣壓ノ區域アリ(最高壓七百七十「ミリメートル」)海上氣壓一年中變化ノ例トシテ第八圖ヲ畫ケリ、 $\infty$ ハ距離ニシテ日本々島西海岸ノ北緯四十度ニ當ル地(秋田附近)ヲ起點トシテ東方ニ測レルモノナリ $\gamma$ ハ氣壓ナリ、又實線ハ一月及ビ二月ニ於ケル氣壓ニ關シ點線ハ七月及ビ八月ニ於ケル氣壓ニ關ス( $\infty$ 及ビ $\gamma$ ハ直接ニ前記ノ地交圖ヨリ計リタル結果ナリ)即此ノ圖ニ由レバ本州ノ三陸東海岸ノ直接近傍ノ太平洋面ニ於テハ氣壓ハ冬期ノ方、夏期ヨリモ高クレドモ更ニ進ミテ海岸ヨリ東方約八百「キロメートル」以上ノ區域ニ達スレバ夏期ニ於ケル方、冬期ニ於ケルヨリモ氣壓ノ高キヲ見ルベシ

以上二個條ノ理由ヨリ推スニ第十二章ノ終リニ記ルセル結論ハ當ヲ得タリト思ハル

#### 十四(諸地方ニ於ケル地震度數ト氣壓トノ一年

##### 中變化ノ比較)

諸地方ニ於ケル地震度數及ビ氣壓一年中ノ變化ヲ相比較セン爲ニ第六表ニ諸地方ニ於ケル月別及ビ四季別平均地震回數表(第二表ヨリ蒐集セルモノ)ヲ與へ、第七表ニハ氣壓表ヲ與フ、又第八表ニハ諸地方ニ於ケル地震度數四季ノ變化ヲ百分率ニテ現ハシタル結果ヲ示ス

第六表 諸地方ニ於ケル月別及ヒ四季別平均地震回数

測候所	月別												一ヶ月平均	春	夏	秋	冬	毎季平均	
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月							
(甲)																			
札幌	0.26	0.87	0.61	0.74	0.26	0.48	0.30	0.52	0.54	0.88	0.71	0.50	0.56	1.61	1.30	2.13	1.63	1.67	
函館	0.74	1.07	0.93	1.00	0.85	0.92	0.78	0.74	0.70	1.41	1.30	0.85	0.94	2.78	2.45	3.41	2.66	2.82	
東京	8.1	8.0	8.3	8.5	8.7	6.6	7.0	5.5	5.4	5.9	7.0	7.8	7.2	25.5	19.1	18.3	23.9	21.7	
新潟	0.92	0.85	0.85	3.07	2.07	2.07	1.07	0.86	1.07	1.43	0.93	0.43	1.30	5.99	4.00	3.43	2.20	3.90	
長野	2.6	3.1	2.9	2.9	4.4	1.5	1.7	0.9	1.1	3.3	2.4	2.0	2.4	10.2	4.1	6.8	7.7	7.2	
沼津	1.5	1.0	1.4	1.1	0.7	0.8	0.5	0.5	1.0	0.7	0.6	0.6	0.9	3.2	1.8	2.3	3.1	2.6	
松本	0.80	0.60	0.27	0.67	0.40	0.27	0.07	0.13	0.20	0.36	1.07	0.47	0.44	1.34	0.47	1.63	1.87	1.33	
名古屋	11.5	6.5	11.3	8.3	7.8	5.5	5.2	9.7	5.7	6.0	4.2	5.0	7.2	27.4	20.4	15.9	23.0	21.7	
岐阜	16.0	12.3	14.8	20.8	13.8	10.3	9.0	8.2	9.7	12.2	12.8	9.7	12.5	49.4	27.5	34.7	38.0	37.4	
岐阜	2.2	0.8	2.1	1.5	0.7	0.6	0.5	1.2	0.6	0.9	1.1	1.3	1.1	4.3	2.3	2.6	4.3	3.4	
津	1.8	1.2	2.0	1.9	2.3	1.6	1.9	1.4	1.7	1.4	1.5	1.2	1.6	6.2	4.9	4.6	4.2	4.9	
和歌山	0.8	0.7	0.4	0.7	0.6	0.3	0.6	0.5	0.4	0.8	0.8	0.4	0.6	1.7	1.4	2.0	1.9	1.75	
大阪	1.8	1.8	1.7	2.2	0.9	1.1	1.4	2.0	1.2	2.2	2.4	1.8	1.7	4.8	4.5	5.8	5.4	5.1	
廣島	8.2	7.0	7.4	7.1	7.9	7.2	3.7	5.6	5.6	6.6	4.6	4.1	6.3	22.4	16.5	16.8	19.3	18.8	
熊本	1.6	2.4	1.9	3.4	2.0	1.7	1.4	1.8	2.3	2.7	1.8	1.9	2.1	7.3	4.9	6.8	5.9	6.2	
鹿兒島																			
平均	5.65	4.52	5.47	5.99	5.07	3.90	3.33	3.80	3.52	4.28	3.37	3.57	3.86	16.53	11.04	11.74	13.74	13.26	
(乙)																			
蜜田	3.4	3.4	4.0	4.1	4.9	4.9	5.0	4.2	4.4	4.9	4.4	4.6	4.3	13.0	14.1	13.7	11.4	13.0	
根秋	0.71	0.94	0.65	0.94	1.06	1.29	1.41	1.44	0.50	1.47	0.94	0.76	1.01	2.65	4.14	2.91	2.41	3.03	
山形	1.3	1.4	0.9	1.9	3.0	2.6	2.0	3.2	1.3	0.6	0.1	1.4	1.6	5.8	7.8	2.0	4.1	4.9	
宮古	2.0	1.4	2.6	3.2	2.2	2.9	3.9	4.0	1.7	3.1	2.9	2.2	2.7	8.0	10.8	7.7	5.6	8.0	
石巻	3.0	4.2	3.9	6.0	6.0	5.5	8.5	9.7	7.7	6.2	8.1	5.0	6.1	15.9	23.7	22.0	12.2	18.4	
福島	5.2	6.0	6.7	10.5	6.0	8.3	7.0	8.5	5.8	5.3	6.5	4.7	6.7	23.2	23.8	17.6	15.9	20.1	
宇都宮	5.4	4.4	3.7	4.9	4.3	5.1	5.1	5.6	3.1	5.2	3.8	4.0	4.6	12.9	15.8	12.1	13.8	13.7	
前橋	1.7	2.7	5.7	2.7	2.3	2.0	4.3	4.7	3.3	4.0	4.3	3.3	3.4	10.7	11.0	11.6	7.7	10.3	
彦根	4.4	2.2	2.8	4.5	3.0	4.0	3.8	4.7	1.7	2.5	2.2	2.5	3.2	10.3	12.5	6.4	9.1	9.6	
津田	0.29	0.29	0.29	0.14	0.14	0.14	0.14	0.57	0.43	0.86	0.43	0.57	0.36	0.57	0.85	1.72	1.15	1.07	
高知	0.35	0.59	0.47	0.47	0.24	0.53	0.41	0.35	0.29	0.41	0.41	0.53	0.42	1.18	1.29	1.11	1.47	1.26	
平均	3.13	3.20	3.70	4.81	3.99	4.48	5.03	5.57	3.78	4.06	4.24	3.46	4.11	12.50	15.08	12.08	9.79	12.35	

第七表 諸地方ニ於ケル月別及四季別平均氣壓

ニヤクニ十  
700+

(中央氣象臺編纂日本風土篇ヨリ抄出ス但シ前橋測候所ノ分ハ明治三十年ノ中央氣象臺氣象年報ニ依ル)

測候所	月												年	冬	春	夏	秋		
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二							
(甲) 札幌	59.8	60.9	60.0	60.2	58.1	56.8	56.6	57.1	59.6	61.9	61.4	59.1	59.3	59.9	59.9	60.8	60.1	57.5	61.3
函館	60.8	61.6	60.9	60.7	58.8	57.4	57.3	57.7	59.8	62.3	61.8	60.0	59.9	60.6	62.2	60.8	60.8	57.6	61.8
東京	62.2	62.6	61.7	61.5	59.2	57.3	57.6	57.9	59.9	62.6	62.9	61.9	60.9	60.9	63.0	61.3	61.3	57.2	62.2
新潟	63.0	63.6	62.8	61.7	59.3	57.1	57.2	57.2	59.7	63.1	63.8	62.4	60.9	60.9	63.9	61.3	61.3	57.2	62.2
長野	63.6	64.0	63.3	61.5	59.2	57.0	56.6	56.7	59.6	63.0	65.0	64.1	61.1	61.1	63.9	61.3	61.3	56.8	62.5
沼津	61.3	61.6	61.2	60.9	59.2	57.3	57.6	57.7	59.6	62.0	62.7	61.6	60.2	60.2	61.5	60.4	60.4	57.5	61.4
濱松	62.7	62.6	61.9	61.2	59.3	57.4	57.7	57.7	39.5	61.9	63.3	63.0	60.7	60.7	62.8	60.8	60.8	57.6	61.8
名古屋	63.1	63.6	62.7	61.2	59.4	57.6	56.9	56.6	59.4	61.9	64.2	64.0	60.9	60.9	63.6	61.1	61.1	57.0	61.8
岐阜	63.7	63.9	62.8	61.5	59.4	57.3	57.5	57.6	59.6	62.4	64.2	63.9	61.2	61.2	63.8	61.3	61.3	57.5	62.1
津	63.8	64.2	63.2	61.5	59.5	57.6	57.0	56.5	59.6	62.1	64.7	64.5	61.2	61.2	64.2	61.4	61.4	57.0	62.1
和歌山	64.7	64.7	63.3	61.4	59.2	56.9	57.1	57.0	59.1	62.4	64.4	64.7	61.2	61.2	64.7	61.3	61.3	57.0	62.0
廣島	65.7	65.5	64.0	61.5	59.2	56.7	56.9	56.6	58.8	62.7	65.1	65.4	61.5	61.5	65.5	61.6	61.6	56.7	62.2
大分	66.2	65.5	63.7	61.0	59.1	56.3	56.3	56.3	58.5	62.2	65.2	65.7	61.2	61.2	66.1	61.3	61.3	56.3	62.1
熊本	65.7	65.2	64.0	61.5	59.4	57.4	56.9	57.1	58.2	62.2	66.1	66.6	61.8	61.8	66.6	61.6	61.6	57.1	62.2
鹿児島	65.7	65.2	63.4	61.2	59.1	57.1	57.1	56.7	58.2	61.8	65.0	65.9	61.4	61.4	65.9	61.2	61.2	57.0	61.7
平均	63.5	63.6	62.6	61.2	59.2	57.1	57.1	57.1	59.3	62.3	64.0	63.5	60.9	60.9	63.5	61.0	61.0	57.1	61.9
(乙) 室田	57.8	59.5	59.7	60.1	58.9	57.9	57.7	58.2	60.3	61.9	60.5	57.6	59.2	59.2	58.3	59.6	59.6	57.9	60.9
根田	62.1	62.7	62.1	61.6	59.4	57.1	57.5	57.5	59.7	63.1	63.4	61.4	60.6	60.6	62.1	61.0	61.0	57.4	62.1
山形	61.9	62.8	62.7	61.2	59.1	57.2	56.8	56.8	59.9	62.9	63.9	62.6	60.7	60.7	62.4	61.0	61.0	57.0	62.2
宮古	60.9	61.0	61.4	61.2	59.4	57.7	58.0	58.2	60.4	63.1	62.7	60.5	60.4	60.4	60.4	60.7	60.7	59.0	62.1
石巻	61.0	61.8	62.1	61.0	59.0	56.9	57.1	57.3	59.8	62.6	63.1	61.5	60.2	60.2	61.4	60.1	60.1	57.1	61.8
福島	61.5	62.4	62.5	61.1	59.3	57.1	57.0	57.1	60.1	62.8	63.6	62.2	60.6	60.6	62.0	61.0	61.0	57.1	62.2
宇都宮	61.1	62.1	61.8	61.1	58.7	57.7	56.9	57.6	60.2	62.5	63.3	62.2	60.4	60.4	61.8	60.5	60.5	57.4	62.0
前橋	55.0	52.9	55.8	51.4	48.1	47.3	48.2	48.7	50.8	53.1	54.1	53.9	51.6	51.6	54.0	51.8	51.8	48.1	52.7
彦根	64.5	64.7	63.9	61.9	59.8	57.6	57.6	57.8	59.8	63.0	64.8	64.7	61.7	61.7	64.6	61.9	61.9	57.7	62.5
高知	65.7	65.8	64.1	61.7	59.6	56.9	57.1	56.9	59.2	63.4	65.2	65.3	61.8	61.8	65.6	61.8	61.8	57.0	62.6
平均	64.5	64.3	62.9	61.3	59.1	57.1	57.4	57.2	59.0	62.0	64.5	64.8	61.2	61.2	64.5	61.1	61.1	57.2	61.8
平均	61.5	61.8	61.7	60.3	58.2	56.4	56.5	56.7	59.0	61.9	62.6	61.5	59.9	59.9	60.8	60.0	60.0	56.5	61.2

第八表 諸地方ニ於ケル地震度数四季ノ變化

(但シ百分率ニテ示ス)

(甲)

地名	春	夏	秋	冬
	%	%	%	%
札幌	24.1	19.5	31.9	24.4
函館	24.6	21.7	30.2	23.6
東京	25.5	19.1	18.3	23.9
新潟*	38.7	25.8	21.9	14.1
長野	35.4	14.2	23.6	26.7
沼津	30.8	17.4	22.2	29.9
濱松*	25.2	8.9	30.7	35.3
名古屋	31.6	23.6	18.4	26.5
岐阜	33.0	18.4	23.2	25.4
津	31.8	17.0	19.2	31.8
和歌山	31.2	24.7	23.1	21.1
廣島	24.3	20.0	28.6	27.1
大分	23.5	22.0	28.5	26.5
熊本	29.9	22.1	22.4	25.7
鹿児島	29.3	19.7	27.3	23.7
平均	29.1	20.2	23.5	25.8

(乙)

地名	春	夏	秋	冬
	%	%	%	%
根室	25.0	27.0	26.3	21.9
秋田	21.9	34.2	24.0	19.9
山形	29.4	39.6	10.2	20.8
宮古	25.0	33.8	24.0	17.5
石巻	21.6	32.2	29.9	16.6
福島	28.9	29.6	21.9	19.7
宇都宮	23.6	29.0	22.2	25.3
前橋	26.1	26.9	28.3	18.8
彦根	26.9	32.6	16.7	23.7
濱田*	13.3	19.8	40.1	26.8
高知*	23.4	25.5	22.0	29.1
平均	19.3	24.0	18.0	15.3

第九表 東京ニ於ケル毎月平均氣壓表

(明治九年ヨリ十八年迄)

年 \ 月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
明治九年	65.18	63.03	61.86	61.42	59.93	58.28	60.03	60.10	59.32	62.83	58.48	63.39	61.15
十年	64.56	61.86	59.50	63.49	61.37	58.53	59.24	57.85	91.02	61.32	64.63	64.81	61.51
十一年	63.26	64.82	62.75	64.27	57.95	57.96	57.64	58.98	56.58	64.36	65.35	61.09	61.50
十二年	64.61	64.49	61.19	62.84	59.30	58.11	58.94	57.24	59.29	63.93	62.65	59.10	60.97
十三年	63.69	65.41	62.68	63.49	59.91	58.68	56.74	57.86	61.81	63.15	61.76	61.12	61.31
十四年	58.56	63.50	64.95	61.75	61.19	58.73	58.27	59.28	60.90	62.42	62.43	64.66	61.39
十五年	64.32	63.53	62.43	61.22	57.87	56.41	58.71	60.52	61.10	63.86	64.77	63.05	61.48
十六年	62.24	65.71	60.74	62.05	59.29	59.30	57.79	59.52	60.95	64.00	64.26	60.67	61.38
十七年	63.21	62.94	61.65	62.37	59.64	58.65	59.34	57.58	61.20	63.53	62.03	62.99	61.26
十八年	64.10	62.01	61.69	63.84	60.09	57.86	58.40	59.25	60.14	63.03	62.34	62.60	61.28

(本表ハ中央氣象臺氣象報告ヨリ抄出ス)

各地方別々ニ地震度數ト氣壓トノ月別平均數ノ關係ヲ見シ爲  
ニ第九圖(一ヨリ四迄)及ビ第十圖(一ヨリ三迄)ニ例トシテ  
(甲)地方ニ屬スル東京、名古屋、岐阜、熊本及ビ(乙)地方ニ屬  
スル石卷、福島、宇都宮ノ七ヶ所ニ於ケル月別平均地震度數  
ト毎月平均氣壓トヲ對照シテ圖解トス(第六表及ビ第七表ニ  
依ル)

東京、名古屋、岐阜、熊本ニ於ケル地震度數ト氣壓ノ曲線ハ  
互ニ其形狀ノ類似スルヲ見ルベシ特ニ地震度數ノ最低ハ何レ  
ノ場合ニモ七月、八月若クハ九月ニアリテ氣壓ノ最低ハ六月、  
七月若クハ八月ニアレバ兩者トモ殆ド同時期ニ現ハル、モノ  
ト見做シ得ベシ「石卷、福島、宇都宮ノ場合ニハ地震度數ト  
氣壓トハ其一年中ノ變化ニ於テ殆ド互ニ正反對ノ形狀ヲ呈ス  
ルヲ見ルベシ

東京ニ於ケル地震度數及ビ氣壓一年中ノ變化ノ關係ハ數多年  
月間ノ觀測ヲ平均セズシテ直接ニ毎月ノ觀測(第二圖ヲ見ヨ  
但シ此圖ニハ每一ヶ月ノ平均觀測ヲ用ユ)ヲ取リテ曲線ヲ畫  
スルモ容易ニ認メ得ベシ「第二圖ノ地震度數及ビ氣壓年々ノ  
變化ハ殆ド全ク互ニ相平行ナルヲ見ルベシ(第九表ニ明治九年ヨ  
間東京ニ於ケル每  
月平均氣壓ヲ與フ)

第九圖中東京地震度數ノ曲線ハ主トシテ一年間ノ周期ヲ示セ

ドモ名古屋、岐阜、熊本ノ曲線ハ一年間ノ周期ノ外ニ點線(平  
均ノ位置ヲ通シテ畫セルモノ)ニテ示ス如ク多少明瞭ニ六ヶ  
月間ノ周期ヲ示ス

又第十圖中石卷及ビ福島ノ地震度數曲線ハ主トシテ一年間ノ  
周期ヲ示セドモ宇都宮ノ曲線ハ多少判然ト六ヶ月間ノ周期ヲ  
示ス

第十一圖(一)ニハ(甲)地方ニ屬スル十五地方ヲ通シテ平均セ  
ル毎月地震度數ト氣壓トヲ比較シテ示ス地震度數ノ曲線ハ一  
月、四月及ビ十月ニ於テ最高ヲ呈シ二月、七月ヨリ九月、及  
ビ十二月ニ於テ最低ヲ呈ス更ニ其平均位置ヲ過ギリテ畫セル  
點線ノ形狀ハ氣壓ノ曲線ト相似タルヲ見ルベシ「氣壓ノ曲線  
ハ十一月、十二月、一月及ビ二月ニ於テ最高ヲ呈シ六月、七  
月及ビ八月ニ於テ最低ヲ呈ス

第十一圖(二)ハ(乙)地方ニ屬スル九地方(濱田及ビ高知ハ地  
震觀測總回數少ナキヲ以テ除ク)ヲ通シテ平均セル毎月地震  
度數ト氣壓トヲ比較シテ示ス地震度數ノ曲線ハ四月、八月及  
ビ九、十兩月ニ於テ最高ヲ呈シ一月、五月及ビ九月ニ於テ最低  
ヲ示ス、更ニ其平均位置ヲ過ギリテ畫セル點線ノ形狀ハ氣壓  
ノ曲線ト殆ド正反對ナルヲ見ルベシ「氣壓ノ曲線ハ十月ヨリ  
三月迄ニ於テ最高ヲ呈シ六月、七月及ビ八月ニ於テ最低ヲ呈



ス

第十二圖ニ(甲)地方及ビ(乙)地方ヲ通シテ平均セル毎季地震度數ト氣壓トヲ比較シテ示ス(第七表及ビ第八表ニ依ル)圖中實線ハ(甲)地方ニ關シ點線ハ(乙)地方ニ關スル(甲)地方ニ關スル氣壓ノ曲線ハ夏ニ於テ最低ヲ呈シ冬ニ於テ最高ヲ呈ス(乙)地方ニ關スル氣壓ノ曲線モ同シク夏ニ於テ最低ヲ示シ冬ニ於テ最高ヲ示ス兩地方ニ於ケル氣壓線ノ形狀ガ互ニ能ク似タルコト瞭然ナリトス」地震度數ハ之ニ反シテ兩地方ニ關スル曲線ノ形狀ハ殆ト互ニ反對ナリ即(甲)地方ノ曲線ハ春ニ於テ最高ヲ呈シ夏ニ於テ最低ヲ呈スレドモ(乙)地方ノ曲線ハ夏ニ於テ最高ヲ呈シ冬ニ於テ最低ヲ呈スル氣壓ト地震度數ノ平均曲線ヲ對照スレバ(甲)地方ニ於ケル地震度數ト氣壓ノ一年中變化ハ大体互ニ似タレドモ(乙)地方ニ於ケルモノハ正反對ナルヲ認ム

本章ニ論述シタルコトハ第(十二)章及ビ第(十三)章ニ述ベタル地震度數ト震原地ニ於ケル氣壓ノ一年中ノ變化ニ關スル臆說ヲ解説スルモノナリ約言スレバ(甲)地方ニ於ケル地震ハ其震原多ク陸地内ニ存スルヲ以テ震度一年中ノ變化ハ氣壓一年中ノ變化ト相伴ヘドモ(乙)地方ヲ震動スル地震ノ多數ノ震原ハ海中ニ存スルヲ以テ其地震度數一年中ノ變化ハ寧ロ其地方

ニ於ケル、即陸上ノ氣壓一年中ノ變化トハ相反對ナリ

### 地震度數一日中ノ變化

**十五(各地地震一日中分布表)** 一般ニ一日中ノ地震

分布ヲ見ン爲ニ第一表ニ列舉セル二十六地方ニ於テ觀測セル地震ヲ各地方ニ就キテ一々一日中二十四時間ニ配布セリ其結果ハ第十表(一ヨリ二十六迄)ニ示スガ如シ

第十表 (其一) 根室地震一日中ノ分布  
 (明治廿七年三月廿三日ヨリ同三十二年十二月三十一日迄)  
 [凡テ地震計觀測ニ由ル]

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
0-1	0	1	19	6	0	2	1	4	4	2	0	0	39
1-2	1	3	7	7	4	3	4	2	1	4	3	1	40
午 2-3	0	0	11	10	3	3	1	0	4	3	2	3	40
3-4	1	0	19	6	1	4	3	3	4	4	3	2	50
4-5	1	1	22	3	7	4	2	2	1	2	0	5	50
5-6	2	2	23	3	5	3	2	2	1	2	2	1	48
前 6-7	2	2	19	7	6	1	1	1	1	0	3	1	44
7-8	1	1	21	6	4	4	3	2	2	3	2	1	50
8-9	1	0	13	10	5	3	4	1	2	2	3	0	44
9-10	0	0	9	5	2	3	3	2	2	5	1	5	37
10-11	2	1	7	10	4	5	2	3	3	2	2	2	43
11-12	1	4	12	10	4	4	4	3	0	5	4	2	53
0-1	1	2	18	2	5	5	2	1	1	2	2	0	41
1-2	3	0	8	4	2	1	2	2	2	0	0	2	26
午 2-3	1	0	7	5	0	2	1	2	2	4	1	0	25
3-4	1	3	14	5	2	1	6	1	1	6	3	2	45
4-5	0	0	13	3	3	2	4	7	5	2	5	0	44
5-6	1	2	10	6	5	6	5	1	2	0	2	2	42
後 6-7	2	0	12	4	3	5	1	2	3	4	1	1	38
7-8	0	1	16	9	3	3	2	1	2	2	1	3	43
8-9	0	1	11	14	5	0	2	1	2	3	1	1	41
9-10	3	1	18	3	2	1	2	2	4	3	1	1	41
10-11	0	0	4	5	2	6	3	3	3	3	1	0	30
11-12	1	1	10	4	2	3	5	4	1	2	1	3	37
合計	25	26	323	147	79	74	65	52	53	65	44	38	991

(明治二十七年三月廿二日北海道大地震ノ發震時ハ午後七時五十六分)  
 (根室發震時)ニシテ本表ニハ其翌日即三月廿三日ヨリノ地震ヲ取ル

第十表 (其二) 札幌地震一日中ノ分布  
 (明治九年九月ヨリ同卅二年十二月ニ至ル)  
 [明治十六年一月地震計据付ク]

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
午前													
0-1	0	1	0	2	0	0	1	1	1	1	0	0	7
1-2	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	2	6
2-3	0	3	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	7
3-4	0	0	0	2	0	0	1	1	3	1	0	1	9
4-5	1	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	7
5-6	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	2	0	6
6-7	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	5
7-8	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	2	1	6
8-9	1	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	5
9-10	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	2	1	8
10-11	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
11-12	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	6
午後													
0-1	0	0	0	1	2	0	1	0	0	1	2	1	8
1-2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2-3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
3-4	0	0	0	3	0	1	1	0	0	1	2	1	9
4-5	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	5
5-6	1	0	1	2	0	0	0	0	0	3	0	0	7
6-7	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	4
7-8	1	2	2	0	0	1	0	0	1	2	2	0	11
8-9	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	0	0	5
9-10	0	0	1	1	0	0	0	1	1	3	0	1	8
10-11	0	0	1	2	0	0	1	1	2	2	1	0	10
11-12	0	1	2	0	0	2	0	2	1	0	0	0	8
合計	6	20	13	17	6	11	7	11	13	20	17	12	153

第十表 (其三) 函館地震一日中ノ分市  
 (治明六年一月ヨリ同卅二年十二月ニ至ル)  
 (明治十四年七月一日以降簡單地震計使用)  
 (同 廿八年一月一日以降普通地震計使用)

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
午前 0-1	1	2	0	2	2	0	1	0	2	2	2	0	14
午前 1-2	0	1	0	1	0	1	1	2	1	1	3	4	15
午前 2-3	1	1	1	2	1	2	1	1	0	3	1	1	15
午前 3-4	3	1	1	2	1	0	1	1	1	1	2	0	14
午前 4-5	1	1	1	2	0	1	0	1	0	1	0	0	8
午前 5-6	0	3	1	1	1	0	1	1	0	1	1	3	13
午前 6-7	1	0	0	0	2	2	1	0	0	0	2	0	8
午前 7-8	1	1	1	1	0	1	3	1	0	0	2	0	11
午前 8-9	0	2	0	2	1	1	0	0	0	1	1	0	8
午前 9-10	0	0	3	2	0	1	0	2	0	0	2	2	12
午前 10-11	1	2	0	1	0	0	0	0	1	4	2	0	11
午前 11-12	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	1	1	7
午後 0-1	2	0	1	0	3	3	2	0	3	1	2	1	18
午後 1-2	0	1	0	1	1	1	0	1	1	0	2	0	8
午後 2-3	0	2	2	0	3	0	0	1	0	2	1	1	12
午後 3-4	1	0	0	1	1	1	1	0	0	4	1	0	10
午後 4-5	1	4	2	1	1	1	1	1	2	0	3	0	17
午後 5-6	1	1	3	0	0	0	3	1	0	2	0	0	11
午後 6-7	0	0	1	2	1	2	1	1	2	2	2	2	16
午後 7-8	1	3	2	2	0	3	0	2	2	4	1	2	22
午後 8-9	1	0	1	1	0	1	2	0	0	1	1	2	10
午後 9-10	0	1	1	2	3	1	1	0	0	3	1	0	13
午後 10-11	2	0	2	1	1	0	0	2	1	2	1	2	14
午後 11-12	2	3	2	0	0	2	0	1	1	1	1	1	14
合計	20	29	25	27	22	25	21	19	18	38	34	22	300

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

第十表 (其四) 秋田地震一日中ノ分布  
 (明治十六年一月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)  
 [明治二十七年七月地震計据付ク]

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
0-1	0	1	0	0	1	0	0	1	8	1	0	1	13
1-2	0	1	0	1	0	1	0	0	10	0	0	0	13
午 2-3	1	1	0	2	2	0	0	0	7	0	0	1	14
3-4	0	0	0	2	0	1	1	0	10	0	1	0	15
4-5	0	1	0	0	0	0	1	0	11	0	0	0	13
5-6	2	1	1	1	1	0	1	2	4	3	0	0	16
前 6-7	0	1	1	0	1	0	1	2	5	1	0	0	12
7-8	2	1	0	0	0	2	0	0	1	0	1	1	8
8-9	1	1	0	1	0	1	0	4	4	2	2	0	16
9-10	1	1	0	2	0	1	1	8	4	0	0	1	19
10-11	0	1	0	0	1	0	1	2	1	0	2	1	9
11-12	0	0	0	0	3	0	0	2	5	3	0	0	13
0-1	1	0	0	0	2	2	0	0	3	0	1	1	10
1-2	0	0	1	1	1	3	0	1	3	0	1	0	11
午 2-3	0	0	0	3	0	2	1	2	5	2	0	0	15
3-4	1	0	0	0	2	2	1	3	3	0	0	0	12
4-5	0	1	1	0	0	1	3	2	5	0	2	1	16
5-6	0	1	2	0	0	2	1	14*	3	4	1	1	(29*)
後 6-7	0	0	2	1	0	0	4	21*	2	2	1	1	(34*)
7-8	0	1	2	2	1	1	2	8	2	0	1	0	20
8-9	0	2	0	0	1	0	2	4	9	1	0	2	21
9-10	0	1	0	0	2	0	3	4	2	2	1	1	16
10-11	3	0	1	0	0	2	0	6	2	3	0	1	18
11-12	0	0	0	0	0	1	1	4	1	1	2	0	10
合計	12	16	11	16	18	22	24	90	110	25	16	13	(340*) (373)

[\*印ヲ附シタルハ主トシテ明治二十九年八月三十一日陸羽大地震ノ餘震ニ係リ非常ニ夥シキヲ以テ「合計」ヲ取ルニハ此等ヲ省キタリ即午後五時ヨリ六時迄一時間ノ地震回数ヲ得ルニハ其時間ニ於ケル地震回数ノ和ヨリ八月ニ屬スルモノヲ減シ其差ニ $\frac{12}{11}$ ヲ乘シテ得タル結果16回ヲ用ユ」午後六時ヨリ七時迄ノ一時間ノ地震回数ノ場合ニモ同一ノ方法ヲ用キタリ]

第十表 (其五) 宮古地震一日中ノ分布

(明治十六年三月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)

(明治二十九年六月地震計据へ付ク、但其前ニモ地震計ヲ備へア)  
 (リシガ不完全ナリキ)

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
0-1	1	4	2	5	1	4	1	7	2	1	2	1	31
1-2	0	4	0	4	2	1	4	4	4	2	3	1	29
午 2-3	5	3	0	2	4	3	3	0	2	1	3	4	30
3-4	1	2	3	2	1	3	1	2	2	2	3	1	23
4-5	2	3	2	2	0	3	3	4	1	2	0	2	24
5-6	1	5	0	3	3	1	0	3	1	2	3	0	22
前 6-7	0	3	1	2	0	6	5	2	1	0	2	1	23
7-8	1	2	1	2	1	4	4	4	3	1	2	1	26
8-9	1	3	3	2	2	7	2	5	2	1	5	0	33
9-10	0	1	1	7	2	4	3	10	2	0	3	1	34
10-11	2	1	0	1	3	5	8	8	1	1	3	2	35
11-12	0	0	1	1	2	5	0	7	5	4	2	3	30
0-1	1	3	0	3	2	2	1	3	3	2	2	1	23
1-2	2	3	2	2	1	10	2	3	3	3	2	4	37
午 2-3	2	3	0	2	0	3	0	1	1	3	2	1	18
3-4	1	2	4	1	2	5	3	4	2	2	0	1	27
4-5	0	6	2	2	0	4	3	7	3	2	3	2	34
5-6	1	4	5	3	0	4	5	12	2	4	0	2	42
後 6-7	1	1	1	1	2	3	7	9	1	4	3	2	35
7-8	4	2	6	4	2	3	3	4	2	1	3	1	35
8-9	1	2	3	3	3	8	3	2	6	5	0	1	37
9-10	0	2	1	1	3	6	2	2	2	5	1	1	26
10-11	5	2	4	0	1	6	2	0	0	4	1	3	28
11-12	0	2	2	0	1	6	2	3	4	0	1	1	22
合計	32	63	44	55	38	106	67	106	55	52	49	37	704

第十表 (其六) 山形地震一日中ノ分布

(明治二十二年十二月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)  
 (明治二十二年七月地震計据付ク但明治廿五年六月ヨリ同二)  
 十七年八月マテ使用中止

時間	月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
0-1	時	2	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	6
1-2	時	0	3	0	5	0	2	2	0	0	0	0	1	13
午 2-3	時	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	1	5
3-4	時	0	1	1	0	2	0	2	0	0	0	0	0	6
4-5	時	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	3
5-6	時	1	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	7
前 6-7	時	0	0	1	1	3	2	1	1	0	0	0	0	9
7-8	時	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	6
8-9	時	1	1	0	1	2	4	0	2	0	0	0	0	11
9-10	時	0	0	0	3	1	2	0	5	1	0	0	1	13
10-11	時	0	0	0	1	2	0	2	3	1	0	0	1	10
11-12	時	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	2	6
0-1	時	1	0	0	0	1	1	2	1	0	1	0	0	7
1-2	時	1	0	0	0	3	4	1	0	1	0	0	1	11
午 2-3	時	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	4
3-4	時	1	0	1	0	1	1	2	1	0	0	0	1	8
4-5	時	1	1	0	2	1	1	0	2	1	0	0	1	10
5-6	時	1	0	2	1	1	0	1	2	3	0	0	1	12
後 6-7	時	1	1	0	1	1	1	5	6	1	2	0	0	19
7-8	時	1	1	3	0	1	1	0	2	0	0	0	0	9
8-9	時	0	0	0	1	0	1	0	1	2	0	0	1	6
9-10	時	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	4
10-11	時	2	0	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	7
11-12	時	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	5
合計		13	14	9	19	29	26	20	32	13	6	1	15	197

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

第十表 (其七) 石巻地震一日中ノ分布

(明治十九年一月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)

(明治廿九年七月以降大形鎚形地震計使用)  
(其前使用ノ小形地震計据付ク年月不詳)

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
0-1	1	2	0	0	1	2	2	4	6	3	2	0	23
1-2	1	5	0	3	3	3	7	3	4	5	3	4	41
午 2-3	3	1	0	4	3	7	4	2	1	1	5	3	34
3-4	0	3	4	3	3	2	1	4	0	3	5	2	30
4-5	3	2	2	5	7	2	3	7	2	3	3	1	40
5-6	0	5	4	6	4	1	4	3	4	1	0	5	37
前 6-7	2	2	5	1	2	3	8	7	2	4	4	0	40
7-8	0	3	3	2	2	4	2	2	5	1	2	2	28
8-9	2	3	0	5	3	4	2	4	5	4	7	2	41
9-10	1	0	1	5	5	6	2	11	2	4	5	1	43
10-11	3	2	0	2	4	4	4	10	8	6	4	4	51
11-12	0	1	1	5	2	0	4	9	7	2	3	5	39
0-1	2	0	1	4	4	4	2	5	3	2	4	2	33
1-2	1	1	3	5	5	8	7	6	7	5	9	5	62
午 2-3	4	7	5	3	8	5	13	12	9	7	10	7	90
3-4	2	2	2	2	4	2	5	7	8	3	4	5	46
4-5	2	3	2	3	3	4	3	8	2	6	9	2	47
5-6	3	4	4	5	4	0	10	5	4	7	4	3	53
後 6-7	0	2	2	4	5	5	10	12	5	6	5	1	57
7-8	2	1	3	6	3	3	5	4	8	0	1	0	36
8-9	1	1	3	2	2	3	6	4	8	4	9	5	48
9-10	2	4	3	5	6	2	5	2	3	2	2	1	37
10-11	5	2	3	3	2	2	7	4	2	8	9	7	54
11-12	2	3	3	1	0	1	3	1	3	0	4	3	24
合計	42	59	54	84	85	77	119	136	108	87	113	70	1034

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布



第十表 (其八) 福島地震一日中ノ分布  
 (明治廿二年五月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)  
 [明治廿八年三月廿七日地震計据付ク]

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
前 0-1	3	1	1	4	1	3	2	3	2	2	7	1	30
1-2	1	7	1	5	3	2	2	1	5	3	4	1	35
午 2-3	2	3	4	4	2	0	0	2	2	0	2	4	25
3-4	0	5	5	8	2	2	4	2	4	2	3	2	39
4-5	2	2	4	1	2	5	0	4	1	1	1	0	23
5-6	3	6	4	3	4	3	3	2	3	2	1	2	36
前 6-7	1	2	3	4	7	5	8	6	1	0	4	4	45
7-8	2	2	0	5	0	3	2	2	6	0	3	1	26
8-9	6	4	1	3	5	3	3	6	0	3	3	2	39
9-10	5	2	2	10	4	4	4	7	3	1	4	4	50
10-11	3	1	0	2	4	1	2	5	3	4	2	3	30
11-12	3	0	2	1	1	1	4	6	5	3	2	5	33
後 0-1	1	2	0	2	1	6	3	6	1	1	2	1	26
1-2	1	1	3	6	2	7	4	4	2	5	4	2	41
午 2-3	3	2	2	7	8	5	1	1	3	3	1	1	37
3-4	1	2	3	3	1	3	3	2	1	2	3	2	26
4-5	2	3	0	2	3	5	3	6	2	3	5	2	36
5-6	0	1	4	10	3	7	4	4	1	4	1	2	41
前 6-7	4	3	3	3	4	4	8	7	0	6	5	2	49
7-8	0	4	9	7	2	7	2	5	4	3	3	1	47
8-9	2	1	4	6	1	5	5	2	6	3	3	3	41
9-10	0	4	2	4	2	5	3	3	3	1	3	1	31
10-11	7	2	5	3	2	4	4	2	3	4	6	2	44
11-12	0	0	5	2	2	1	3	5	3	2	0	4	27
合計	52	60	67	105	66	91	77	93	64	58	72	52	857

第十表 (其九) 宇都宮地震一日中ノ分布  
 (明治廿四年一月ヨリ同卅二年十二月ニ至ル)  
 [明治廿六年七月地震計据付ケ]

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
前 0-1	3	0	1	1	0	3	2	1	0	1	0	3	15
1-2	3	1	1	2	2	1	0	2	3	0	1	2	18
午 2-3	0	1	1	1	3	0	3	1	0	0	3	1	14
3-4	1	2	2	6	3	2	0	0	0	0	3	1	20
4-5	2	1	1	1	1	2	1	2	1	1	0	0	13
5-6	3	3	1	1	1	2	3	2	1	2	0	1	20
前 6-7	1	2	3	3	2	1	5	3	2	4	2	2	30
7-8	0	2	1	0	2	4	0	2	1	0	3	0	15
8-9	6	5	0	4	0	0	1	4	1	1	2	2	26
9-10	2	2	0	3	2	2	1	6	2	1	3	1	25
10-11	3	2	0	2	2	3	2	3	5	3	1	2	28
11-12	2	0	2	0	2	1	1	4	2	2	2	4	22
後 0-1	3	1	1	0	3	1	4	4	0	1	0	1	19
1-2	2	0	3	3	0	5	1	1	0	5	3	1	24
午 2-3	3	2	1	1	4	3	2	1	2	3	1	0	23
3-4	1	1	0	3	2	2	1	0	1	5	2	2	20
4-5	1	1	1	1	0	1	3	3	1	1	0	4	17
5-6	1	1	1	1	2	3	3	2	0	2	0	0	16
後 6-7	1	2	3	0	2	2	3	4	0	5	1	1	24
7-8	1	3	3	4	2	4	2	1	0	4	0	1	25
8-9	0	2	3	2	2	1	3	1	2	2	1	3	22
9-10	3	4	0	2	1	1	2	2	3	3	4	1	26
10-11	4	1	2	2	0	2	2	0	1	1	2	1	18
11-12	3	1	2	1	1	0	1	1	0	0	0	2	12
合計	49	40	33	44	39	46	46	50	28	47	34	36	492

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

第十表 (其十) 東京地震一日中ノ分布

(明治九年一月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)

[凡テ地震計觀測ニ依ル]

第三十號 日本ニ於クル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
0-1 <sup>時</sup>	11	9	4	12	6	6	9	5	5	8	9	8	92
1-2	5	8	5	7	10	8	4	5	8	4	8	9	81
午 2-3	7	11	8	9	9	8	9	5	5	5	11	3	90
3-4	5	5	10	13	7	7	5	5	3	6	9	10	85
4-5	6	4	11	7	8	4	5	8	3	4	4	7	71
5-6	9	9	9	12	5	6	4	6	10	3	3	11	87
前 6-7	6	11	11	5	14	4	8	6	3	11	7	9	95
7-8	8	11	6	8	10	9	5	7	4	13	1	10	92
8-9	10	9	5	8	16	11	3	10	9	3	7	5	96
9-10	8	6	8	7	14	13	9	11	5	10	13	9	113
10-11	12	5	5	8	10	9	6	8	7	7	8	8	93
11-12	8	7	6	7	6	9	4	9	6	8	4	10	84
0-1	3	7	3	6	11	13	7	7	4	2	7	9	79
1-2	6	7	9	8	4	13	3	6	6	12	11	6	91
午 2-3	7	12	11	8	8	9	9	5	4	7	0	5	85
3-4	9	13	8	13	9	8	9	2	8	9	12	4	104
4-5	7	3	13	10	5	11	10	9	5	5	10	9	97
5-6	7	8	8	7	10	7	7	7	3	7	5	5	81
後 6-7	9	5	10	2	11	10	8	10	3	10	5	6	89
7-8	10	5	16	9	6	7	6	6	4	13	6	5	93
8-9	5	5	12	10	7	2	10	5	9	16	9	14	104
9-10	8	13	6	9	8	13	11	6	5	5	9	7	100
10-11	16	8	15	13	3	7	10	5	4	10	6	10	107
11-12	11	11	16	7	13	8	6	5	6	3	4	9	99
合計	193	192	215	205	210	202	167	158	129	181	168	188	2208

第十表 (其十一) 前橋地震一日中ノ分布  
 (明治廿九年十二月ヨリ同卅二年十二月ニ至ル)  
 [凡テ地震計觀測ニ依ル]

時間	月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
前	0-1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	1	5
	1-2	0	2	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	6
	2-3	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3
	3-4	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
	4-5	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	4
	5-6	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	1	6
	6-7	0	0	1	1	1	0	3	0	0	0	2	0	8
	7-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	8-9	2	2	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	8
	9-10	0	0	1	0	0	1	0	2	1	0	1	2	8
	10-11	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	2	6
	11-12	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3
後	0-1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	3
	1-2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	2-3	1	0	1	0	1	0	1	1	0	3	0	1	9
	3-4	0	0	1	0	0	1	0	0	1	2	0	1	6
	4-5	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	7
	5-6	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	0	4
	6-7	0	0	1	0	0	0	2	1	2	1	1	0	8
	7-8	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
	8-9	0	0	2	1	0	0	0	0	1	1	0	0	5
	9-10	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	4
	10-11	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	1	0	5
	11-12	0	2	1	0	0	0	0	1	0	1	0	2	7
合計		5	8	17	8	7	6	13	14	10	12	13	13	126

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

第十表 (其十二) 新潟地震一日中ノ分布  
 (明治十九年四月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)  
 (明治廿六年十二月地震計据付ク)  
 (同 廿七年一月觀測開始)

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
0-1	1	0	0	2	1	0	1	0	0	1	0	0	6
1-2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	3
午 2-3	2	0	0	2	2	3	0	0	1	0	0	0	10
3-4	0	1	0	1	2	1	0	0	1	0	0	1	7
4-5	0	1	0	1	2	2	0	0	2	0	1	0	9
5-6	2	1	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	7
前 6-7	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	2	0	8
7-8	0	1	1	1	2	1	0	0	0	1	0	0	7
8-9	2	1	0	3	1	0	0	2	0	1	0	0	10
9-10	0	1	0	0	3	1	1	2	2	0	0	1	11
10-11	0	0	2	1	4	0	0	2	0	0	0	1	10
11-12	1	0	0	1	1	0	2	1	2	2	1	0	11
0-1	0	0	0		0	0	1	0	1	0	0	0	2
1-2	0	1	0	0	0	2	1	0	1	2	1	0	8
午 2-3	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	1	0	5
3-4	1	0	0	1	1	1	1	1	1	3	0	0	10
4-5	0	1	0	1	1	0	0	3	2	0	2	1	11
5-6	0	0	3	1	1	2	1	1	0	2	0	0	11
後 6-7	0	0	0	1	1	1	2	0	0	1	1	0	7
7-8	0	1	1	5	0	2	0	0	0	0	1	1	11
8-9	0	0	1	3	2	6	2	0	1	2	0	0	17
9-10	0	0	0	3	3	0	0	0	0	1	0	0	7
10-11	3	0	1	5	0	2	1	0	0	1	0	0	13
11-12	0	1	1	9	0	1	0	0	1	1	1	0	15
合計	12	11	11	43	29	29	15	12	15	20	13	6	216

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及び一日中ノ分布

第十表 (其十三) 長野地震一日中ノ分布

(明治二十二年三月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)

[明治廿二年四月地震計据付ク]

時間	月		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
	時	時													
前	0-1	1	0	1	0	1	0	0	1	0	2	0	2	2	9
	1-2	1	1	3	2	2	0	0	1	1	1	1	0	2	14
	2-3	1	4	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	9
	3-4	1	0	2	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	10
	4-5	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6
	5-6	1	2	2	1	2	2	0	1	0	2	0	1	1	14
	6-7	0	2	2	1	3	0	1	0	0	1	1	2	2	13
	7-8	0	1	0	2	0	0	1	0	0	2	0	0	0	6
	8-9	1	1	1	2	1	0	1	0	1	1	1	0	1	10
	9-10	3	1	1	1	3	1	1	1	1	2	1	2	1	18
	10-11	1	1	2	0	2	0	1	1	0	2	3	2	2	15
	11-12	3	0	0	0	0	3	0	1	0	0	2	2	2	11
後	0-1	0	0	0	1	3	2	0	0	0	0	0	0	2	8
	1-2	1	1	2	0	2	1	0	0	1	1	1	0	0	9
	2-3	1	4	3	2	2	2	0	0	0	3	1	1	1	19
	3-4	4	1	2	2	5	0	1	0	0	1	2	0	0	18
	4-5	0	4	1	1	6	2	1	1	1	3	2	1	1	23
	5-6	1	1	1	2	2	1	3	0	0	2	1	1	1	15
	6-7	2	0	0	0	2	1	2	0	1	4	1	0	0	13
	7-8	0	1	3	2	0	0	0	1	0	1	1	1	1	10
	8-9	1	0	1	1	0	0	1	1	1	6	2	1	1	15
	9-10	1	1	0	2	6	0	0	0	1	2	2	1	1	16
	10-11	2	3	2	4	2	0	2	0	0	1	1	0	0	17
	11-12	0	0	2	0	1	0	1	2	0	1	2	0	0	9
合計		26	31	31	32	48	16	19	10	11	36	26	21	307	

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

其十表 (其十四) 沼津地震一日中ノ分布  
 (明治十七年十二月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)  
 [未タ地震計ノ備付ケナシ]

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及び一日中ノ分布

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
前 0-1	1	1	1	0	1	1	0	0	1	1	1	0	8
1-2	1	0	0	0	1	1	0	0	2	1	0	1	7
午 2-3	0	2	1	0	0	2	0	0	1	2	0	0	8
3-4	0	1	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	6
4-5	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
5-6	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	5
前 6-7	0	2	3	1	1	0	1	0	0	3	0	0	11
7-8	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	4
8-9	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	6
9-10	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	4
10-11	1	1	1	2	2	0	0	0	0	1	1	0	9
11-12	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	4
後 0-1	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	4
1-2	2	1	1	1	0	0	0	1	0	1	0	2	9
午 2-3	1	2	1	3	1	2	0	0	0	0	0	0	10
3-4	2	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	5
4-5	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3
5-6	1	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	1	6
後 6-7	3	0	0	0	0	0	1	1	3	0	1	1	10
7-8	2	1	2	1	1	0	0	0	0	0	1	1	9
8-9	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	4
9-10	0	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	7
10-11	5	0	1	2	1	1	2	0	0	1	2	1	16
11-12	0	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5
合計	22	15	21	16	10	12	8	7	15	18	9	9	162

(第十表) (其十五) 濱松地震一日中ノ分布  
 (明治十八年一月ヨリ同卅二年十二月ニ至ル)  
 [未タ地震計ヲ据付クス]

時間	月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計	
前	0-1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3	
	1-2	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	5	
	2-3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	5	
	3-4	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3	
	4-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5-6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	4
	6-7	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4
	7-8	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0	5
	8-9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	4
	9-10	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	10-11	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	5
	11-12	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	5
後	0-1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	1-2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	4	
	2-3	1	2	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	7	
	3-4	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	
	4-5	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	5	
	5-6	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	1	1	6	
	6-7	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	7-8	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0	5	
	8-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	4	
	9-10	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	1	1	7	
	10-11	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	7	
	11-12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
合計	12	9	4	10	6	4	1	2	3	25	16	7	99		

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布



第十表 (其十六) 名古屋地震一日中ノ分布

(明治廿四年十月廿九日ヨリ同三十二年十二月末日ニ至ル)

[凡テ地震計觀測ニ依ル]

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
前 0-1	7	1	4	5	5	4	0	1	5	30	30	7	99
1-2	13	3	6	5	5	2	2	5	2	24	42	8	117
午 2-3	14	4	7	2	5	0	3	6	3	19	24	9	96
3-4	9	4	6	3	2	1	2	5	3	20	34	12	101
4-5	14	4	8	4	3	2	3	4	3	22	22	14	103
5-6	10	4	4	2	5	2	2	3	5	15	21	9	82
前 6-7	5	6	2	1	2	1	1	3	2	14	14	10	61
7-8	7	5	4	2	2	5	0	2	2	16	10	5	60
8-9	8	8	7	4	2	6	0	8	0	22	12	5	82
9-10	5	2	7	2	1	5	2	5	2	11	20	5	67
10-11	6	3	3	2	2	4	2	7	2	10	13	3	57
11-12	6	4	6	6	4	5	1	3	5	14	22	6	82
後 0-1	4	7	4	0	0	2	3	4	3	16	9	3	55
1-2	19	4	5	4	3	2	2	4	2	12	12	10	79
午 2-3	9	3	3	1	3	2	0	4	2	17	11	1	56
3-4	7	2	4	6	3	4	3	2	4	18	12	7	72
4-5	6	4	3	5	4	2	3	1	5	12	14	6	65
5-6	5	4	5	6	2	4	5	8	4	14	17	4	78
前 6-7	6	3	0	0	1	1	4	6	2	15	10	7	55
7-8	9	3	8	3	1	1	2	2	2	17	18	9	75
8-9	8	1	0	2	3	3	1	1	1	11	25	11	67
9-10	8	6	7	5	3	2	0	2	0	13	24	9	79
10-11	9	6	5	6	4	0	4	1	5	18	23	4	85
11-12	8	6	7	4	3	4	2	3	2	19	18	5	81
合計	202	97	115	80	68	64	47	90	66	399	457	169	1854

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及び一日中ノ分布

第十表 (其十七) 岐阜地震一日中ノ分布

(明治廿四年十月廿九日ヨリ同三十二年十二月末日ニ至ル)

[凡テ地震計觀測ニ依ル]

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
午前													
0-1	13	6	8	6	3	1	2	0	7	24	63	14	147
1-2	15	6	11	7	2	3	1	6	5	32	70	19	177
2-3	12	8	13	10	7	3	3	8	8	40	67	22	201
3-4	9	5	11	8	4	3	4	4	6	42	53	21	170
4-5	7	9	5	8	8	4	4	3	6	60	62	24	200
5-6	14	8	5	11	11	3	2	6	8	40	64	24	196
6-7	11	9	4	13	9	5	10	3	10	21	57	22	174
7-8	17	5	6	10	7	10	4	5	9	28	42	15	158
8-9	9	9	7	7	7	6	1	8	3	36	37	24	154
9-10	10	12	6	12	6	8	5	5	3	21	37	22	147
10-11	13	3	4	11	4	2	7	3	4	22	45	21	139
11-12	10	5	5	6	8	6	4	2	8	38	55	18	165
午後													
0-1	12	9	10	5	6	4	2	3	10	38	39	32	170
1-2	15	11	7	10	3	2	6	7	8	33	41	25	168
2-3	10	8	8	12	4	3	5	5	9	17	50	19	150
3-4	7	4	10	5	6	6	5	8	9	25	36	26	147
4-5	10	7	5	8	6	4	5	9	3	25	37	19	138
5-6	16	9	5	5	5	4	7	4	10	21	50	21	157
6-7	20	8	10	10	10	2	5	6	4	32	42	32	181
7-8	24	14	11	4	4	6	3	7	7	46	63	21	210
8-9	17	11	14	17	3	4	5	3	12	36	53	19	194
9-10	8	8	12	13	4	5	3	4	7	24	60	35	183
10-11	28	13	9	17	6	7	8	6	13	26	62	24	219
11-12	15	15	9	8	9	7	7	5	8	16	55	14	168
合計	322	202	195	223	142	108	108	120	177	743	1240	533	4113

第十表 (其十八) 津地震一日中ノ分布

(明治廿二年七月ヨリ同卅二年十二月ニ至ル)

[明治三十二年二月一日地震計据ヘ付ク]

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
0-1	0	1	1	2	0	0	0	2	0	4	9	0	19
1-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	3	10
午 2-3	3	3	3	0	0	0	0	0	1	4	5	2	21
3-4	1	0	1	1	0	0	1	2	0	5	4	1	16
4-5	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4	6	0	12
5-6	2	1	2	0	0	0	0	0	1	3	0	2	11
前 6-7	1	2	0	1	0	0	0	1	0	16*	5	4	(15*) 30
7-8	0	0	0	0	0	1	0	0	0	32*	3	4	(9*) 40
8-9	1	0	1	1	0	1	0	0	0	9	1	0	14
9-10	1	0	1	1	0	0	0	0	0	5	4	1	13
10-11	0	0	4	0	0	1	1	0	1	10	5	1	23
11-12	1	1	2	0	0	0	0	0	1	4	6	0	15
0-1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4	1	0	7
1-2	3	0	0	2	1	0	0	1	1	3	4	3	18
午 2-3	1	0	1	0	1	0	0	2	1	2	2	0	10
3-4	2	1	1	0	0	1	0	0	0	2	5	3	15
4-5	2	1	1	1	1	0	1	0	0	3	7	3	20
5-6	2	1	1	1	1	0	1	2	0	6	3	2	20
後 6-7	3	1	0	0	0	0	1	0	0	5	2	1	13
7-8	2	1	0	1	0	0	0	2	0	10	5	2	23
8-9	3	1	0	0	1	0	0	0	0	3	6	1	15
9-10	1	1	2	1	1	1	0	1	0	4	6	2	20
10-11	2	0	2	2	0	0	1	0	0	5	6	1	19
11-12	1	1	2	0	1	1	0	0	0	4	1	1	12
合計	32	17	26	15	7	6	6	13	7	150	100	37	(370*) 416

[\*印ヲ附シタルハ明治廿四年十月廿八日濃尾大地震ノ餘震ニ係リ非常ニ夥シキヲ以テ(合計)ヲ取ルニハ此等ヲ省キタリ]午前六時ヨリ七時迄一時間ノ地震回数ヲ得ルニハ其時間ニ於ケル地震回数ノ和ヨリ十月ニ屬スルモノヲ減シ其ノ差ニ $\frac{12}{11}$ ヲ乘シタル結果15回ヲ用ユ]午前七時ヨリ八時迄一時間ノ地震ノ回数ノ場合ニモ同一ノ方法ヲ用ヰタリ]

第十表 (其十九) 彦根地震一日中ノ分布  
 (明治廿七年一月ヨリ同卅二年十二月ニ至ル)  
 [凡テ地震計觀測ニ依ル]

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
0-1	2	0	0	2	1	0	2	0	1	0	0	1	9
1-2	1	0	0	1	3	0	0	1	1	0	1	0	8
午 2-3	1	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	5
3-4	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	4
4-5	3	1	0	2	1	1	0	2	1	0	0	4	15
5-6	3	1	1	1	2	1	5	1	2	0	0	0	17
前 6-7	1	1	3	3	1	1	1	0	0	1	2	0	14
7-8	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	1	6
8-9	1	0	1	1	0	2	1	1	0	1	0	1	9
9-10	2	0	2	1	1	0	1	1	0	2	0	1	11
10-11	2	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	0	8
11-12	2	0	0	0	1	0	0	2	1	0	6	1	13
0-1	1	1	1	0	1	1	0	2	0	0	0	2	9
1-2	3	1	0	2	1	2	0	2	0	1	0	1	13
午 2-3	2	1	0	0	1	1	1	1	0	2	0	0	9
3-4	1	0	1	2	1	0	2	0	0	2	0	1	10
4-5	1	0	0	3	1	1	1	2	0	0	0	0	9
5-6	2	1	0	0	1	3	2	1	1	2	0	0	13
後 6-7	4	0	0	1	0	0	1	0	1	1	1	0	9
7-8	2	1	2	1	0	0	0	3	1	0	0	1	11
8-9	2	0	0	1	0	2	0	1	1	1	1	0	9
9-10	0	2	1	0	2	2	0	1	0	1	0	0	9
10-11	4	0	0	3	0	0	2	2	0	0	1	0	12
11-12	1	2	3	0	0	2	2	2	0	0	0	1	13
合計	42	13	17	27	18	24	23	28	10	15	13	15	245

第三十號 日本ニ於タル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

第十表 (其二十) 和歌山地震一日中ノ分布

(明治十二年九月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)

[明治廿一年一月地震計据付ク]

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及び一日中ノ分布

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
0-1	2	1	1	1	0	1	0	1	0	1	2	1	11
1-2	1	0	0	1	6	0	1	0	3	1	3	1	17
午 2-3	0	1	2	0	3	1	2	2	1	1	1	1	15
3-4	5	1	0	2	3	0	2	1	1	2	0	1	18
4-5	3	1	1	1	1	2	1	0	1	2	3	2	18
5-6	2	2	2	0	5	0	1	2	1	2	1	0	18
前 6-7	0	1	0	3	1	4	0	1	1	2	1	1	15
7-8	1	0	2	5	1	1	4	1	2	0	0	1	18
8-9	0	0	2	1	2	2	1	3	1	0	0	1	13
9-10	2	1	1	2	2	1	2	1	2	1	3	0	18
10-11	2	1	2	1	1	0	1	2	2	0	0	1	13
11-12	1	0	0	1	1	2	2	1	0	0	3	3	14
0-1	2	0	3	1	1	0	1	4	4	2	2	1	21
1-2	4	2	1	4	3	0	0	1	3	0	1	1	20
午 2-3	0	0	0	1	1	2	1	2	1	0	0	2	10
3-4	2	1	4	0	1	1	2	1	0	2	2	0	16
4-5	0	1	5	2	1	2	3	1	1	1	2	0	19
5-6	2	3	7	1	1	1	3	0	1	0	3	2	24
後 6-7	1	0	0	1	1	3	2	1	0	1	1	0	11
7-8	2	0	4	2	3	3	2	0	2	0	0	2	20
8-9	1	2	1	0	2	2	2	1	1	3	0	1	16
9-10	2	3	0	1	4	3	2	1	3	1	1	0	21
10-11	1	4	3	5	0	1	1	1	0	6	0	1	23
11-12	1	0	0	2	2	0	1	0	3	2	1	2	14
合計	37	25	41	38	46	32	37	28	34	30	30	25	403

第十表 (其二十一) 濱田地震回数一日中ノ分布  
 (明治廿六年ヨリ同卅二年ニ至ル)  
 [明治二十七年七月地震計据へ付ク]

時間	月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計	
前	0-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	1-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	2-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	4-5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	5-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6-7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10-11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	11-12	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3
後	0-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	1-2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3	
	2-3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	
	3-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4-5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	3	
	5-6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	6-7	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3	
	7-8	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	
	8-9	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	
	9-10	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	10-11	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	
	11-12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
合計	2	2	2	1	1	1	1	4	3	5	3	5	30		

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

第十表 (其二十二) 高知地震一日中ノ分布

(明治十六年ヨリ同三十二年ニ至ル)

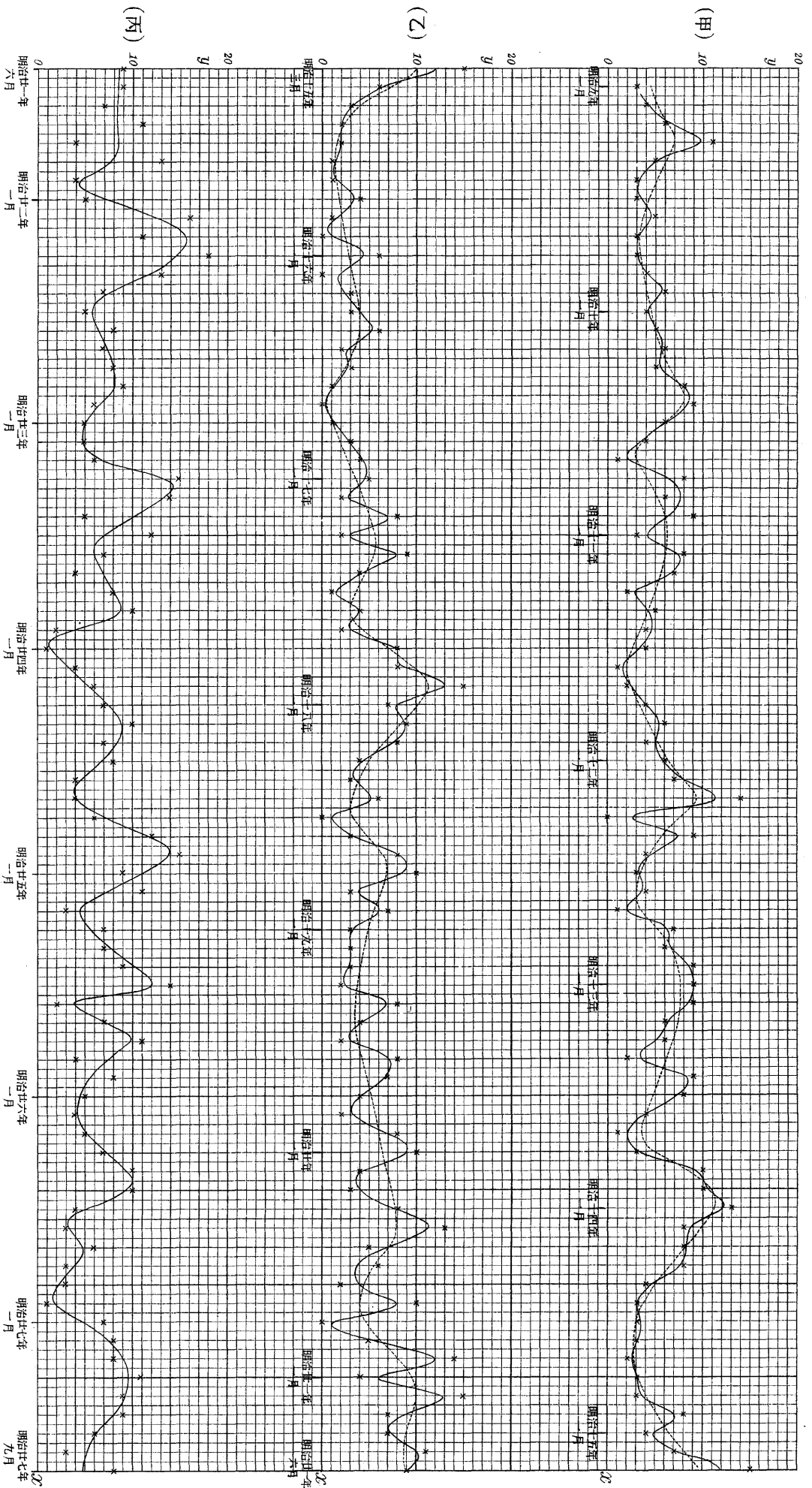
[明治二十六年十二月地震計据ヘ付ケ]

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
午前													
0-1	0	1	2	2	1	0	0	0	0	0	0	1	7
1-2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
2-3	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	4
3-4	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	5
4-5	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
5-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
6-7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
7-8	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
8-9	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
9-10	0	1	1	3	1	0	2	0	0	0	0	0	8
10-11	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	5
11-12	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3
午後													
0-1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
1-2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
2-3	0	1	1	0	0	1	0	0	0	2	1	1	7
3-4	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
4-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
7-8	3	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	1	6
8-9	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	1	1	6
9-10	0	0	0	1	0	0	1	1	2	0	0	0	5
10-11	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	3
11-12	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	1	0	5
合計	6	10	8	8	4	9	7	6	5	7	7	9	86

第一圖

東京ニ於ケル地震回数月々ノ變化  
(明治九年ヨリ廿七年九月ニ至ル)



乙 = 時(月)ヲ以テ示ス. y = 東京ニ於ケル毎月地震回数.

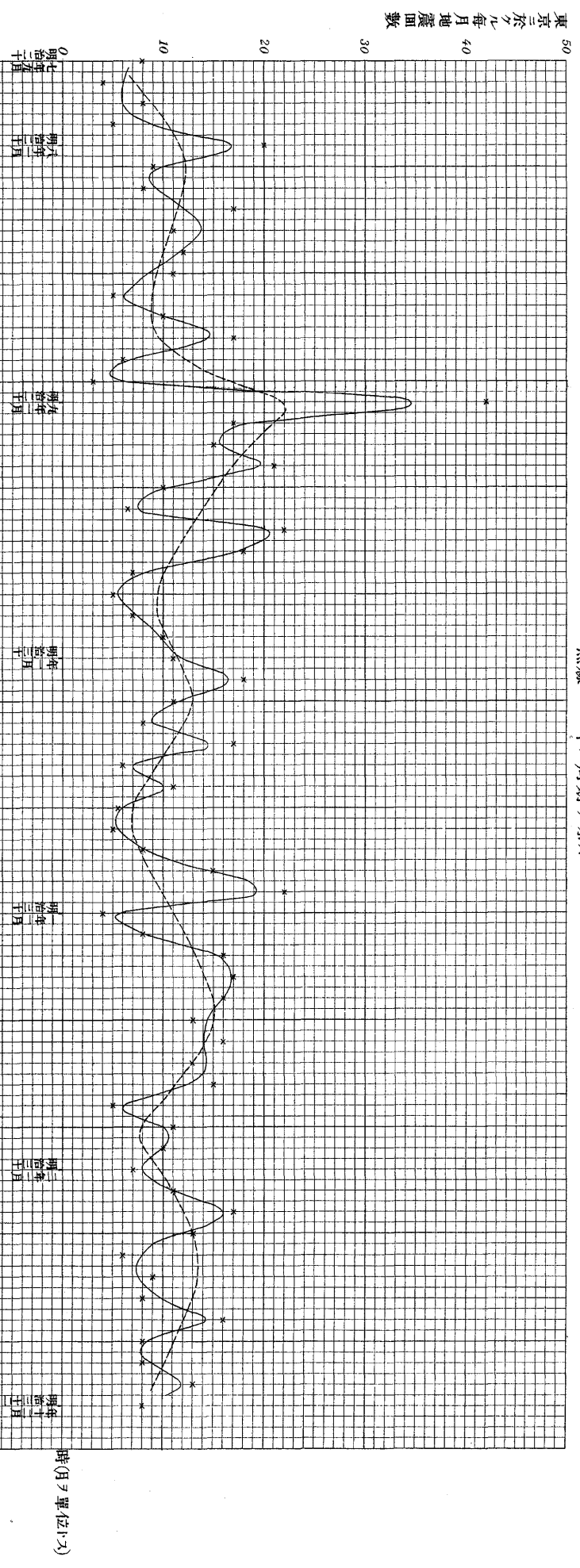
(乙)ハ(甲)ノ續キ(丙)ハ(乙)ノ續キナリ.

(甲)及ヒ(乙)ニ於ケル点線ハ一年ノ周期ヲ示ス.

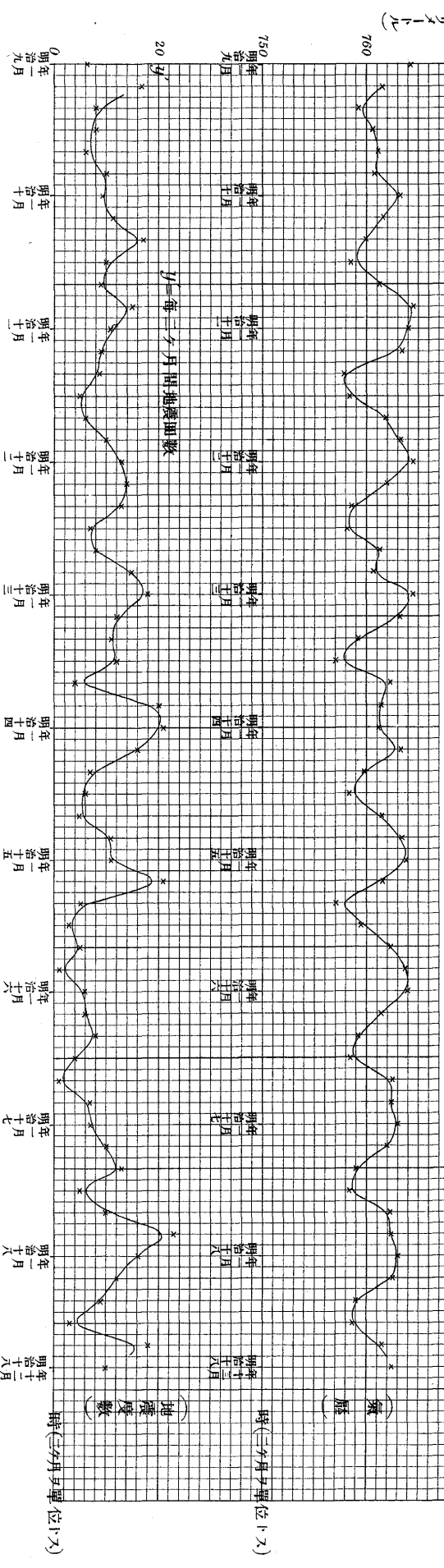
(丙)ハ主トシテ半年ノ周期ヲ示ス.



第一圖 (續キ) (丁)  
東京ニ於ケル地震回数月々ノ變化  
(明治二十七年九月ヨリ三十二年十二月ニ至ル)  
点線ハ一年ノ周期ヲ示ス



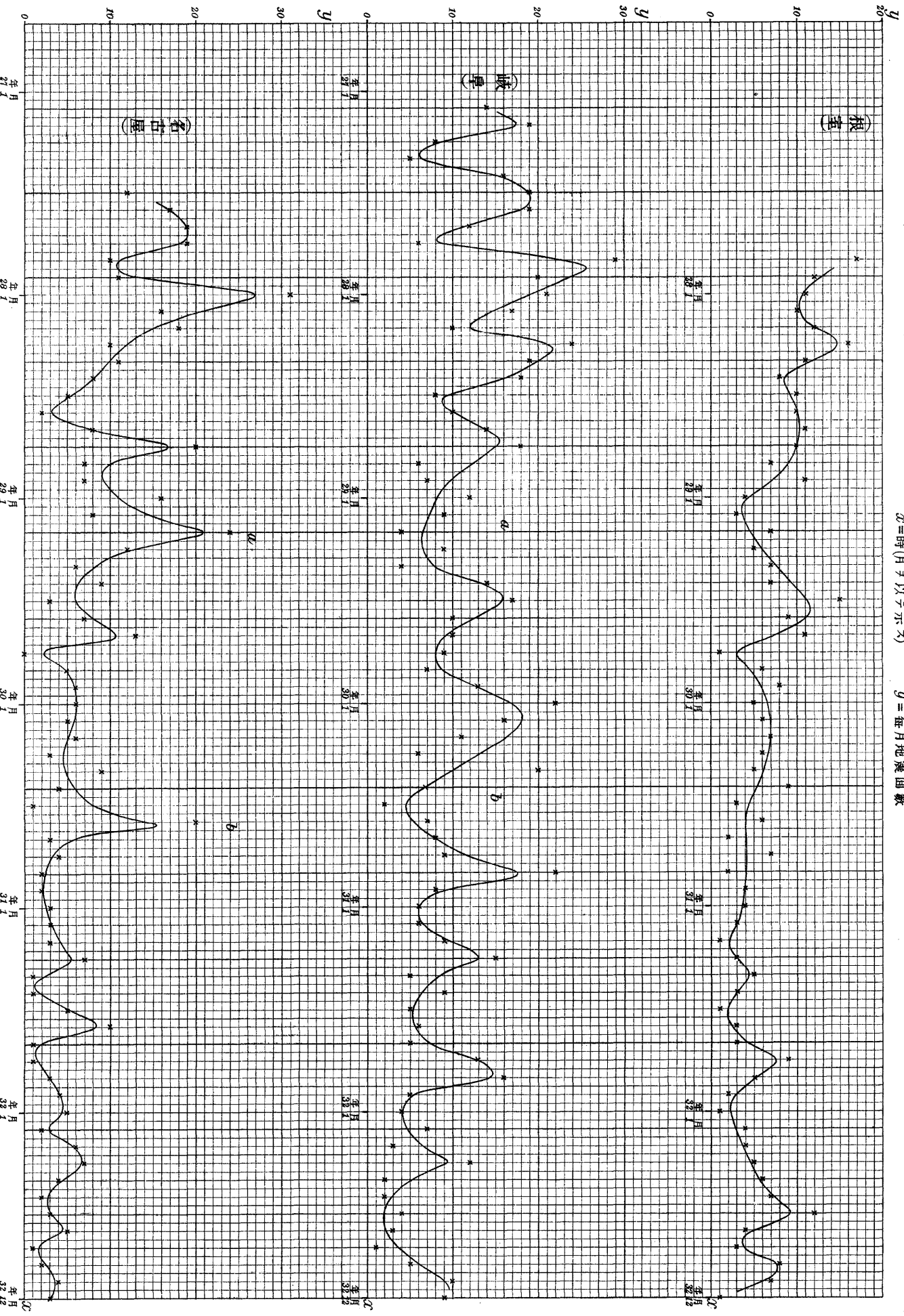
第二圖 東京ニ於ケル地震回数及ヒ氣壓ノ變化(一年間ノ周期ヲ示ス)  
(明治九年一月ヨリ十八年十二月ニ至ル)



第三圖

根室 岐阜 及 名古屋ニ於ケル地震回数月々ノ變化

(明治廿七年末ヨリ廿二年十二月ニ至ル)  
 〇=時(月)ヲ以テ示ス  
 Y=毎月地震回数



第十表 (其二十三) 廣島地震一日中ノ分布

(明治十七年十二月ヨリ同卅二年十二月ニ至ル)

[明治廿五年十二月地震計据ヘ付ク但シ機械ニ故障アリ]

時 間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合 計
前 0-1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4	1	7
1-2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5
午 2-3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
3-4	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	7
4-5	1	0	0	1	0	0	3	1	1	0	0	0	7
5-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
前 6-7	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3
7-8	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	6
8-9	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
9-10	2	1	1	2	0	0	1	0	1	0	0	0	8
10-11	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3
11-12	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3
後 0-1	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	3
1-2	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	4
午 2-3	0	1	0	0	0	1	0	1	0	2	0	1	6
3-4	1	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	5
4-5	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	3
5-6	1	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	6
後 6-7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
7-8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
8-9	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
9-10	1	1	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	6
10-11	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	4
11-12	1	2	0	0	2	0	1	1	1	0	1	0	9
合 計	12	11	6	10	9	5	9	8	6	12	12	7	107

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

第十表 (其二十四) 大分地震一日中ノ分布

(明治廿年一月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)

[明治二十一年一月小形鋸形地震計据へ付ク同二十八年一月新器械据へ付ク]

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
午前 0-1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	4
午前 1-2	1	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	2	8
午前 2-3	0	1	0	0	0	0	2	1	3	0	0	1	8
午前 3-4	1	0	0	2	1	0	1	0	0	0	2	1	8
午前 4-5	2	0	1	1	0	1	1	0	2	0	0	0	8
午前 5-6	2	2	2	0	2	0	1	2	1	0	1	1	14
午前 6-7	1	2	2	0	0	0	0	0	1	1	4	2	13
午前 7-8	1	1	0	2	1	2	0	1	0	5	3	0	16
午前 8-9	0	0	1	0	0	0	2	3	0	0	2	2	10
午前 9-10	1	4	2	1	0	0	1	0	1	2	1	2	15
午前 10-11	2	2	0	4	0	1	1	1	0	1	4	0	16
午前 11-12	0	0	1	1	2	1	0	1	0	1	1	2	10
午後 0-1	1	0	1	3	0	0	0	2	1	0	2	1	11
午後 1-2	1	1	2	3	0	1	1	1	0	1	0	1	12
午後 2-3	1	1	0	1	0	1	0	0	2	2	1	1	10
午後 3-4	3	1	1	1	0	0	1	1	0	2	2	0	12
午後 4-5	3	0	2	2	1	0	0	1	0	0	0	0	9
午後 5-6	0	1	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	5
午後 6-7	0	1	0	1	0	0	1	2	1	1	1	2	10
午後 7-8	0	1	1	0	0	1	0	1	1	2	2	0	9
午後 8-9	2	1	0	1	0	1	1	1	0	0	1	0	8
午後 9-10	0	1	1	0	1	1	0	1	0	2	1	1	9
午後 10-11	0	2	0	1	0	0	0	1	0	4	0	0	8
午後 11-12	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	4
合計	22	22	20	25	9	12	16	21	14	27	30	19	237

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及び一日中ノ分布

第十表 (其二十五) 熊本地震一日中ノ分布

(明治二十三年正月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)

[明治廿三年二月ヨリ地震計ニテ觀測ス但卅年八月ヨリ新器械ヲ据付ル]

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
前 0-1	3	2	2	4	1	5	1	11	7	2	3	2	43
1-2	3	4	0	2	2	3	2	9	3	7	3	1	39
午 2-3	0	1	3	0	1	1	3	7	2	2	3	1	24
3-4	6	3	2	0	1	2	0	5	3	1	3	2	28
4-5	3	5	1	0	3	1	1	6	8	5	2	2	37
5-6	3	5	5	1	3	1	1	7	3	3	4	4	40
前 6-7	8	5	2	2	2	4	2	10	4	6	2	0	47
7-8	2	1	3	2	4	5	1	11	5	4	3	3	44
8-9	5	4	2	1	3	3	0	16	6	3	4	1	48
9-10	4	1	6	6	6	2	4	12	5	8	2	4	60
10-11	3	4	6	3	5	8	2	12	4	1	2	1	51
11-12	4	4	4	7	4	3	0	2	5	3	5	2	43
後 0-1	8	4	1	7	2	3	0	9	7	2	2	3	48
1-2	3	2	5	7	5	3	1	6	3	6	3	2	46
午 2-3	1	2	6	5	3	4	2	7	6	6	3	6	51
3-4	2	1	1	3	5	6	2	11	7	3	5	3	49
4-5	1	3	5	5	3	3	5	6	3	3	0	2	39
5-6	3	4	2	2	5	2	1	3	3	2	0	3	30
後 6-7	3	2	4	2	2	1	1	9	6	4	2	0	36
7-8	4	4	1	0	5	2	0	7	4	6	4	1	38
8-9	2	2	3	3	3	0	2	5	3	1	3	4	31
9-10	4	3	3	3	4	5	2	9	4	4	7	2	50
10-11	4	0	2	2	4	3	2	8	4	4	4	2	39
11-12	3	2	5	3	4	3	2	15	7	2	6	1	53
合計	82	68	74	70	80	73	37	203	112	88	75	52	1014

第十表 (其二十六) 鹿兒島地震一日中ノ分布  
 (明治十八年三月ヨリ同三十二年十二月ニ至ル)  
 (明治二十年十一月「ミルン」氏地震計据付ケ)  
 (同三十二年一月元日新器械据付ケ)

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及ビ一日中ノ分布

時間	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
0-1	1	3	2	2	1	1	1	1	2	2	1	0	17
1-2	4	1	1	2	0	1	0	3	2	1	1	5	21
午 2-3	1	0	1	0	1	0	1	0	4	3	1	2	14
3-4	2	0	0	1	2	1	0	0	4	0	0	1	11
4-5	2	2	0	1	1	0	1	0	2	0	0	0	9
5-6	0	0	1	6	0	1	0	0	0	3	2	0	13
前 6-7	2	2	0	0	2	5	0	0	1	3	1	1	17
7-8	2	1	0	0	1	1	2	1	3	3	1	1	16
8-9	0	1	1	4	0	0	0	1	3	1	0	0	11
9-10	4	3	4	1	0	2	0	1	0	1	2	0	18
10-11	4	2	0	6	0	0	2	3	0	0	1	1	19
11-12	1	2	2	1	3	2	0	1	3	0	2	0	17
0-1	0	1	0	0	2	0	2	2	2	3	2	1	15
1-2	5	2	2	4	3	4	2	0	1	5	2	1	31
午 2-3	1	1	1	1	3	2	2	2	3	0	1	1	18
3-4	2	1	1	1	1	0	0	2	3	3	1	2	17
4-5	1	2	1	3	1	1	0	3	2	0	0	2	16
5-6	3	2	5	3	1	1	0	0	2	2	1	2	22
後 6-7	2	0	2	1	0	1	1	2	2	1	1	3	16
7-8	0	1	2	3	3	0	2	0	3	4	0	1	19
8-9	2	2	2	1	3	1	1	1	2	0	1	0	16
9-10	1	2	0	2	2	0	3	2	2	1	1	1	17
10-11	5	1	0	4	0	1	0	1	1	3	3	3	22
11-12	0	2	0	3	0	0	1	1	2	2	1	0	12
合計	45	34	28	50	30	25	21	27	49	41	26	28	404

## 十六(地震度數一日中變化ノ例) 地震度數一日中變化ノ例トシテ第十三圖(一ヨリ三迄)(イ)ニ東京、根室、熊本

三ヶ所ニ於ケル每一時間地震度數ノ變化ヲ曲線ニテ示ス、三ヶ所ノ曲線ハ皆其形狀頗ル不整ニシテ且互ニ相似ザレドモ能ク此等ヲ吟味スレバ自ラ一定ノ條理アルヲ認ムベシ

東京(第十三圖(一)イ)東京ニ於テ明治九年ヨリ三十二年未迄二十四年間ニ器械ヲ以テ觀測セル地震ノ總數ハ二千二百零八回(第十表(其十)ヲ見ヨ)ニシテ之ヲ一日中二十四時間ニ配布スレバ平均一時間ニ九十二回トナル其一日中一度數變化ノ曲線ヲ見ルニ殆ド相等シキ二個ノ主ナル最大 $a$ 及 $b$ ヲ呈ス $a$ ハ百十三回ニシテ午前九時ト十時ノ間ニアリ、 $b$ ハ百零七回ニシテ午後十時ト十一時ノ間ニアリ即チ $a$ ト $b$ トノ間ハ約十二時間ナレバ此ノ場合ニハ一日間ノ周期ハ顯著ナラズシテ一日ノ二分一ニ當ル長サ(十二時間)ノ周期ヲ示スモノトス尙 $a$ ト $b$ ノ間ニ $c$ 及 $d$ ナル他ノ少ナル二回ノ最大ヲ呈ス $c$ ハ九十回ニシテ午前二時ト三時ノ間、又 $d$ ハ百零四回ニシテ午後三時ト四時ノ間ニアリ其間ハ亦粗ボ十二時間トナル即全体ヨリ見レバ $a$  $b$  $c$  $d$ ナル四個ノ最大アリテ其間ハ約六時間ナレバ $c$ 及 $d$ ハ一日ノ四分一ニ當ル長サ(六時間)ヲ有スル周期ニ屬スルモノナルベシ $a$ 及 $b$ ナル最大ニ對シテハ $a'$ 及

$b'$ ナル二個ノ最小アリ $a'$ ハ七十一回ニシテ午前四時ト五時ノ間、 $b'$ ハ八十一回ニシテ午後五時ト六時ノ間ニアリ即兩者ノ間ハ約十二時間トナル又 $c$ 及 $d$ ナル最大ニ對シテハ $c'$ 及 $d'$ ナル二個ノ最小アリ $c'$ ハ八十一回ニシテ午前一時ト二時ノ間、 $d'$ ハ七十九回ニシテ午後零時ト一時ノ間ニアリ其間ハ同ク約十二時間ナリ $aa'$ ナル差ハ四十二回、又 $bb'$ ナル差ハ二十六回ニシテ各每一時間平均回數ノ百分ノ四十六及 $b$ 百分ノ二十八ニ當ル

根室(第十三圖(二)イ)根室ニ於テ明治二十七年三月二十三日ヨリ三十二年未迄ニ器械ヲ以テ觀測セル地震ノ總數ハ九百九十一回(第十表(其一)ヲ見ヨ)ニシテ之ヲ一日中二十四時間ニ配布スレバ平均四十一回、三トナル其一日中一度數變化ノ曲線ヲ見ルニ絶對的の最大 $b$ ハ五十三回ニシテ午前十一時ト十二時ノ間ニアリ又絶對的の最小 $b'$ ハ二十五回ニシテ午後二時ト三時ノ間ニアリ而シテ $bb'$ ナル差ハ二十八回ニシテ每一時間平均回數ノ百分ノ六十八ニ當ル $c$ 曲線ノ形狀ハ簡明ナラザレドモ平均位置ヲ通シテ畫シタル點線ニ就キテ考フルニ $a$  $b$ 及 $b'$ ナル三個ノ最大アリテ相互間ハ八時間ナレバ此ノ場合ニハ一日ノ三分一(八時間)ノ長サヲ有スル周期ガ顯著ナリト認ムベキナリ $c$ 以上三個ノ最大ニ對シテ $a'$  $b'$  $c'$ ナル三個ノ最小ア

熊本〔第十三圖(三)イ〕熊本ニ於テ明治二十三年正月ヨリ三十二年未迄ニ殆ト全ク器械ヲ以テ觀測セル地震ノ總數ハ一千零十四回〔第十表(其二十五)ヲ見ヨ〕アリ之ヲ一日中二十四時間ニ配布スレバ平均一時間四十二回、二トナル其一日中震度變化ノ曲線ハ二個ノ顯著ナル最大 $a$ 、 $b$ ヲ呈ス $a$ ハ六十回ニシテ午前九時ト十時ノ間ニアリ又 $b$ ハ五十回ニシテ午後九時ト十時ノ間ニアリ $ab$ 間ハ正サニ十二時間ニシテ一日ノ二分一(十二時間)ノ長サヲ有スル周期ヲ示スモノナルベシ、 $a$ 及ビ $b$ ナル最大ニ對シテ $a'$ 及ビ $b'$ ナル二個ノ最小アリ $a'$ ハ二十四回ニシテ午前二時ト三時ノ間ニアリ又 $b'$ ハ三十回ニシテ午後五時ト六時ノ間ニアリ、絶對的最大 $a$ ト絶對的最小 $a'$ トノ差ハ三十六回ニシテ每一時間平均數ノ百分ノ八十二ニ當ル

**十七 一日中絶對的最大及ビ最小地震度數ガ現ハル、時刻** 第〔十六〕章ニ記シタル三個所ノ例ニ於テハ一日中震度ノ絶對的最大ハ午前九時ト十時ノ間若クハ午前十一時ト十二時ノ間ニアレドモ諸地方トモ凡テ亦皆此ノ如クナルニハアラス左ノ第十一表ニ諸地方ニ於ケル絶對的最大ト最小ノ現ハル、時間ヲ示ス

第十一表 一日中ノ地震分布ニ於テ絶對的最大及ビ最小地震度數ガ現ハル、時刻

地名	最大カ現ハル、時刻	最小ガ現ハル、時刻
根室	午前十一時ト十二時ノ間	午後二時ト三時ノ間
宮古	午後五時ト六時ノ間	午後二時ト三時ノ間
石卷	午後二時ト三時ノ間	午前零時ト一時ノ間
福島	午後九時ト十時ノ間	午前四時ト五時ノ間
宇都宮	午前六時ト七時ノ間	午後十一時ト十二時ノ間
東京	午前九時ト十時ノ間	午後四時ト五時ノ間
名古屋	午前一時ト二時ノ間	午後零時ト一時ノ間
岐阜	午後十時ト十一時ノ間	午後四時ト五時ノ間
津	午前十時ト十一時ノ間 午後七時ト八時ノ間	午後零時ト一時ノ間
和歌山	午後五時ト六時ノ間	午後二時ト三時ノ間
熊本	午前九時ト十時ノ間	午前二時ト三時ノ間
鹿兒島	午後一時ト二時ノ間	午前四時ト五時ノ間

第十一表ニハ暫ク地震觀測ノ總數四百回以上ノ地方十二ヶ所ノミヲ収メタリ即地震度數一日中ノ分布ハ晝夜ノ別ニ從テ吾人生活ノ有様ヲ異ニスル等種々ノ事情ニ由リテ觀測ノ精否ヲ支配セラルベキヲ以テ觀測回數ノ少ナキ地方ハ凡テ上表ヨリ省キタルナリ

第十一表ニ依レバ一日中最大ト最小地震度數ノ現ハル、時刻



ハ地方ニ從テ同一ナラザルニ似タリ其原因ハ或ハ諸地方ニ於ケル觀測ノ悉ク充分夥多ナラザルニアルヤモ知ルベラカザレドモ要スルニ次章ニ論ズル如ク諸地方ニ於ケル一日中震度ノ變化ハ其性質ガ全ク同一ナラザルコト、即チ重ナル周期ノ長サガ相異ナルコト其主因トナルベシト思ハル

**十八(一日中震度變化ノ周期ニ就キテ) 地震度數**

ガ一日中ノ變化ヲ呈スル以上ハ二十四時間ノ周期ノミナラズ其ノ「ハルモニックス」即一日ノ二分一(十二時間)、三分一(八時間)、四分一(六時間)等ノ周期モ亦存シ得ベキノ理ナリ而シテ地方ニ依リテ種々ノ周期ガ顯著ナルベクレバ諸地方ニ於ケル一日中ノ震度變化ハ皆必ズ同一ノ周期ヲ有シ若クハ同一ノ時刻ニ於テ最大、最小ヲ呈スルモノトハ斷定シ能ハザル所ナリ

第十一表ニ列舉シタル地震觀測ノ回数四百回以上ニ達セル根室、宮古、石巻、福島、宇都宮、東京、名古屋、岐阜、津、和歌山、熊本、鹿兒島ノ十二ヶ所ニ於ケル一日中震度變化ノ顯著ナル周期ヲ見ル爲ニ第十四圖(一ヨリ三迄)及ビ第十三圖(一ヨリ三迄)ニ曲線ヲ畫シタリ其レヨリ判スルニ此等十二地方ハ其地震度數一日中ノ變化ニ從ヒ次ノ如ク四類ニ別ツコトヲ得ベシ

(甲) 十二時間ノ周期ヲ示スモノ「此ノ種類ニ屬スルハ福島、宇都宮、和歌山、熊本ノ四ヶ所ニシテ(第十四圖(一)及ビ第十三圖(三)ヲ見ヨ)其一日中震度變化ノ曲線ハ二回ノ最大ト二回ノ最小ヲ示ス

最大及ビ最小地震度數ノ現ハル、時刻ハ左ノ如シ(最大及ビ最小時刻ハ平均ノ位置ヲ通シテ畫セル曲線ニ由リテ認メタルモノナリ)

地名	第一回最大		第二回最大		第一回最小		第二回最小	
	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間	
福島	午前九時ト十時ノ間	午後八時ト九時ノ間	午前二時ト三時ノ間	午後二時	午前二時ト三時ノ間	午後三時ト四時ノ間	二時頃	
宇都宮	午前九時ト十時ノ間	午後八時ト九時ノ間	午前二時ト三時ノ間	午後三時ト四時ノ間	午前零時ト一時ノ間	午前十時ト十一時ノ間		
和歌山	午前四時ト五時ノ間	午前五時ト六時ノ間	午前零時ト一時ノ間	午前十時ト十一時ノ間	午前九時ト十時ノ間	午後六時ト七時ノ間		
熊本	午前九時ト十時ノ間	午後九時ト十時ノ間	午前二時ト三時ノ間	午後六時ト七時ノ間				

但シ宇都宮ハ下項東京ト同シク〔第十三圖(一)〕主ナル最大a  
 bノ外ニ第二等ノ最大cdヲ示スハ十二時ノ周期ノ外ニ六時  
 間ノ周期ヲ有スル爲ナルベシ以上四ヶ所ニ於テ諸最大地震  
 度數ノ現ハル時刻ハ粗互ニ近接シ若クハ全ク同一ナルヲ見ル  
 ベシ第一回、第二回ナル順次ハ單ニ時刻ノ前後ニ由リテ定

メタルモノトス以下之ニ倣フ  
 (乙)、八時間ノ周期ヲ示スモノ此ノ種類ニ屬スルハ根室、宮  
 古、岐阜、津ノ四ヶ所ニシテ〔第十三圖(二)〕及ビ第十四圖(二)  
 ヲ見ヨ其一日中震度變化ノ曲線ハ三回ノ最大ト三回ノ最小  
 ヲ示ス最大及ビ最小地震ノ現ハル、時刻ハ左ノ如シ

地名	第一回最大	第二回最大	第三回最大	第一回最小	第二回最小	第三回最小
根室	午前四時頃	午前十一時ト十二時ノ間	午後六時ト七時ノ間	午前八時ト九時ノ間	午後二時ト三時ノ間	午後十時ト十一時ノ間
宮古	午前一時ト二時ノ間	午前九時ト十時ノ間	午後六時ト七時ノ間	午前五時頃	午後二時頃	午後十一時頃
岐阜	午前四時ト五時ノ間	午後零時ト一時ノ間	午後九時頃	午前九時ト十時ノ間	午後三時ト四時ノ間	午後十時ト十一時ノ間
津	午前二時ト三時ノ間	午前十時ト十一時ノ間	午後七時ト八時ノ間	午前七時頃	午後一時ト二時ノ間	午前零時ト一時ノ間

此ノ如ク(乙)ノ場合ニモ諸最大及ビ最小地震度數ノ現ハル、  
 時刻ハ四ヶ所トモ大低互ニ相近接スルヲ見ルベシ又(甲)ニ  
 於ケル第二回ノ最小ト第二回ノ最大トハ各粗ボ(乙)ニ於ケル第  
 二回最小ト第三回最大ト同時刻ニ現ハル  
 (丙)、六時間ノ周期ヲ有スルモノ一日中震度ノ變化ガ顯著ナ  
 ル六時間ノ周期ヲ示スハ東京ナリ其四回ノ最大及ビ四回ノ最  
 小ガ現ハル、時刻ハ左ノ如シ〔第十六章參照〕

第一回最大	午前二時ト三時ノ間	第一回最小	午前一時ト二時ノ間
第二回最大	午前九時ト十時ノ間	第二回最小	午前四時ト五時ノ間
第三回最大	午後三時ト四時ノ間	第三回最小	午後零時ト一時ノ間
第四回最大	午後九時ト十時ノ間	第四回最小	午後五時ト六時ノ間

東京ニ於ケル第二回及ビ第四回ノ最大ハ(甲)ニ於ケル第一回  
 及ビ第二回ノ最大ト同一若クハ相接近ス

(丁)、四時間ノ周期ヲ有スルモノ」此ノ種類ニ屬スルハ石巻、名古屋、鹿兒島ノ三ヶ所ニシテ一日中震度ノ變化ハ六回ノ最大及ビ六回ノ最小ヲ示ス名古屋ノ曲線ハ少シク不整ナレドモ石巻及ビ鹿兒島ノ曲線ハ互ニ頗ル近似シ其絶對的最大のミナラズ六回ノ最大及ビ最小ガ現ハル、時刻ノ殆ト同一ナルハ偶然ニアラザルベキカ

以上(甲)(乙)(丙)(丁)ヲ通覽スルニ地方ニ依リテ一日中震度變化ノ周期ハ異ナレドモ同一周期ニ屬スル最大及ビ最小地震度數ハ諸地方ニ於テ粗同一時刻ニ現ハレントスル傾向アルニ似タリ蓋シ諸地方全体ニ擲ク外力アルノ結果ナルベキカ

### 十九(一日中地震度數變化ノ割合) 第十二表ニ諸

地方ニ於ケル一日中毎三時間別ク地震回數ヲ與フ

第十三表ニ諸地方ニ於ケル毎時間別ク並ニ毎三時間別ク地震回數表ヨリ調製セル最大及ビ最小回數、最大ト最小ノ差、平均回數、及ビ回數増減ノ割合ヲ與フ」但毎時間別クニ關スル分ヨリハ地震觀測回數ノ四百以下ナル札幌、外十四ヶ所ヲ省キ、又毎三時間別クニ關スル分ヨリハ百回以下ナル濱松、濱田、高知ノ三ヶ所ヲ省キキリ

第十二表 一日中地震度数ノ變化(毎三時間別ク)

地名	午前	午前	午前	午前	午後	午後	午後	午後	合計
	0-3	3-6	6-9	9-12	0-3	3-6	6-9	9-12	
根室	119	148	138	133	92	131	122	108	991
札幌	20	22	16	16	12	21	20	26	153
函館	44	35	27	30	38	38	48	41	301
秋田	40	44	36	41	36	44*	55*	44	340*
宮古	90	69	82	99	78	103	107	76	704
山形	24	16	26	29	22	30	34	16	197
石巻	98	107	109	133	185	146	141	115	1034
福島	90	98	110	113	104	103	137	102	857
宇都宮	47	53	71	75	66	53	71	56	492
東京	263	243	283	290	255	282	286	306	2208
前橋	14	13	17	17	15	17	17	16	126
新潟	19	23	25	32	15	32	35	35	216
長野	32	30	29	44	36	56	38	42	307
沼津	23	13	21	17	23	14	23	28	162
濱松	13	7	13	12	12	15	12	15	99
名古屋	312	286	203	206	190	215	197	245	1854
岐阜	525	566	486	451	488	442	585	570	4113
津	50	39	38*	51	35	55	51	51	370*
彦根	22	36	29	32	31	32	29	34	245
和歌山	43	54	46	45	51	59	47	58	403
濱田	2	2	0	4	6	4	8	4	30
高知	14	9	6	16	12	2	14	13	86
廣島	14	15	11	14	13	14	7	19	107
大分	20	30	39	41	33	26	27	21	237
熊本	106	105	139	154	145	118	105	142	1014
鹿児島	52	33	44	54	64	55	51	51	404
合計	2096	2096	2044	2149	2057	2107	2267	2234	17050

(秋田及ビ津ノ地震回数ノ内 \*印ヲ附シタルハ第十三表ニ依リ) (改正数ヲ用非タルモノナリ)

第十三表 一日中地震度數變化ノ割合

$f$  = 一時間平均地震回數  
 $g$  = 一時間地震回數ノ最大數ト  
 最小數トノ差  
 $h = \frac{g}{f}$  = 一日中時間別地震  
 回數増減ノ割合

$F$  = 每三時間平均地震回數  
 $G$  = 三時間地震回數ノ最大數ト  
 最小數トノ差  
 $H = \frac{G}{F}$  = 一日中每三時間別地  
 震回數増減ノ割合

地名	時間別					三時間別				
	最大地震回數	最小地震回數	$f$	$g$	$h$ %	最大地震回數	最小地震回數	$F$	$G$	$H$ %
根室	53	25	41.3	28	68	148	92	123.9	56	45
札幌						26	12	19.1	14	73
函館						48	27	37.6	21	56
秋田						55	36	42.5	19	45
宮古	42	18	29.3	24	82	107	69	88.0	38	43
山形						34	16	24.6	18	73
石巻	90	23	42.1	67	159	185	98	129.2	87	67
福島	50	23	35.7	27	76	137	90	107.1	47	44
宇都宮	30	12	20.5	18	88	75	47	61.5	28	46
東京都	113	71	92.0	42	46	306	243	276.0	63	23
東橋						17	13	15.7	4	25
前新						35	15	27.0	20	74
長野						56	29	38.4	27	70
沼津						28	13	20.2	15	74
濱松										
名古屋	117	55	77.2	62	80	312	190	231.7	122	53
岐阜	219	138	171.4	81	47	585	442	514.1	143	28
津	23	7	15.4	16	104	55	35	46.2	20	43
彦根						36	22	40.6	14	34
和歌山	24	10	16.7	14	84	59	43	50.4	16	32
濱田										
高知						19	7	13.4	12	90
廣島						41	20	29.6	21	71
大分										
熊本	60	24	42.2	36	85	154	105	126.7	49	39
鹿児島	31	9	16.8	22	131	64	33	50.5	31	61
平均					85					52

第十三表ニ由レバ毎時間別ク回数ニ就テハ十二ヶ所ニ於ケル増減ノ割合ハ百分ノ四十六ヨリ百分ノ百五十九ノ間ニアリ勿論第「十八」章ニ論ジタル如ク各地ノ周期ハ全ク同一ナラズト雖モ暫ク此等十二ヶ所ニ關スル數ヲ平均スレバ（地震觀測ノ總回数五百以上ノモノト以下ノモノトノ價值ハ二ト一ノ如シト假定ス）百分ノ八十五トナル

又毎三時間別ク回数ニ就テハ増減ノ割合ハ百分ノ二十三ヨリ百分ノ九十ノ間ニアリテ之ヲ上ト同様ノ方法ヲ以テ平均スレバ百分ノ五十二トナル

## 二十(地震度數一日中變化ノ原因) 地震度數一日

中變化ノ主因ハ氣壓一日中ノ變化ナラント思ハル。参考ノ爲第十四表ニ熊本外九ヶ所ノ一等測候所ノ觀測ニ係ル平均毎時氣壓ヲ與フ（此ノ表ハ中央氣象臺編纂日本風土篇ヨリ抄出セルモノナリ）

第十四表

氣壓一日中ノ變化

(中央氣象臺編纂日本風土編ヨリ抄出ス)

700<sup>ミリメートル</sup>+

地名時刻	熊本	松山	黄島	大阪	和歌山	長野	東京	函館	札幌	根室	
午前	一時	62.49	59.15	62.28	62.05	61.18	24.50	59.33	60.01	58.19	57.14
	二時	62.41	59.07	62.21	61.98	61.07	24.45	59.24	59.96	58.15	57.08
	三時	62.31	58.99	62.12	61.89	60.99	24.40	59.18	59.86	58.09	57.03
	四時	62.26	58.92	62.09	61.88	60.98	24.43	59.21	59.86	58.10	57.09
	五時	62.30	59.02	62.19	61.97	61.06	24.54	59.35	59.95	58.17	57.19
	六時	62.43	59.18	62.37	62.14	61.23	24.73	59.58	60.04	58.25	57.31
	七時	62.65	59.42	62.61	62.35	61.45	24.93	59.79	60.15	58.35	57.43
	八時	62.82	59.60	62.78	62.50	61.61	25.03	59.95	60.22	58.38	57.48
	九時	62.91	59.69	62.86	62.60	61.69	25.04	60.00	60.22	58.34	57.50
	十時	62.91	59.67	62.78	62.52	61.65	24.85	59.88	60.14	58.24	57.37
	十一時	62.69	59.45	62.51	62.27	61.42	24.48	59.49	59.92	57.99	57.10
正午	62.30	59.05	62.05	61.84	61.00	23.98	58.98	59.59	57.69	56.81	
午後	一時	61.86	58.65	61.59	61.40	60.60	23.54	58.56	59.36	57.47	56.61
	二時	61.53	58.42	61.30	61.13	60.31	23.33	58.31	59.25	57.40	56.56
	三時	61.34	58.27	61.14	61.02	60.18	23.32	58.27	59.31	57.46	56.63
	四時	61.32	58.27	61.15	61.04	60.18	23.40	58.33	59.41	57.58	56.72
	五時	61.44	58.37	61.27	61.13	60.27	23.59	58.52	59.56	57.72	56.87
	六時	61.66	58.57	61.51	61.36	60.48	23.89	58.82	59.76	57.93	57.06
	七時	61.97	58.82	61.82	61.65	60.77	24.20	59.14	59.98	58.12	57.22
	八時	62.29	59.07	62.12	61.93	61.05	24.47	59.40	60.16	58.30	57.38
	九時	62.51	59.30	62.32	62.14	61.27	24.61	59.60	60.22	58.39	57.42
	十時	62.66	59.39	62.48	62.23	61.37	24.67	59.61	60.22	58.37	57.38
十一時	62.66	59.37	62.46	62.21	61.35	24.63	59.54	60.17	58.32	57.30	
夜半	62.58	59.26	62.38	62.12	61.25	24.57	59.43	60.08	58.23	57.19	
平均	62.26	59.04	62.10	61.89	61.02	24.32	59.23	59.89	58.05	57.12	

第三十號 日本ニ於ケル地震ノ一年中及一日中ノ分布

地震度數及ビ氣壓一日中變化ノ關係ヲ見ン爲ニ第十三圖(ロハ) (一ヨリ三迄)ニ於テ例トシテ東京、根室、熊本ノ三ヶ所ニ於ケル毎三時間地震度數ト毎時氣壓ノ曲線トヲ示ス。地震度數ノ曲線ヲ畫スルニ毎三時間毎ノ回数ヲ取リタルハ數多ノ不整ナル點即(最大及ビ最小)ヲ滅却シテ簡單ナル形狀ヲ求メ以テ大体ノ有様ヲ知ラントスルニアリ(其三時間毎トセルハ單ニ適宜ニ定メタルノミナリ)

東京〔第十三圖(一)〕 毎三時間地震度數ノ曲線(ロ)ハ二回ノ最大A及ビBト二回ノ最小A'及ビB'ヲ示ス而シテ氣壓ノ曲線(ハ)モ亦二個ノ最大C及ビDト二個ノ最小C'及ビD'ヲ示シ兩曲線ノ形狀甚近似スルヲ見ルベシ殊ニ最大及ビ最小ノ現ハル、時刻ハ兩者トモ殆ド全ク同一ナリ即チ氣壓ノ最高ナルハ午前九時(C)ト午後九時及ビ十時(D)ニシテ地震度數ノ主ナル最大ハ午前九時ト十時ノ間(a)并ニ午後九時ト十時ノ間(b)ニ現ハル(イ)圖ヲモ參照スベシ又氣壓ノ最低ナルハ午前三時(C')ト午後三時(D')ニシテ地震度數モ此等ニ近キ時刻ニ於テ最小ナリ(A'及ビB')

根室〔第十三圖(二)〕 地震度數ノ曲線(ロ)ト氣壓ノ曲線(ハ)トハ共ニ二回ノ最大ト二回ノ最小トヲ示シ兩者ノ形狀能ク相近似ス殊ニ此ノ場合ニハ氣壓ノ絶對的最低C'ハ午後二時ニア

リテ地震度數ノ絶對的最低數A'モ亦午後一時ト二時ノ間ニ現ハル、ハ著シト云フベシ

熊本〔第十三圖(三)〕 地震度數ノ曲線(ロ)ト氣壓ノ曲線(ハ)トハ共ニ二回ノ最大ト二回ノ最小トヲ示シ兩者ノ形狀頗ル能ク相近似ス即チ氣壓ノ二回ノ最高C'トD'ハ各午前九時及ビ十時ト午後十時及ビ十一時ニアリテ地震度數ノ曲線モ亦午前九時ト十時ノ間(a)及ビ午後九時ト十時ノ間(b)ニ於テ最高ヲ示シ、(イ)圖ヲ見ヨ又氣壓曲線ハ一回ノ最低ヲ午前四時頃ニ示シ震度曲線ハ午前二時ト三時ノ間ニ最小ヲ示ス

此等ノ例ヨリ見レバ地震度數一日中變化ノ主因ハ氣壓ニアリト結論セザルヲ得ザルナリ。第十一表ニ列舉セル十二地方ノ中ニテ残り九ヶ所ニ於ケル地震度數一日中ノ變化ハ第十四圖(一ヨリ三迄)ニテ大体明カナルベシ就中福島、宇都宮、宮古、岐阜、津、名古屋ノ六個所ニ於ケル地震度數ノ曲線ハ氣壓ノ曲線ト大体相似タルモノトス他ノ三ヶ所、即和歌山、石巻及ビ鹿兒島ニ於ケル地震度數ノ曲線ハ氣壓ノ曲線トハ却ツテ正反對トナル其何ノ故ナルヤヲ審カニセズ暫ク記シテ疑ヲ存ス

**二十一** 一日中及ビ一年中地震度數ノ變化ノ比較 〔第十四章ニ記セル如ク(甲)地方ヲ震動スル地震ノ多數ガ陸地内ニ發起スルモノニシテ其一年中震度數ノ變化ハ氣壓



ノ變化ト能ク相似タレドモ(乙)地方ヲ震動スル地震ノ多數ハ海底ヨリ發起スルヲ以テ其一年中多數ノ變化ハ陸上ニ於ケル氣壓ノ變化トハ正ニ相反スルモノトス然ルニ一日中ノ地震度數變化ニ於テハ一般ニ此ノ如ク震原ノ陸地内ニ存スルト海底ニ存スルトニ由リテ一日中ノ變化ヲ異ニスルコトナキガ如シ例之ベ第十一表ニ列舉セル十二地方ノ中ニテ一年中地震度數變化ノ上ヨリ云ヘバ根室、宮古、福島、宇都宮等ノ如キハ(乙)地方ニ屬シ又東京、岐阜、名古屋、津、熊本等ノ如キハ(甲)地方ニ屬スルモノナレドモ其一日中ノ度數ノ變化ハ皆氣壓一日中ノ變化ト相近似スルヲ見ルベシ此事實ハ少シク互ニ撞着スルカノ如キ感アレドモ一年中地震度數ノ變化ヨリ推シテ其一日中ノ變化モ亦同一様ノ地理的關係ヲ有スベシト斷定スルノ理ハ更ニ無キナリ、蓋シ一事實ヨリ他ノ表面類似セル事實ヲ推究スルハ最注意ヲ要スル所ナルベシ他ノ例ヲ以テ示サンニ地震ト火山トノ關係ハ相密接ナルハ論ヲ俟タズ即火山多キ國ハ地殼ノ脆弱ナル地方ナルヲ以テ從テ地震多シト云フハ正確ナレドモ更ニ一步ヲ進メテ火山ノ直接傍ニハ地震最モ激シク又最頻繁ナリト假定スルハ全ク不可ナリトス即火山ノ直接傍ニハ伊豆ノ大島、伊太利國テール、ス府等ノ如ク寧ロ地震甚ダ稀ナル地方ニ屬スレバナリ且又一年中ノ氣壓ニ於テハ

日本ノ陸上ト北太平洋トハ其變化ガ殆ド正反對ナレドモ一日中ノ氣壓ノ變化ニ於テハ左ル事ナクシテ北太平洋ト日本陸上ニ於ケルト粗同一ノ性質ヲ有シ其差異トスベキハ唯前者ニ於ケル最高、最底ハ後者ニ於ケル如ク著シカラザルニアリ此事實モ亦地震度數ト氣壓トノ一日中變化ガ震原點所在ノ如何ニ關ラズ一般ニ相近似スルノ一因ナラント思ハル

**二十二(結論)** 上述セル所ヲ以テ見レバ地震度數ト氣壓ト

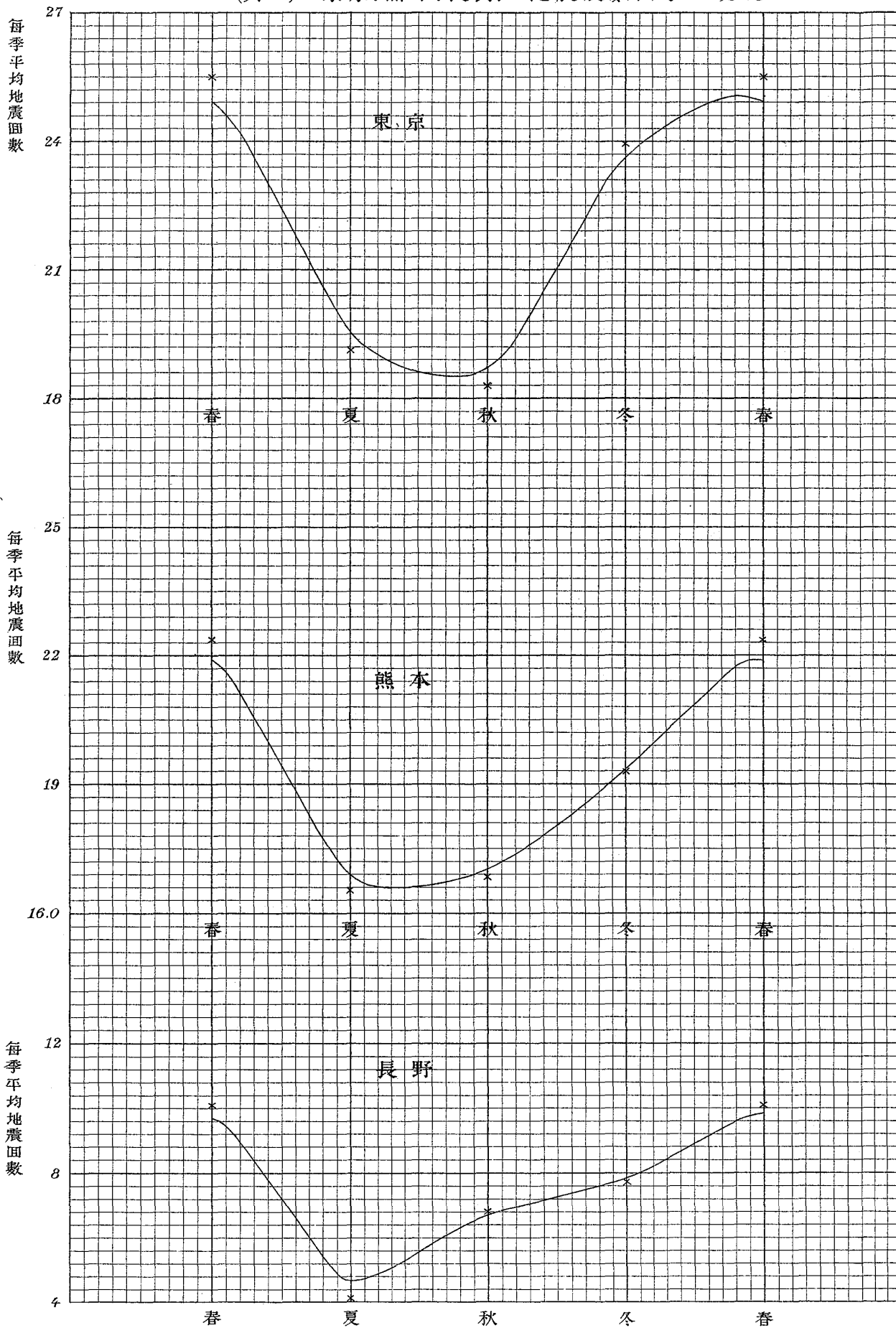
ノ關係ハ密接ノモノニシテ氣壓ノ變化ハ地震度數ノ上ニ大ナル影響ヲ及ボスモノナルガ如シ、但シ注意スベキ事ハ暴風雨等ニ際シテ氣壓ガ急ニ十乃至二十「ミリメートル」下降シ若クハ五乃至十「ミリメートル」上昇スルガ如キコトアレドモ斯カル單一ノ氣壓變化ハ其大サノ大ナルニ係ハラス格別地震度數ノ増減ヲ直接ニ伴フコトナキハ明治廿四年十月廿八日濃尾大地震ノ餘震ニ就キテ認メタル所ナリ然ルニ一年中及ビ一日中ノ變化ノ如キハ其大サハ甚ダ大ナルニ非ズト雖モ規則正シク増減シテ永久絶ユルコト無クレバ地殼中ニ存スル歪モ之ニ應ジテ同一ノ周期ヲ有スル變化ノ有様ヲ呈スルナラント思ハル」氣壓ノ變化ニハ一年中及ビ一日中ノ變化ノ外ニ尙他ノ周期ヲ有スル變化モ存スベキナリ此等ト地震度數トニ關スル調査ハ異日ヲ期シ茲ニハ單ニ一年中及ビ一日中地震度數變化ニ

就キテノミ簡易ノ方法ヲ以テ論述シタリ尙一年中及ビ一日中地震度數ニ就キテモ未タ充分ナル解説ヲ得ザル點多クレバ諸先輩ノ教ヲ請ハン爲ニ一年中及ビ一日中地震度數ノ分布表等ハ繁ヲ厭ハズ凡テ錄出セリ」地震度數ト氣壓ノ關係ヲ調査スルハ地殼物理學上ニ於テモ大切ナリ即地殼ノ剛柔ヲ判知スルノミナラズ地震原迄ノ深サヲ推知スルニモ參考トナルベシ因ニ記ス月ノ地殼ニ於ケル引カト地震度數トノ關係ハ未定ノ問題ニ屬スレトモ從來ノ方法ノ如ク諸地方ニ關スル地震記錄ヲ凡テ混同シテ論ズルハ不可ナルベシ此ニ反シテ根室、東京、岐阜、名古屋、熊本、鹿兒島等ノ如キ平常地震多ク或ハ餘震夥クシテ地殼中ノ歪ガ外力ニ感シ易キ地方ヲ個々別々ニ取リテ論ズレバ或ハ判明ナル結果ヲ得ルコトアラント思ハル

明治三十三年二月二十五日認ム

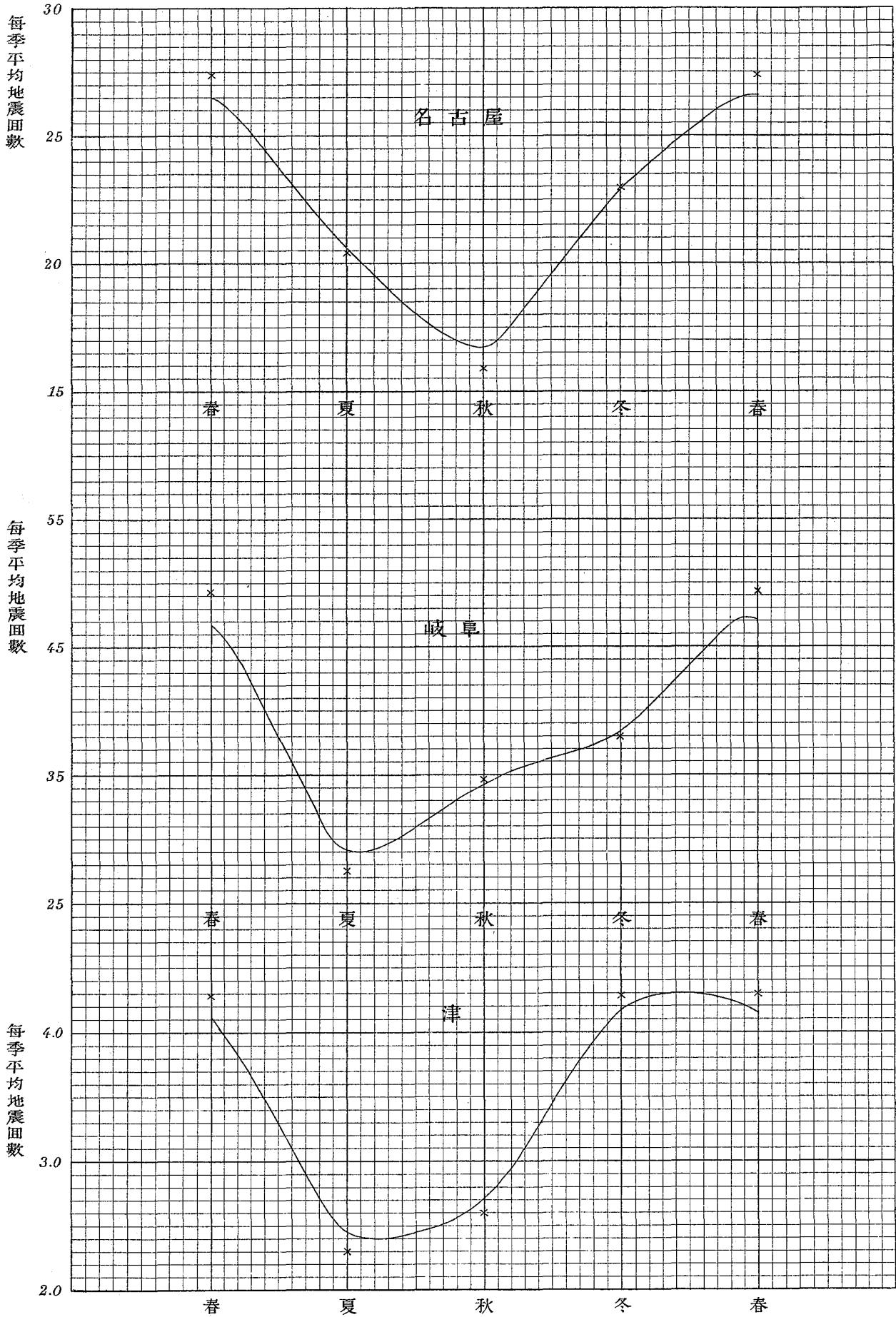
# 第四圖

(其一) 東京. 熊本. 長野. 地震度數四季ノ變化



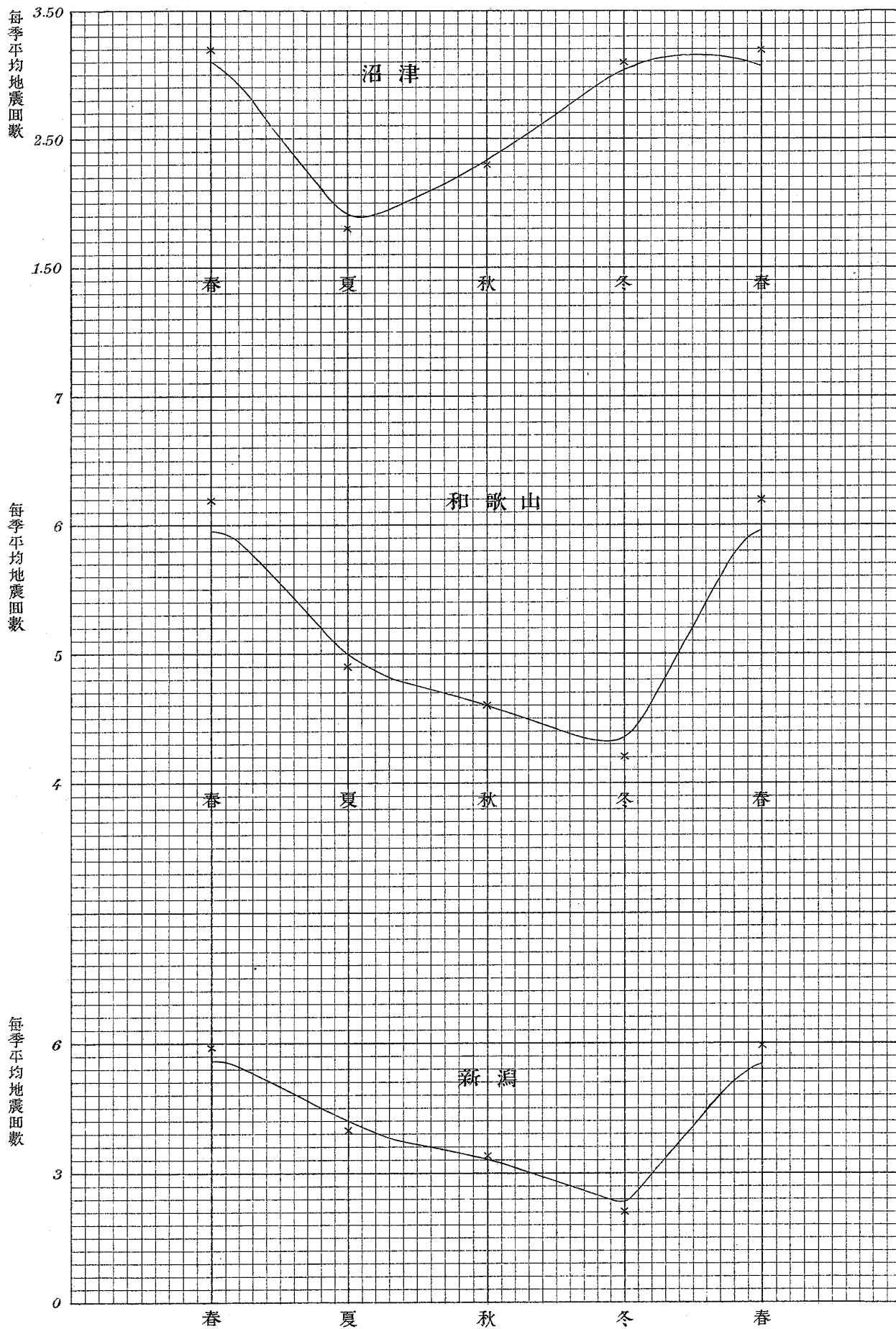
# 第四圖

(其二) 名古屋. 岐阜. 津. 地震度數四季ノ變化



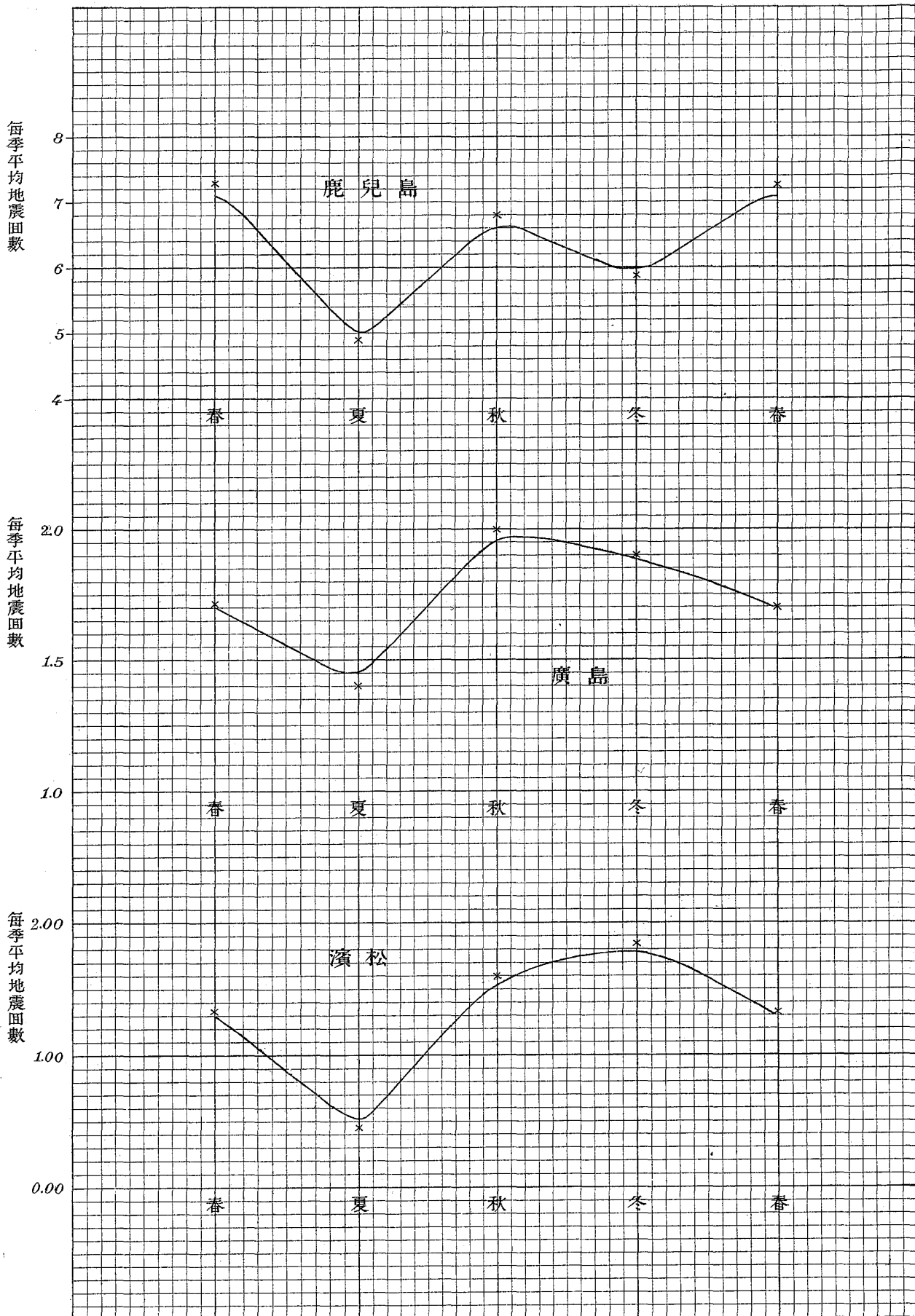
# 第四圖

(其三) 沼津. 和歌山. 新潟. 地震度數四季ノ變化



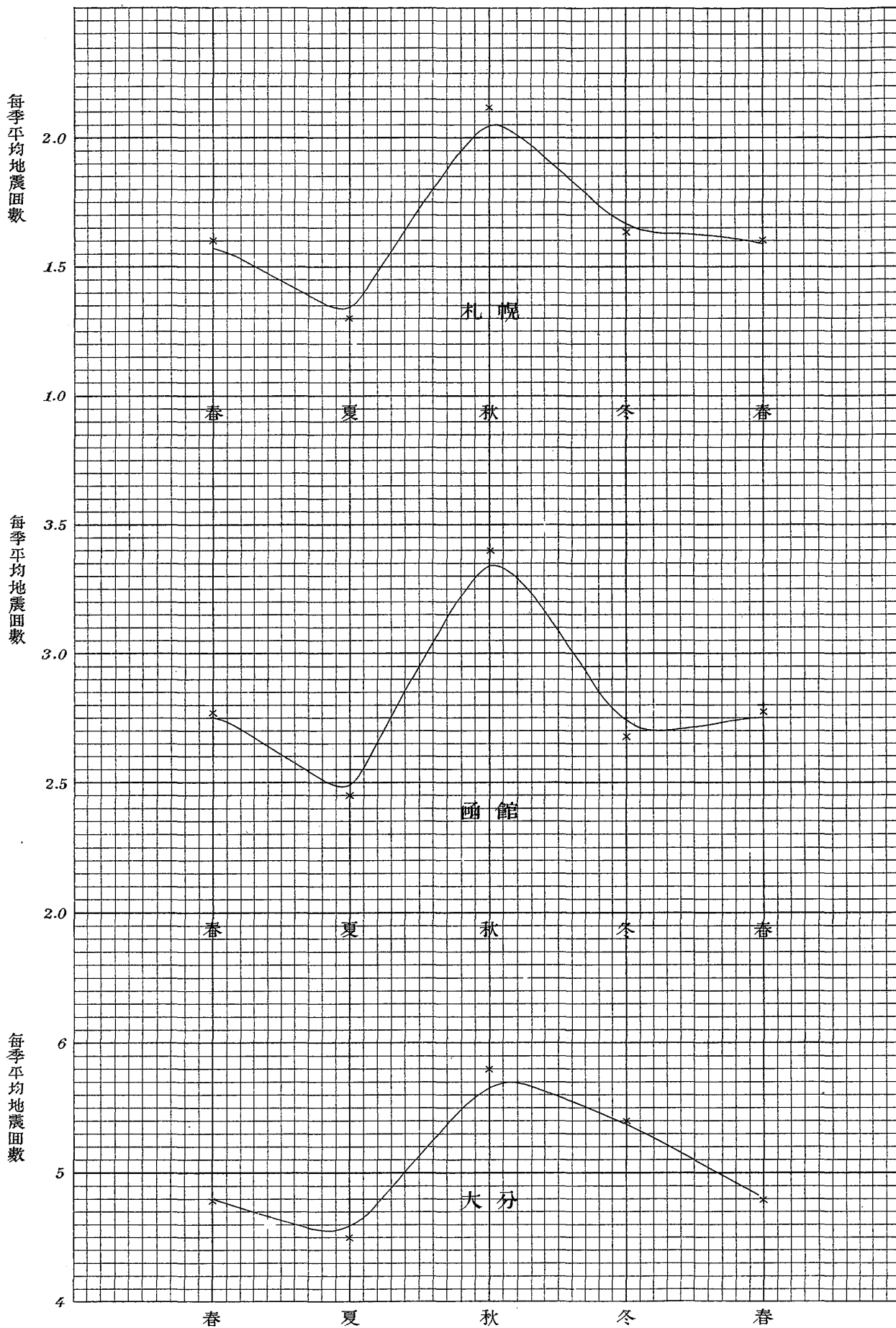
# 第四圖

(其四) 鹿兒島. 廣島. 濱松. 地震度數四季ノ變化



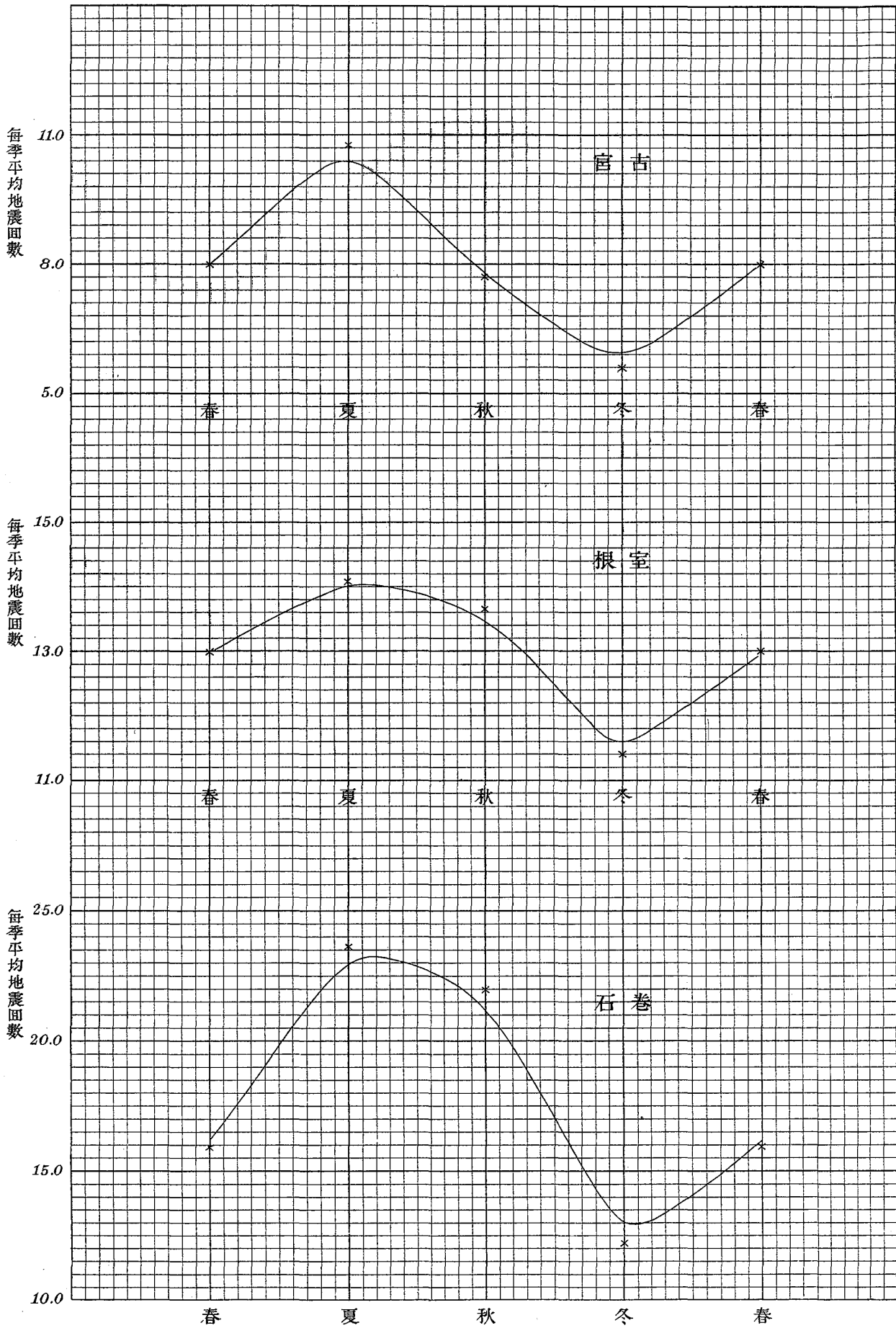
# 第四圖

(其五) 札幌. 函館. 大分. 地震度數四季ノ變化



# 第五圖

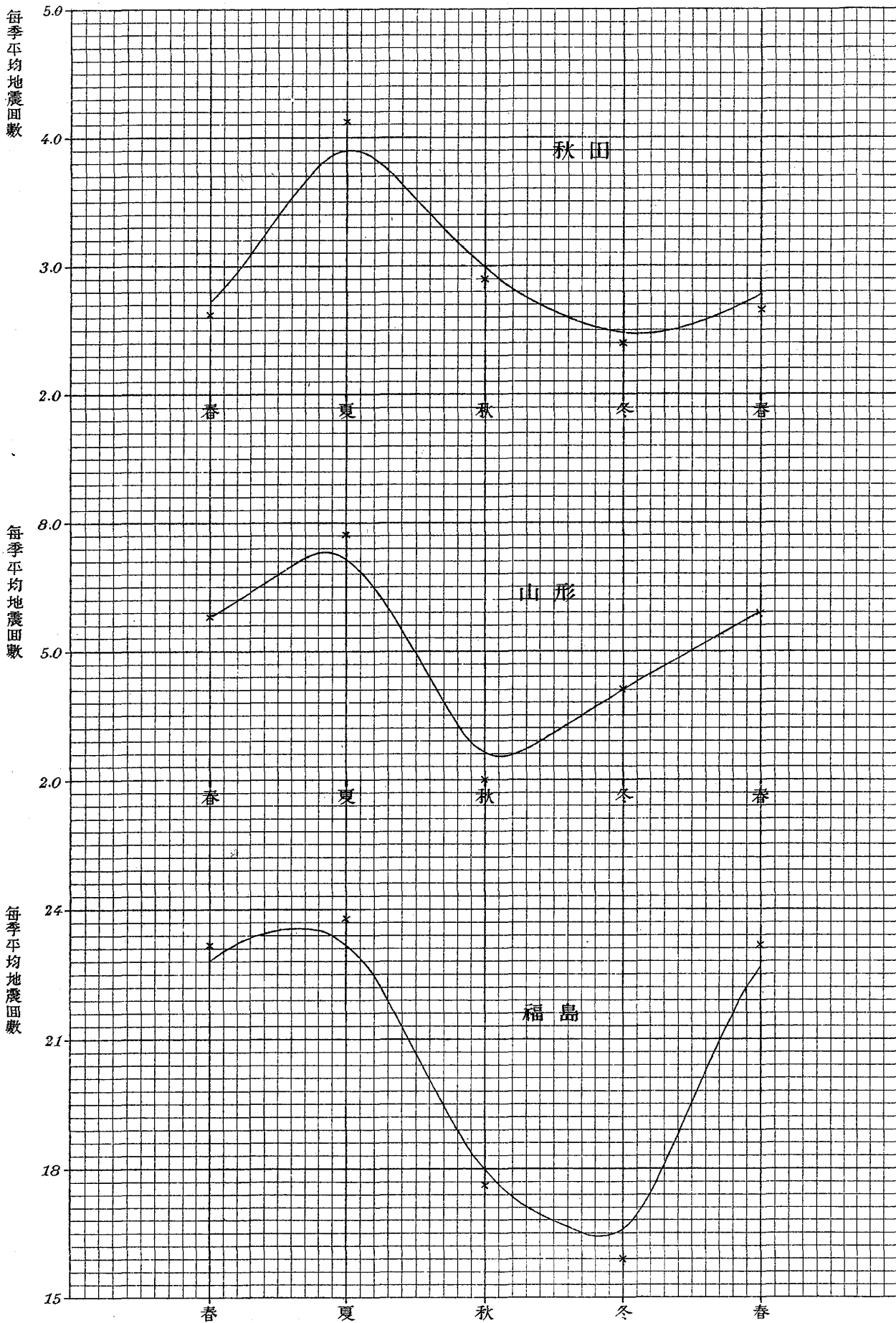
(其一) 宮古. 根室. 石卷. 地震度數四季ノ變化





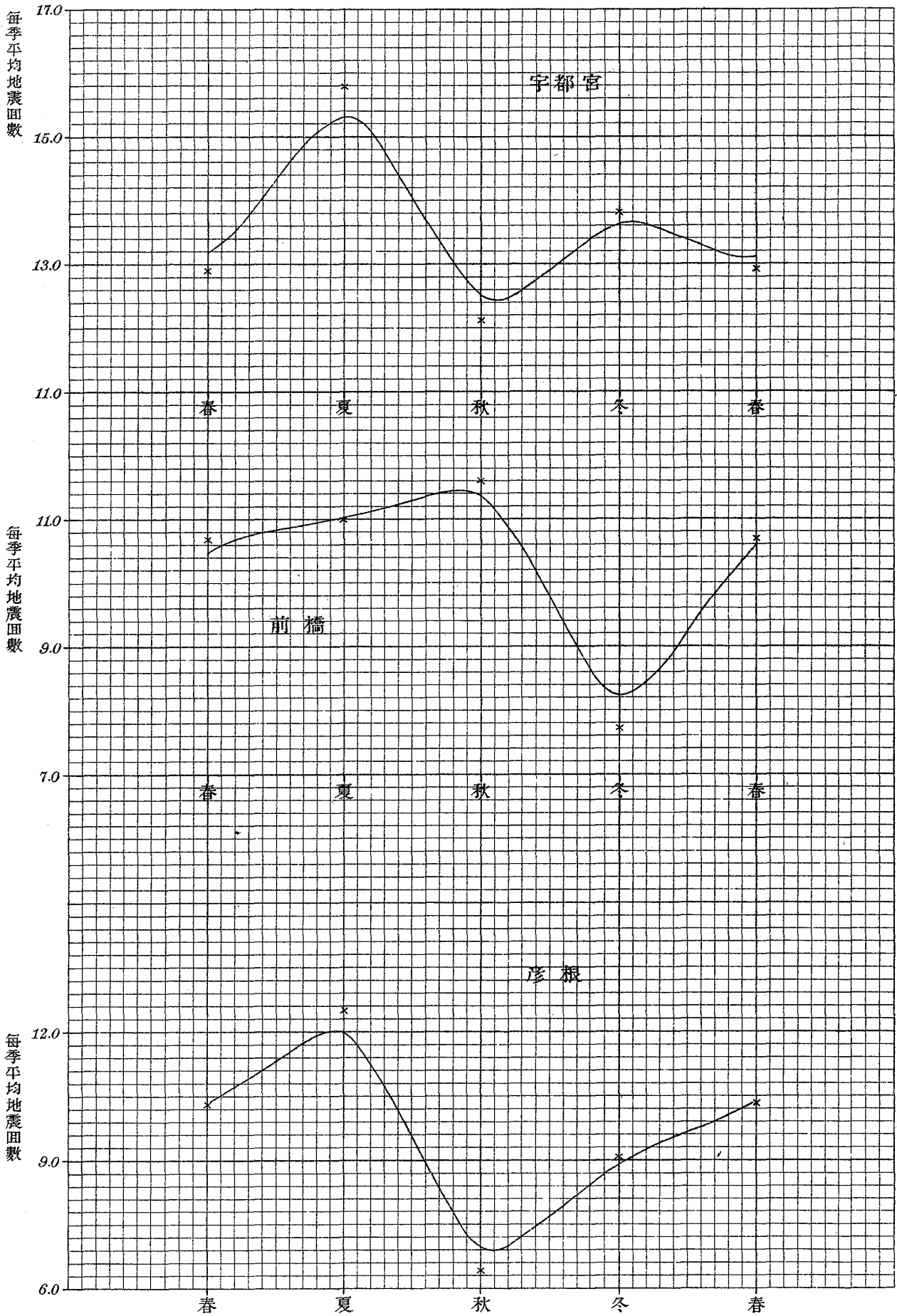
# 第五圖

(其二) 秋田. 山形. 福島. 地震度數四季/變化



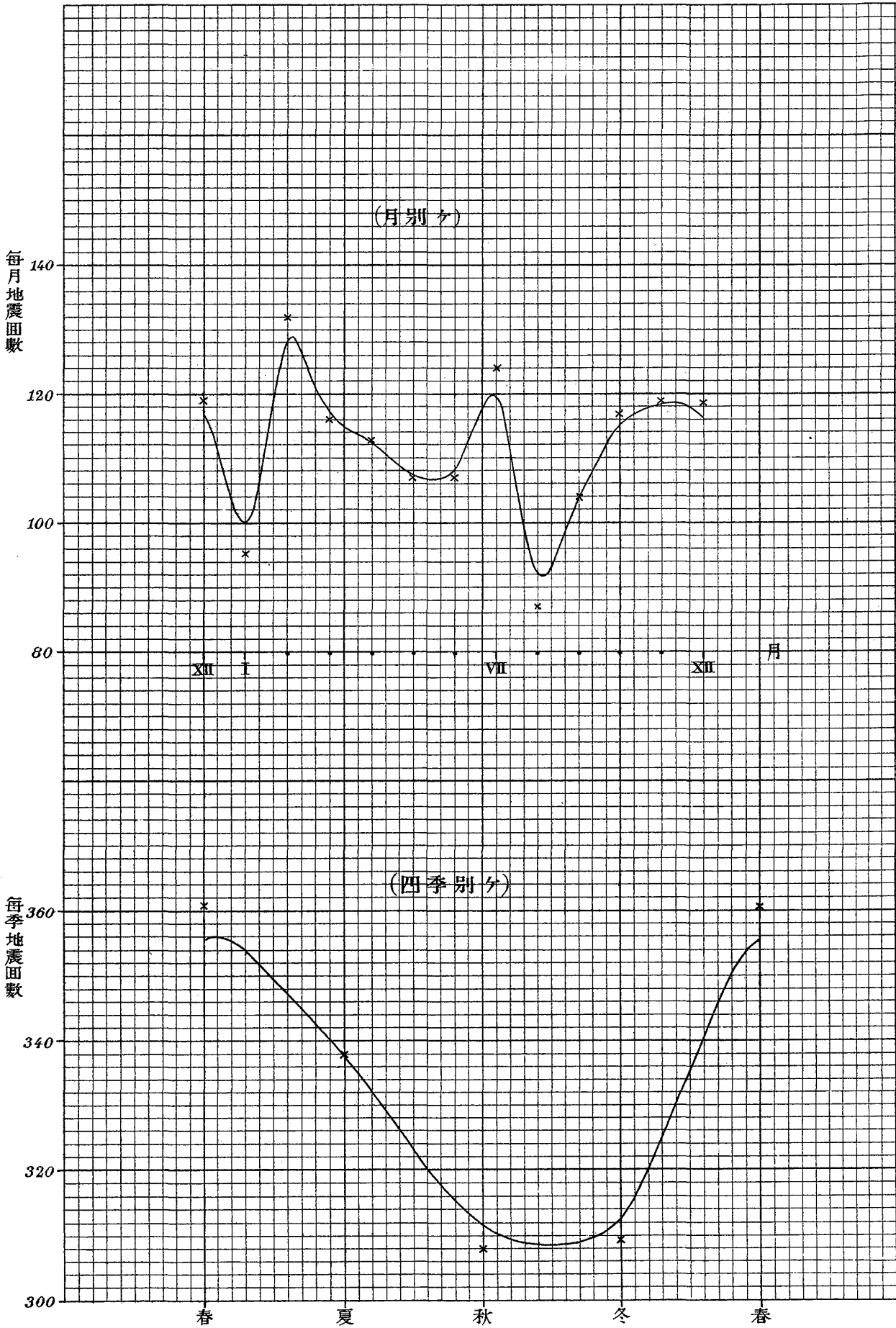
# 第五圖

(其三) 宇都宮. 前橋. 彦根. 地震度數四季ノ變化



# 第六圖

京都ニ於ケル大小地震千三百十八回一年中ノ分布  
 (但八世紀ヨリ慶應三年迄記録ニ存スルモノヲ蒐集ス)



(甲) 赤色

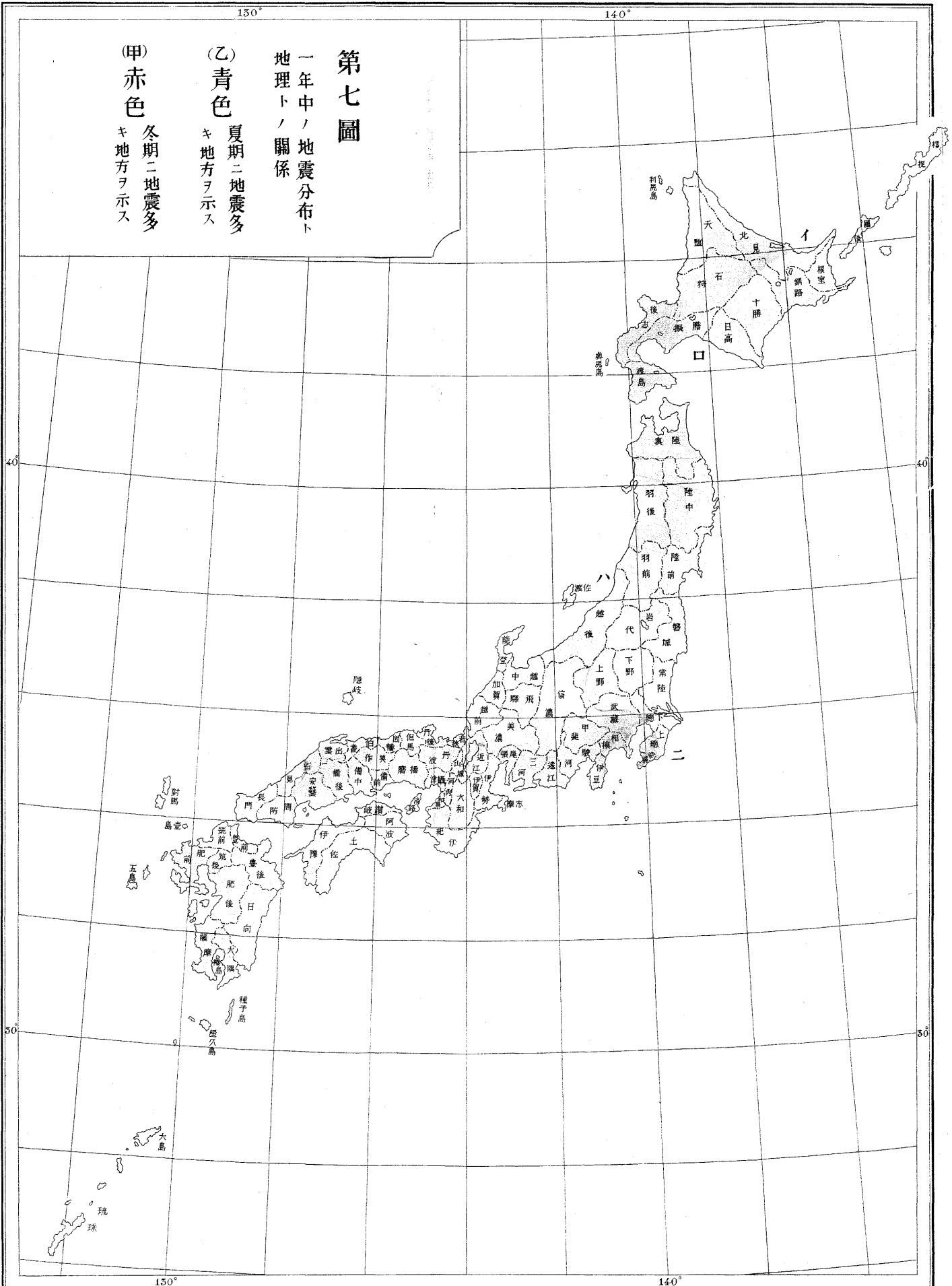
冬期ニ地震多  
キ地方ヲ示ス

(乙) 青色

夏期ニ地震多  
キ地方ヲ示ス

一年中ノ地震分布ト  
地理トノ關係

### 第七圖



# 第八圖

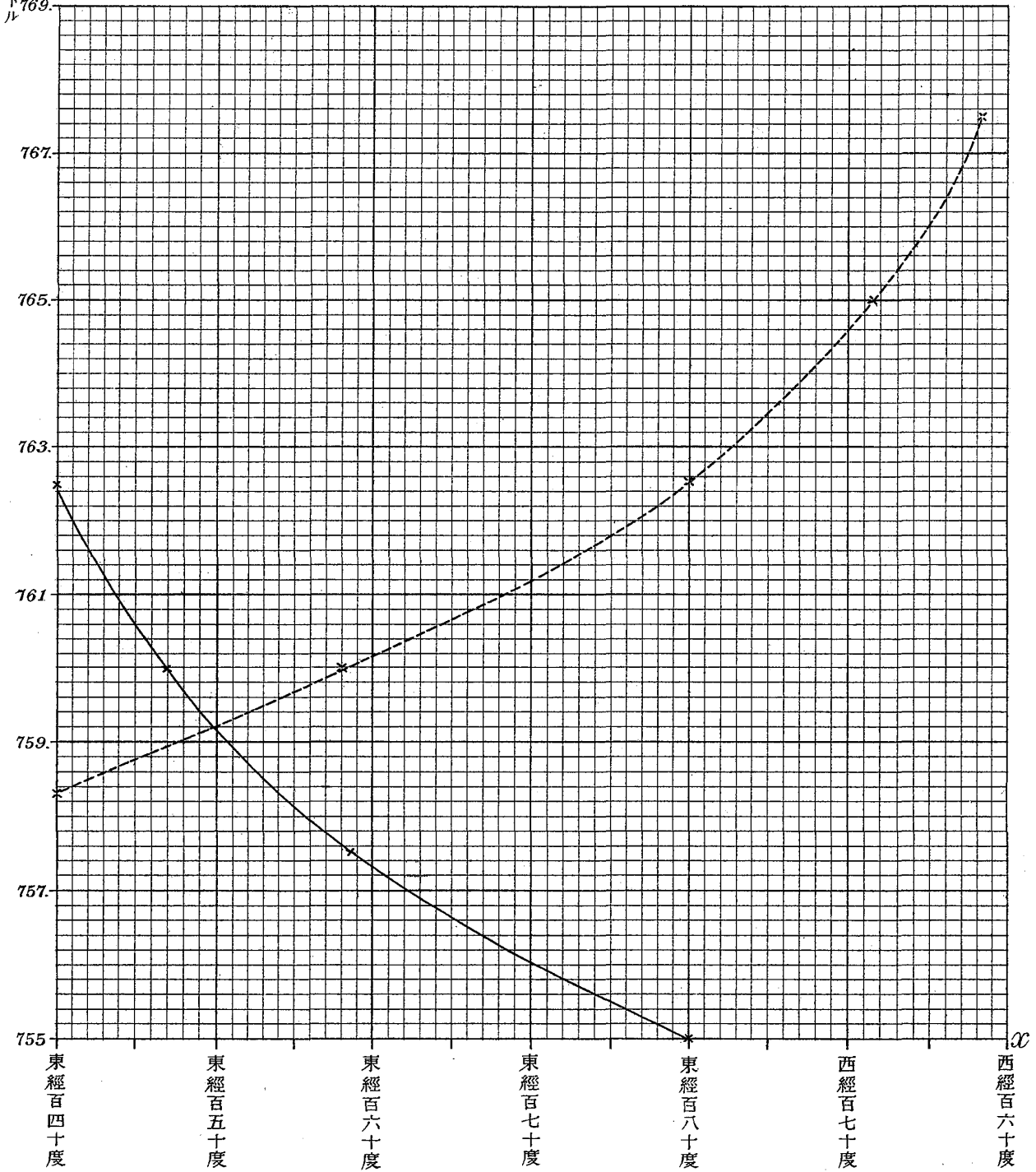
北太平洋ニ於ケル氣壓ノ配布

實線ハ一月二月ニ關シ点線ハ七月八月ニ關ス

∞ハ北緯四十度、東緯百四十度ノ点(秋田附近)ヲ起原トシテ東方ニ測リタル距離ナリ

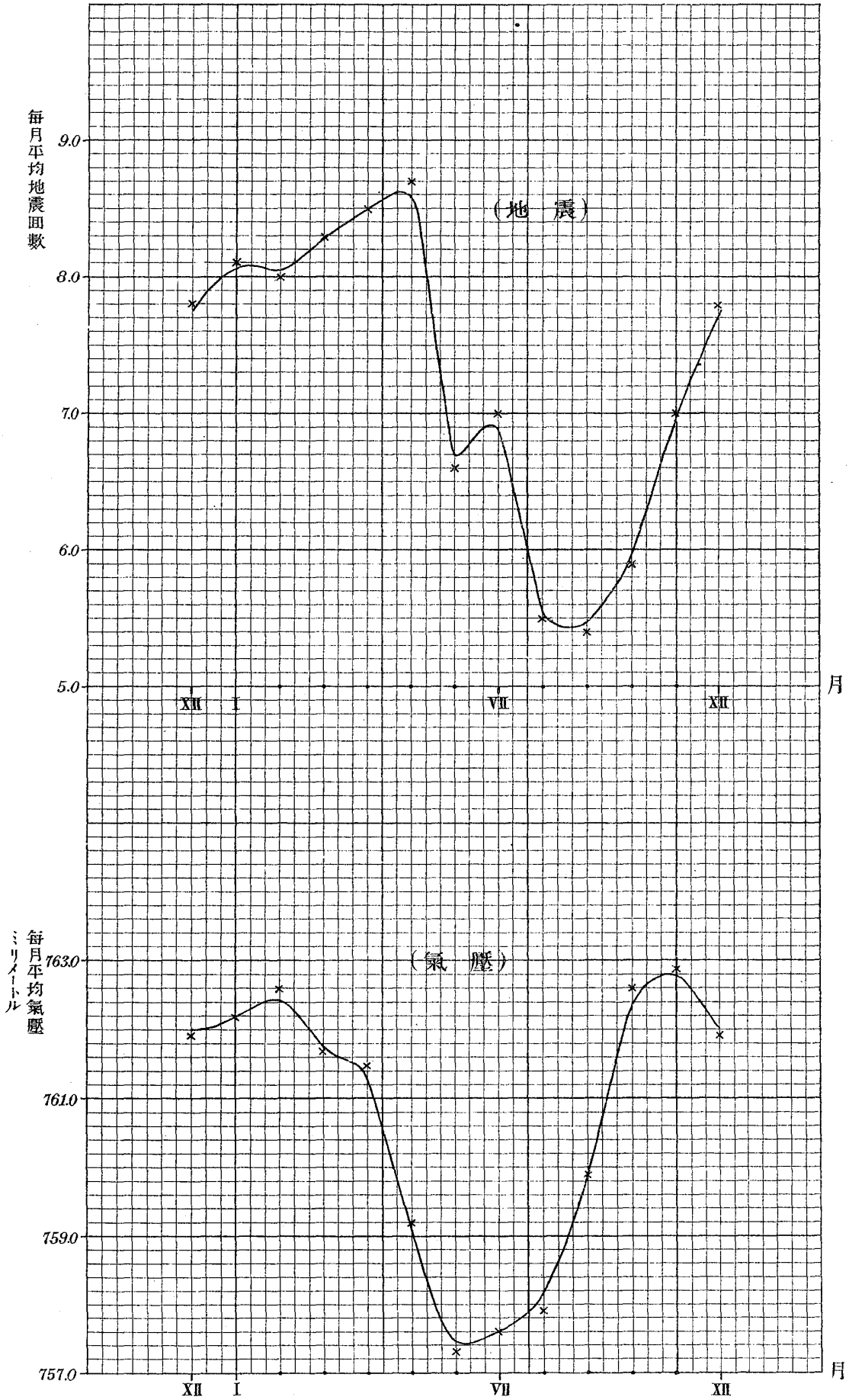
經度ハ英國「グリーンニッチ」ヨリ起算ス

y  
氣壓  
769.



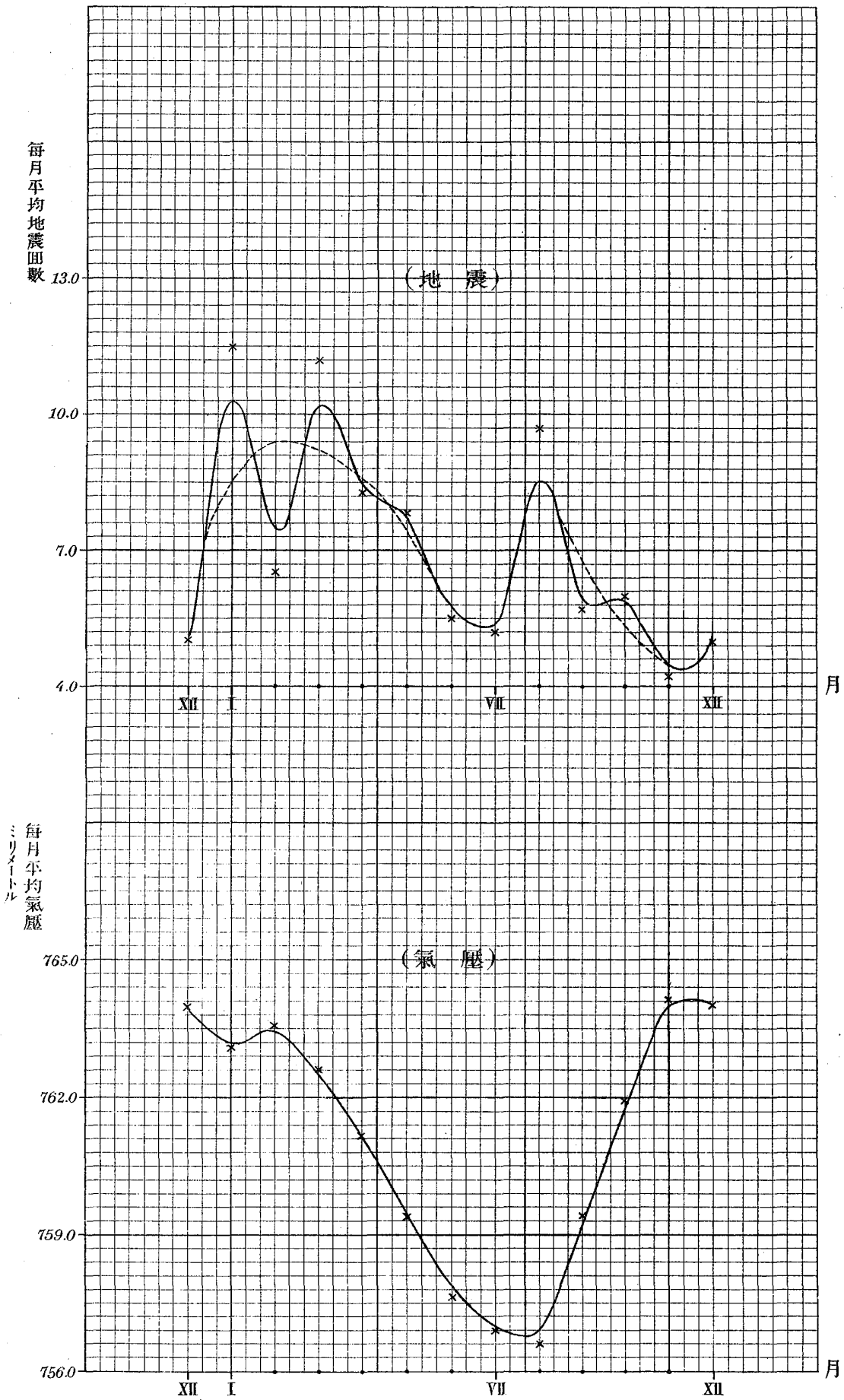
# 第九圖

(其一) 東京. 地震度數及氣壓一年中'變化



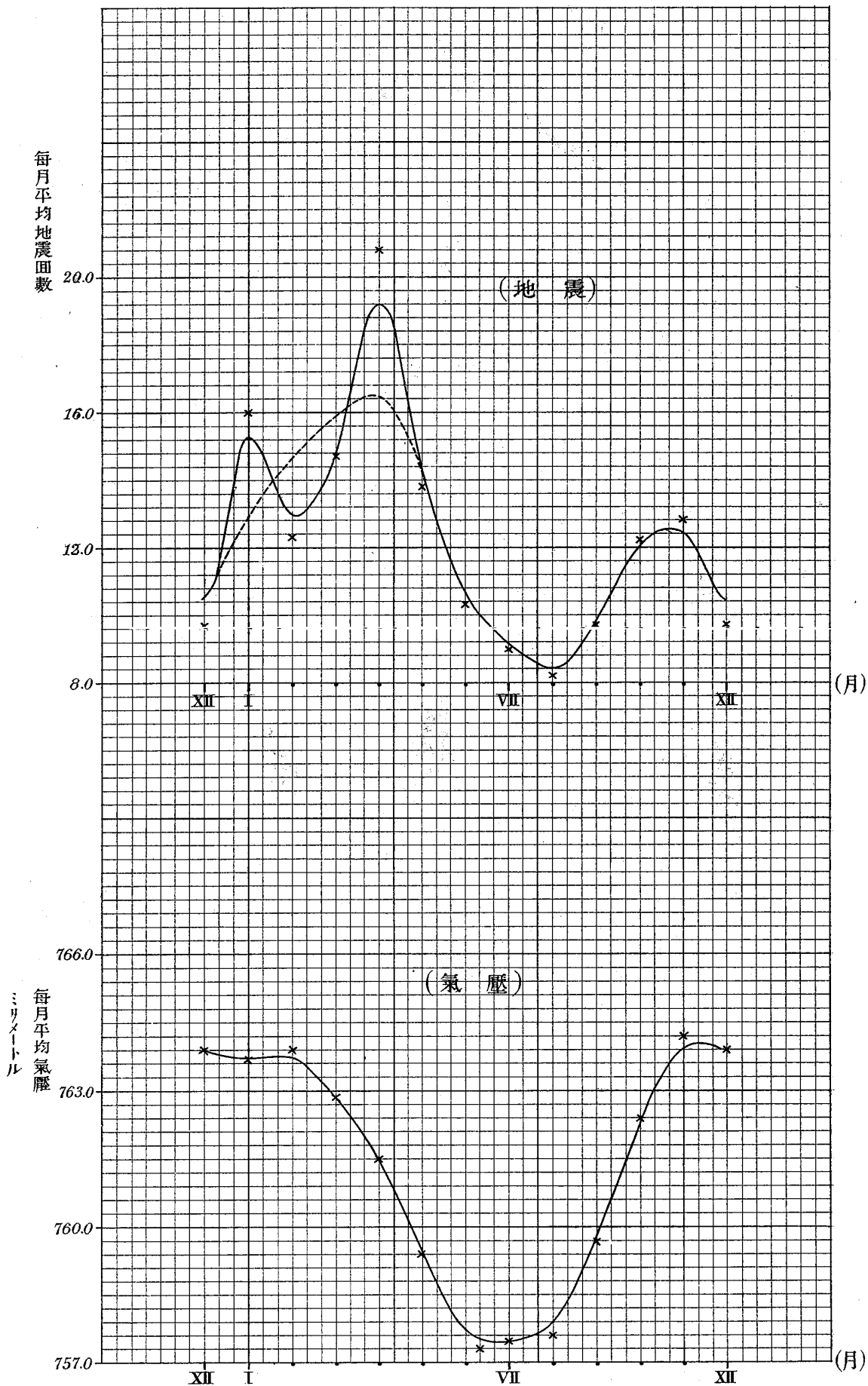
# 第九圖

(其二) 名古屋. 地震度數及氣壓一年中ノ變化



# 第九圖

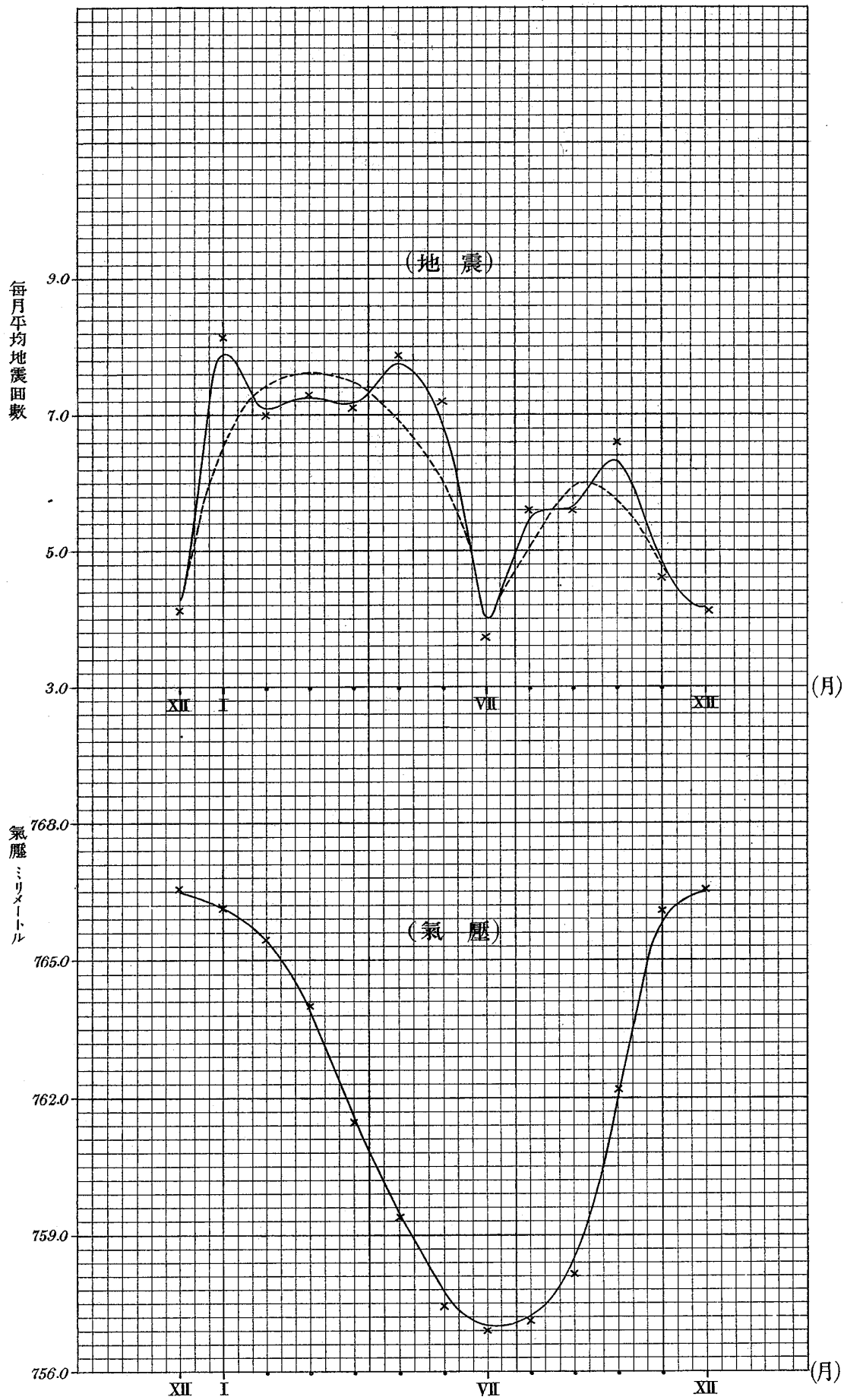
(其三) 岐阜. 地震回数及氣壓一年中ノ變化





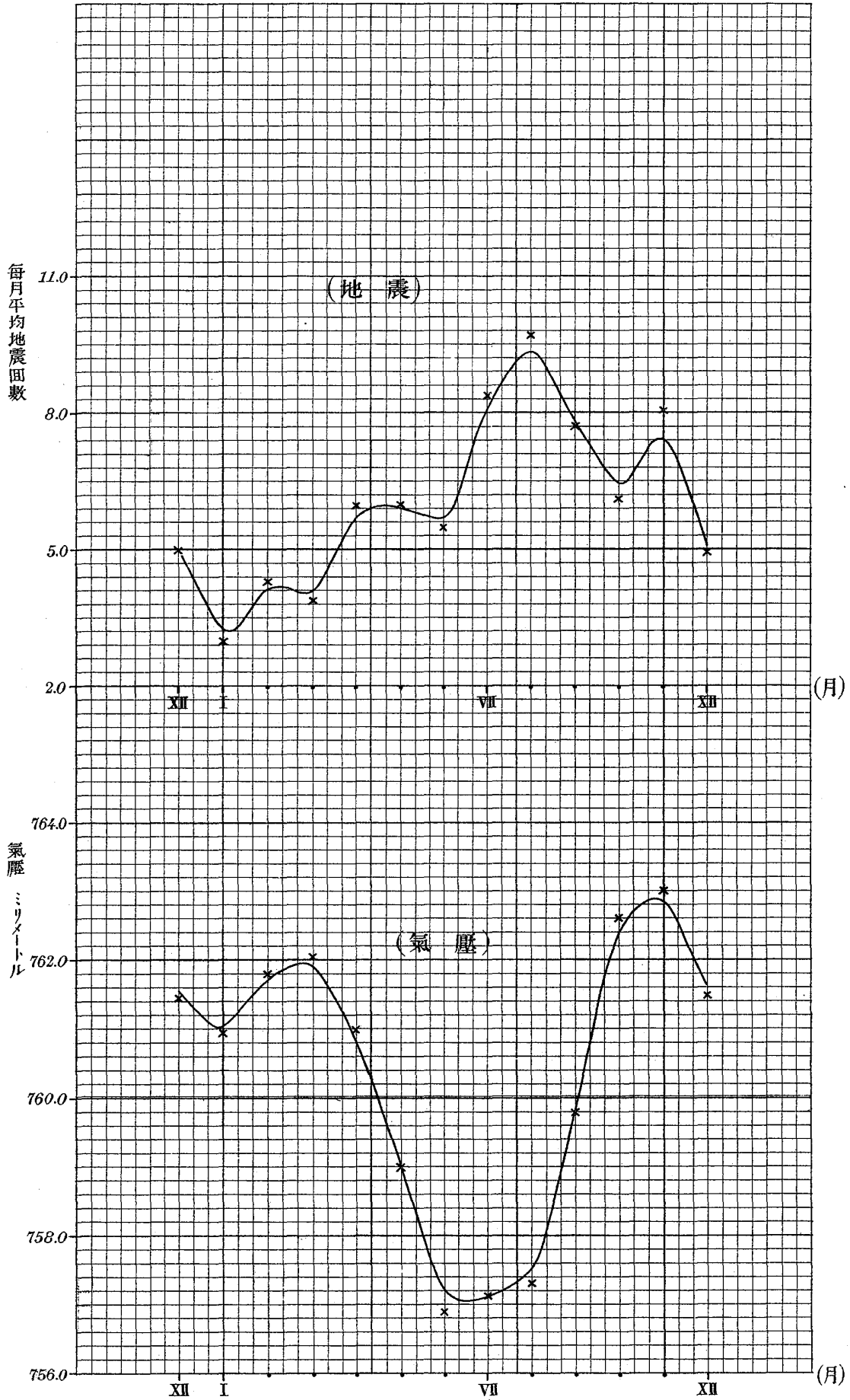
# 第九圖

(其四) 熊本. 地震度數及氣壓一年中ノ變化



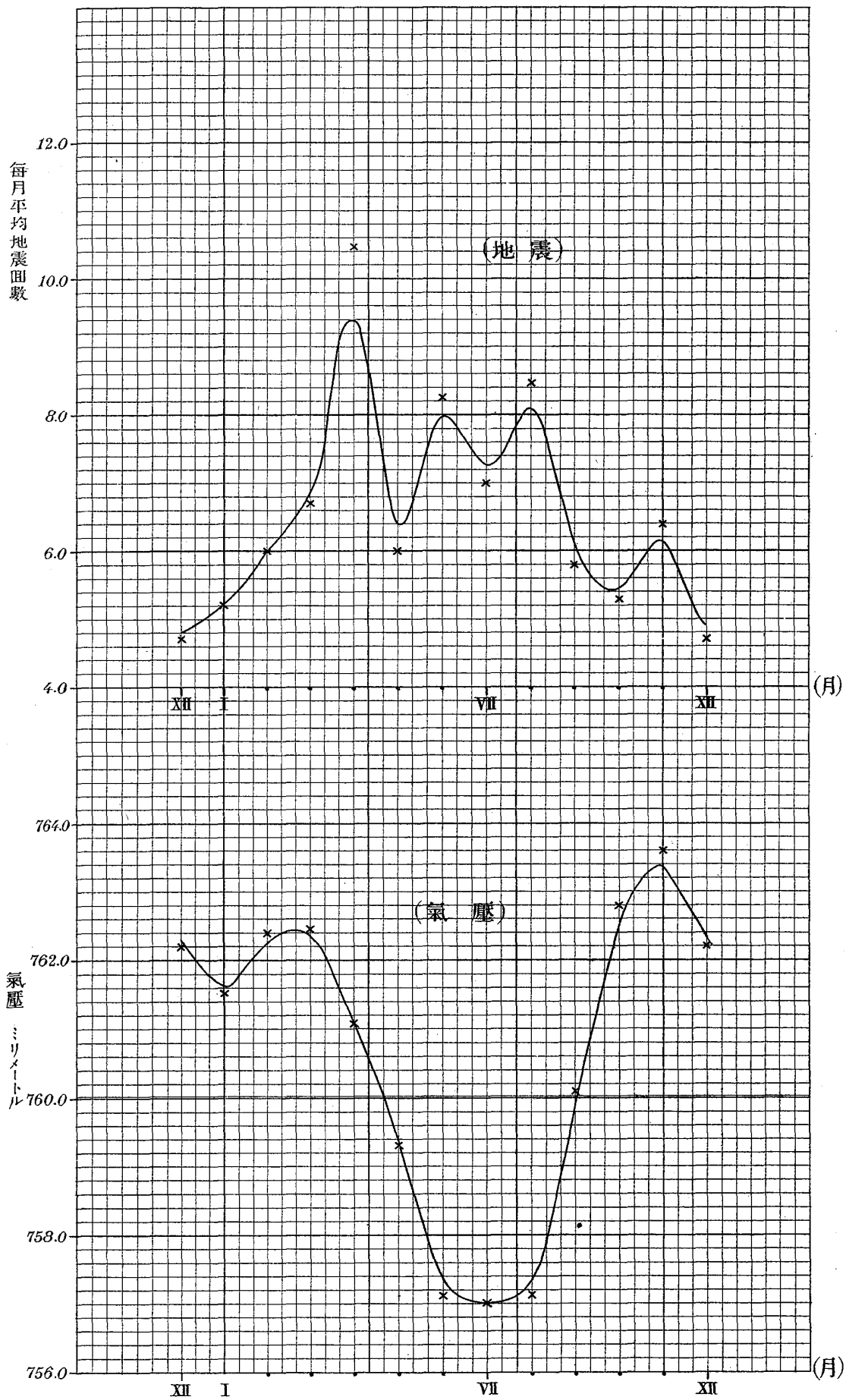
# 第十圖

(其一) 石巻. 地震度數及氣壓一年中ノ變化



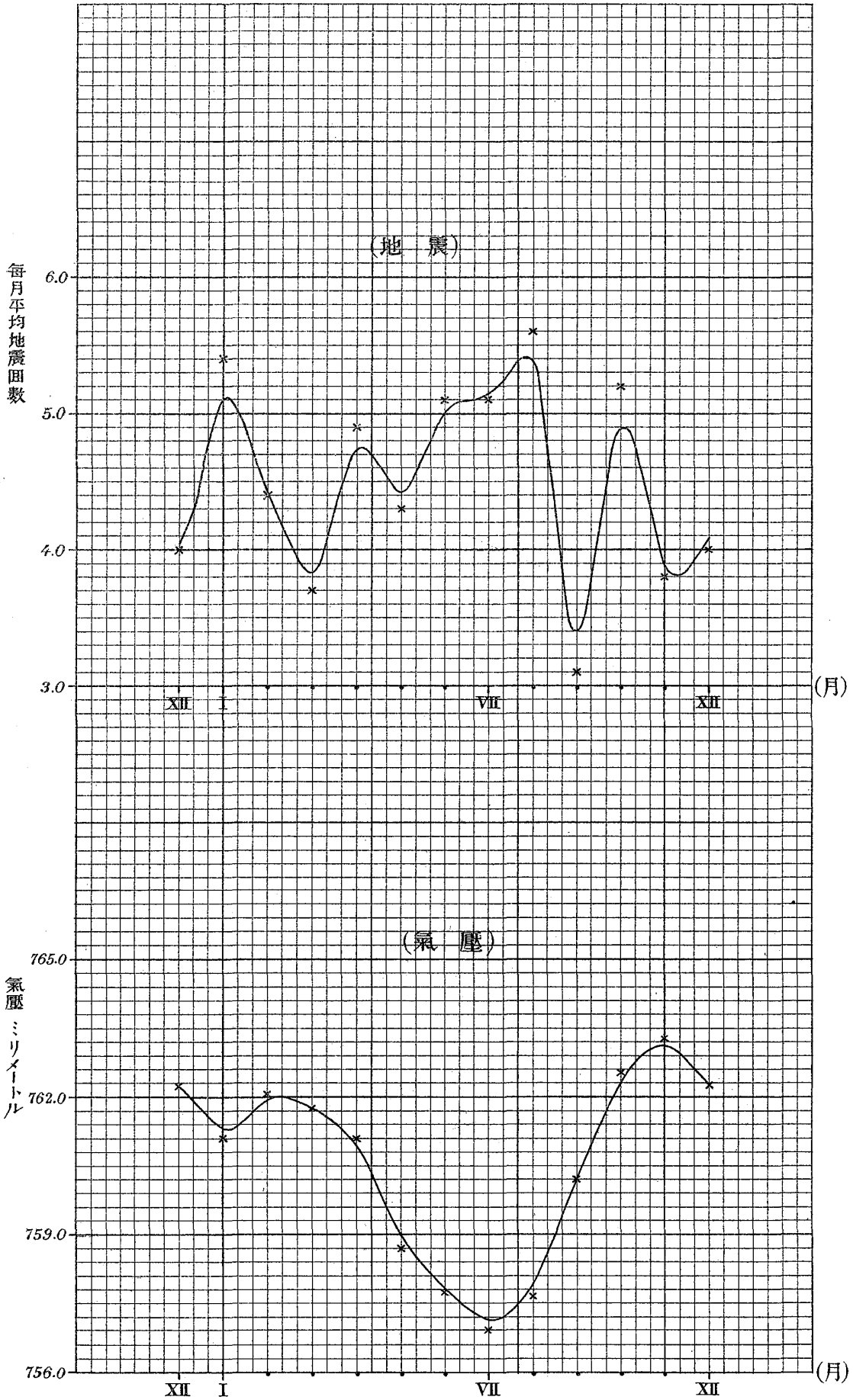
# 第十圖

(其二) 福島、地震度數及氣壓一年中ノ變化



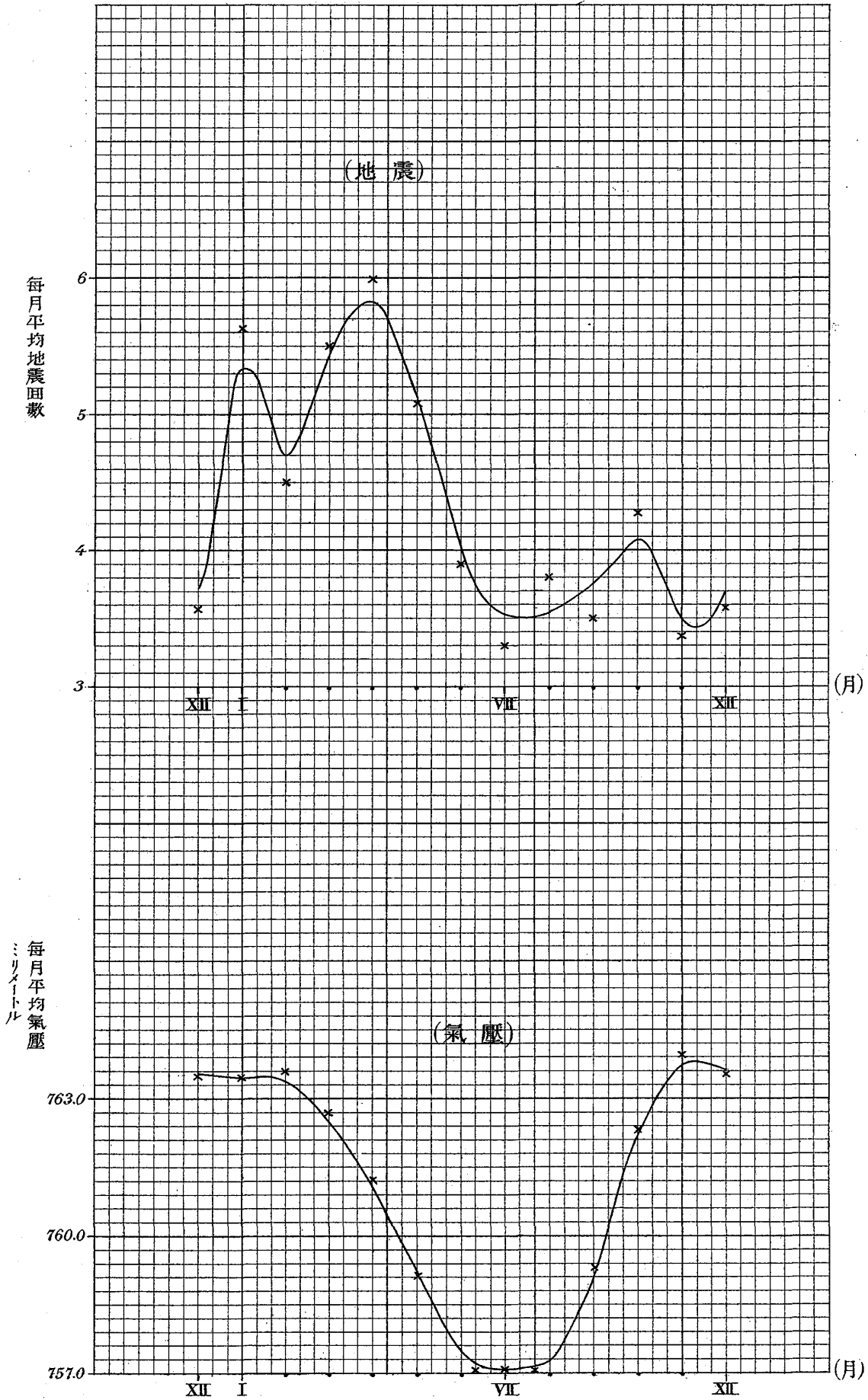
# 第十圖

(其三) 宇都宮. 地震度數及氣壓一年中ノ變化



# 第十一圖

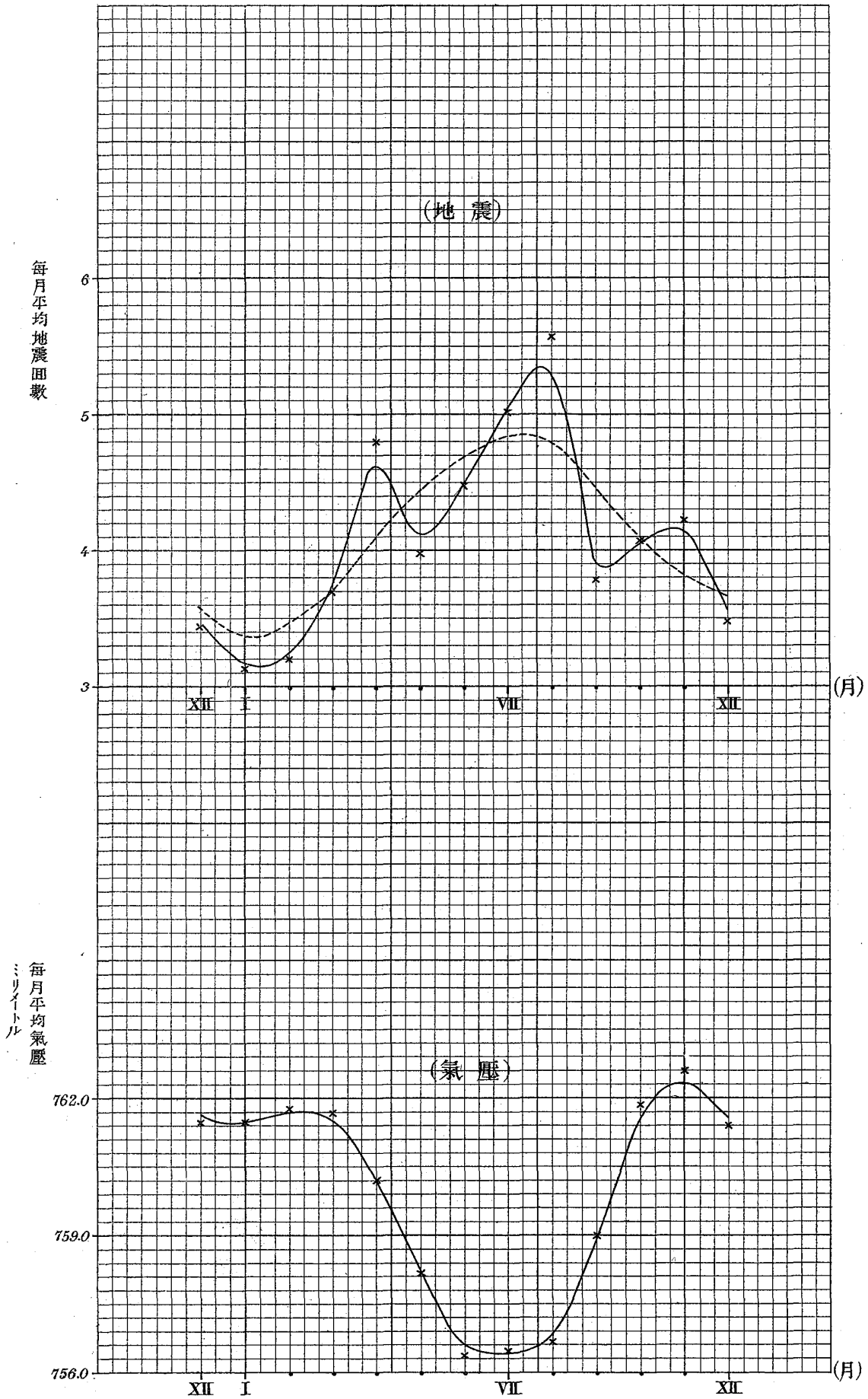
(其一) 地震度数及ヒ氣壓一年中ノ變化  
 (甲) 地方即チ北海道ノ西半、日本中部及ヒ西部ノ大体ヲ包有スルモノ



# 第十一圖

(其二) 地震回数及氣壓一年中ノ變化

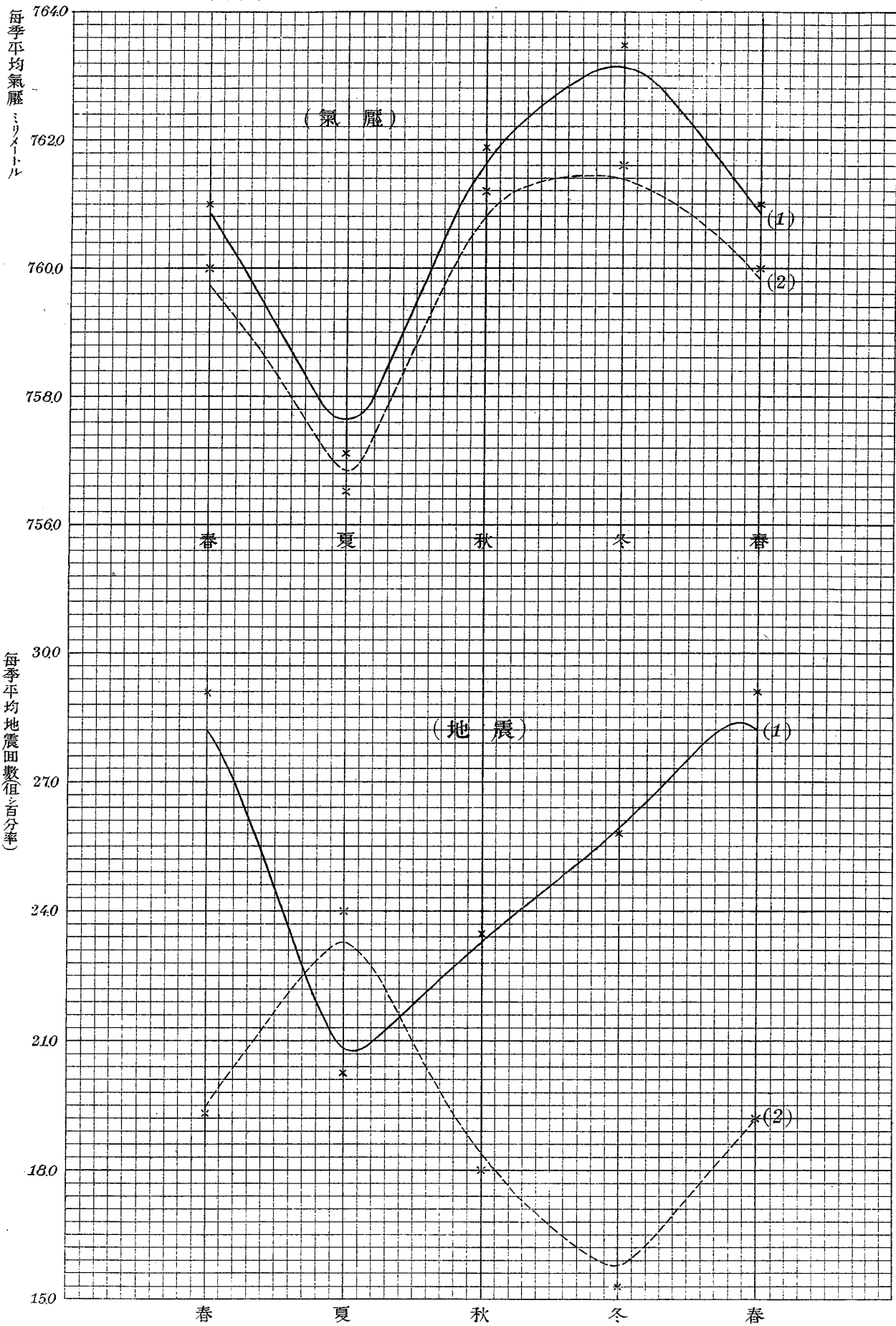
(乙) 地方即日本東北部及彦根(濱田高知ヲ除ク)



# 第十二圖

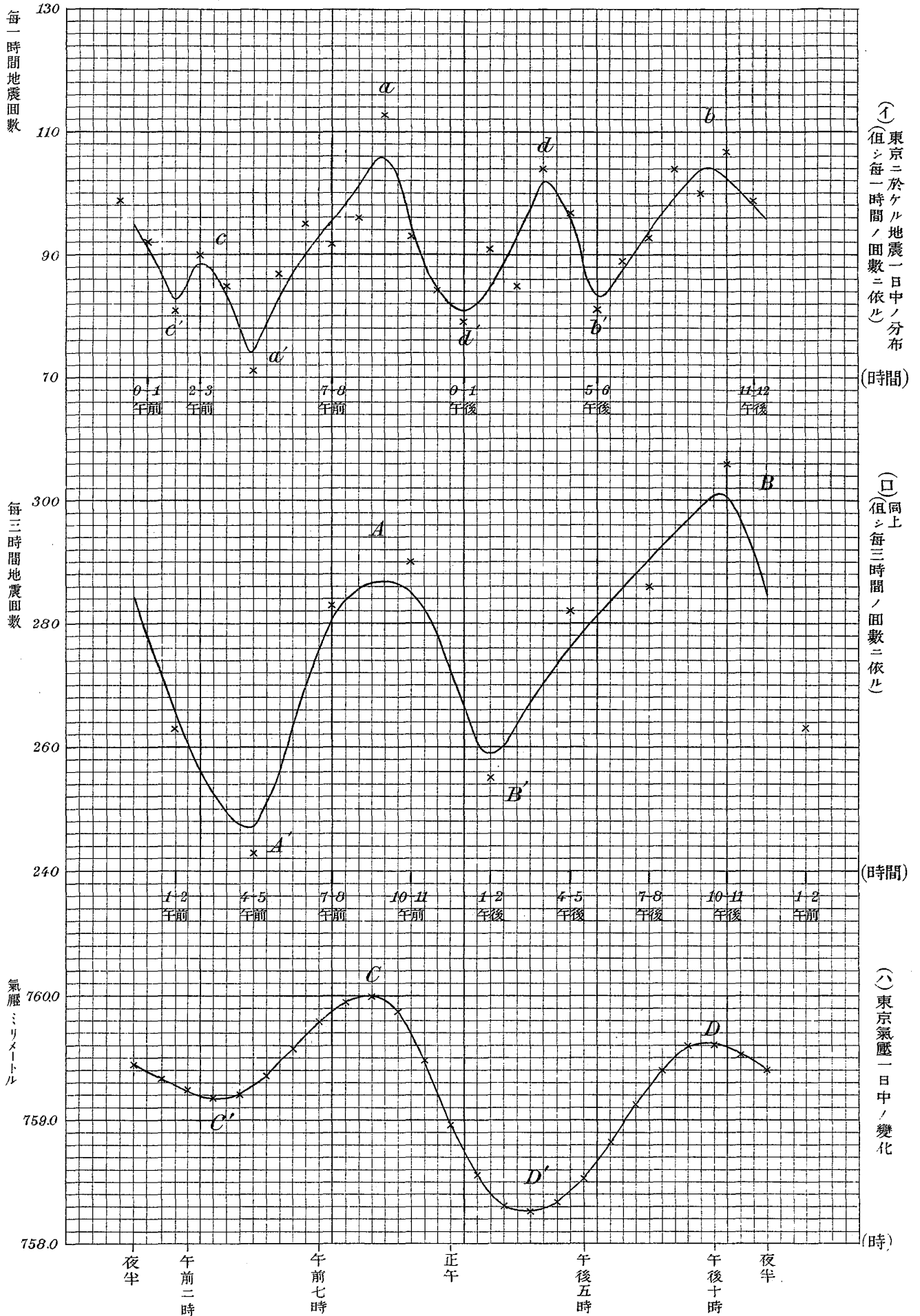
氣壓及ヒ地震回数四季ノ變化

實線(1)(甲)地方即日本中部及西部諸地方ノ平均(但シ北海道西部モ含有ス)  
 点線(2)(乙)地方即日本東北部及彦根諸地方ノ平均(濱田高知ヲ除ク)



# 第十三圖

(其一) 東京 地震度數及氣壓一日中ノ變化



(イ) 東京ニ於ケル地震一日中ノ分布  
(但シ每一時間ノ回數ニ依ル)

(時間)

(ロ) 同上  
(但シ毎三時間ノ回數ニ依ル)

(時間)

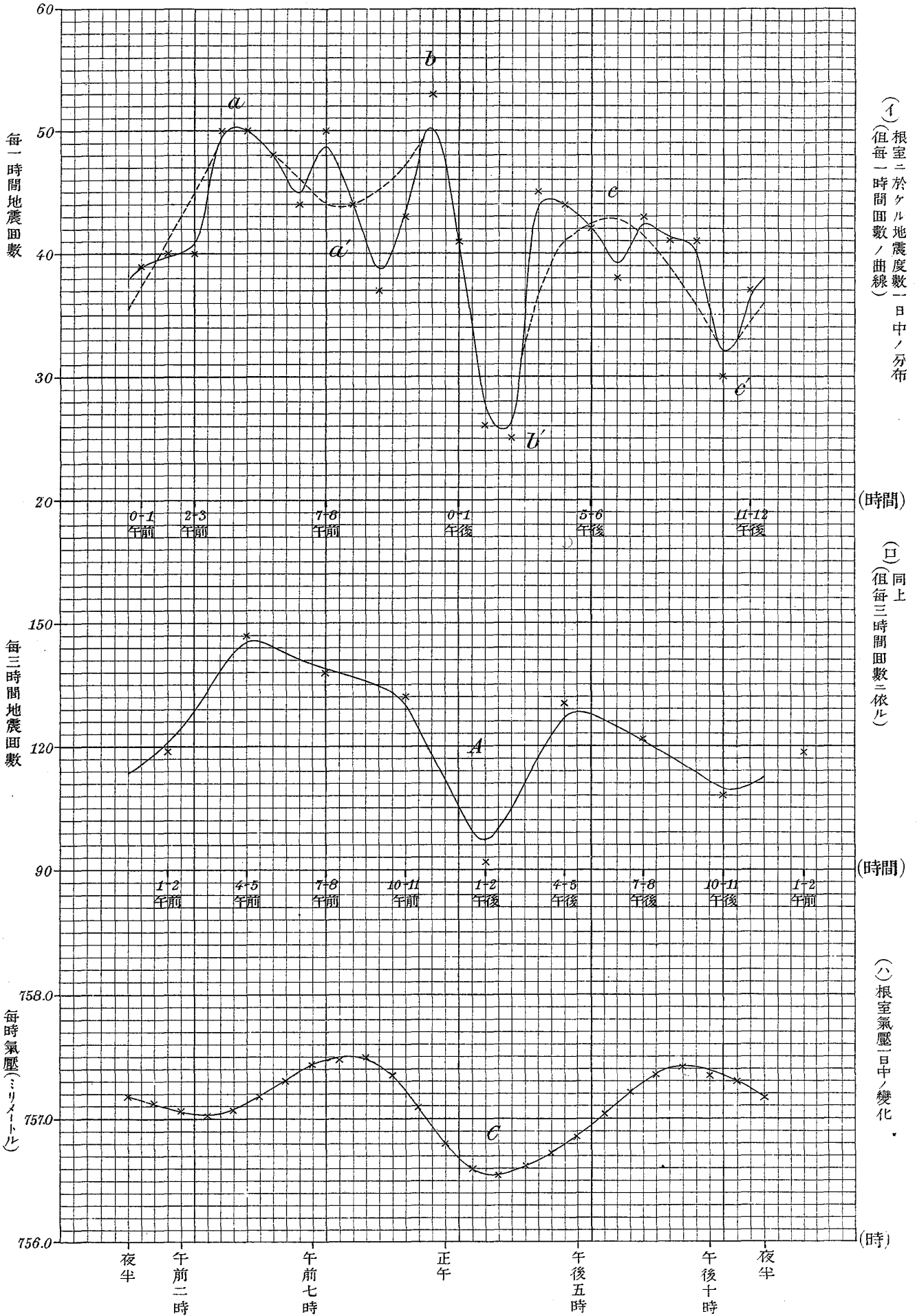
(ハ) 東京氣壓一日中ノ變化

(時)



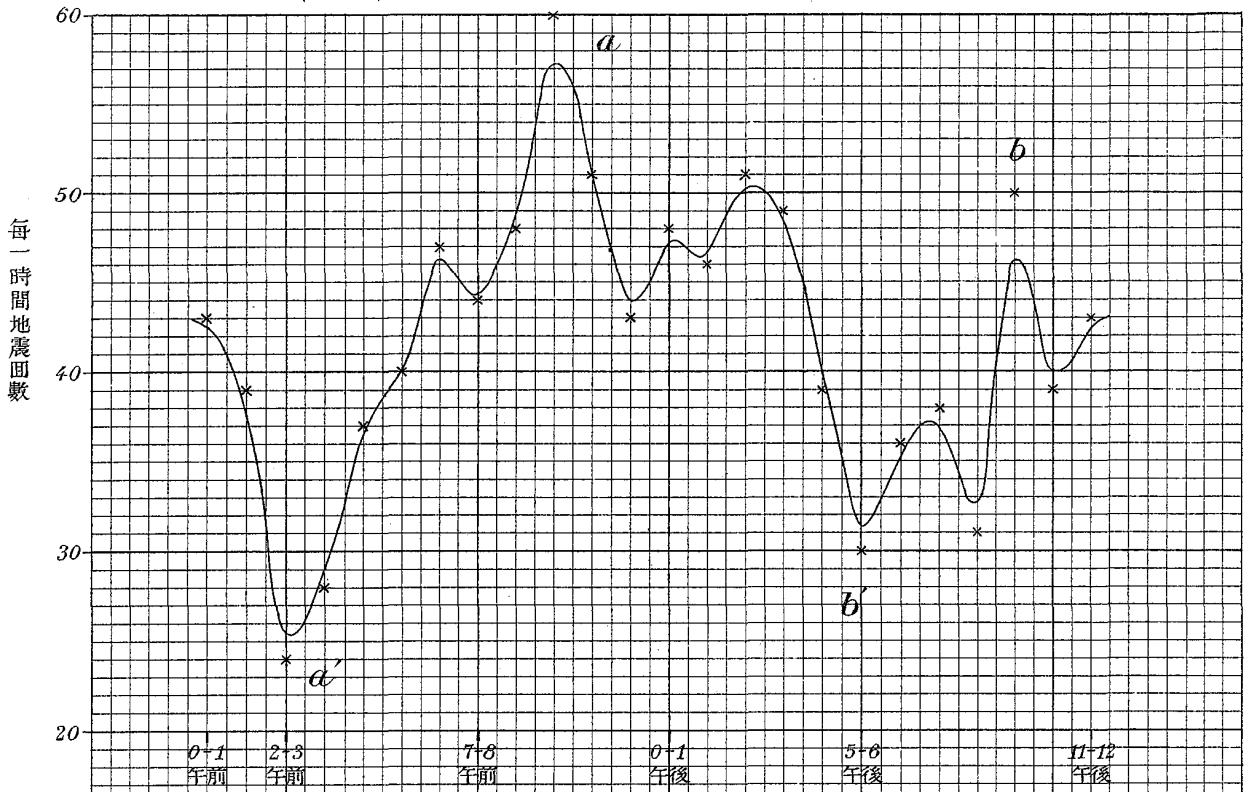
# 第十三圖

(其二) 根室. 地震度數及ビ氣壓一日中ノ變化

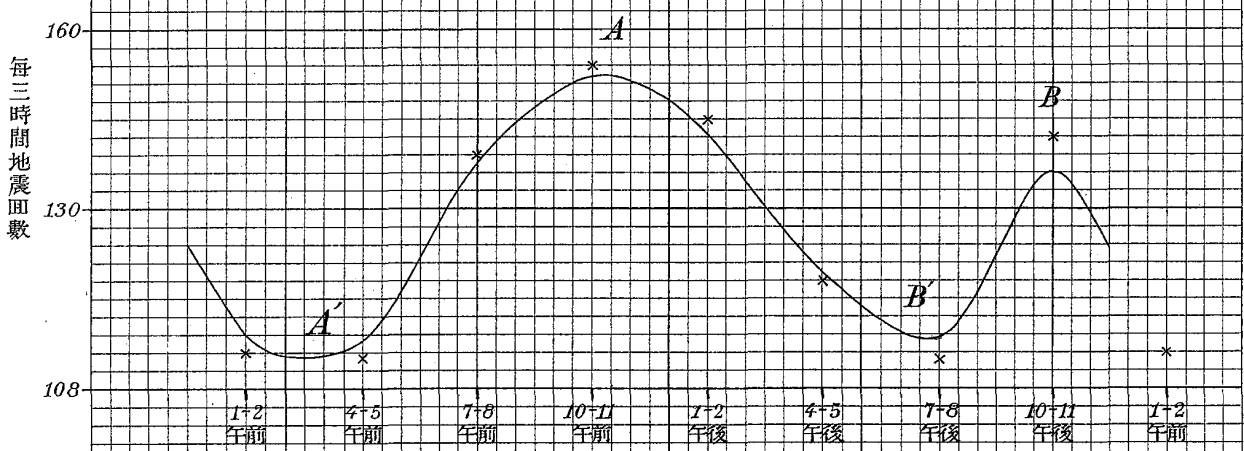


# 第十三圖

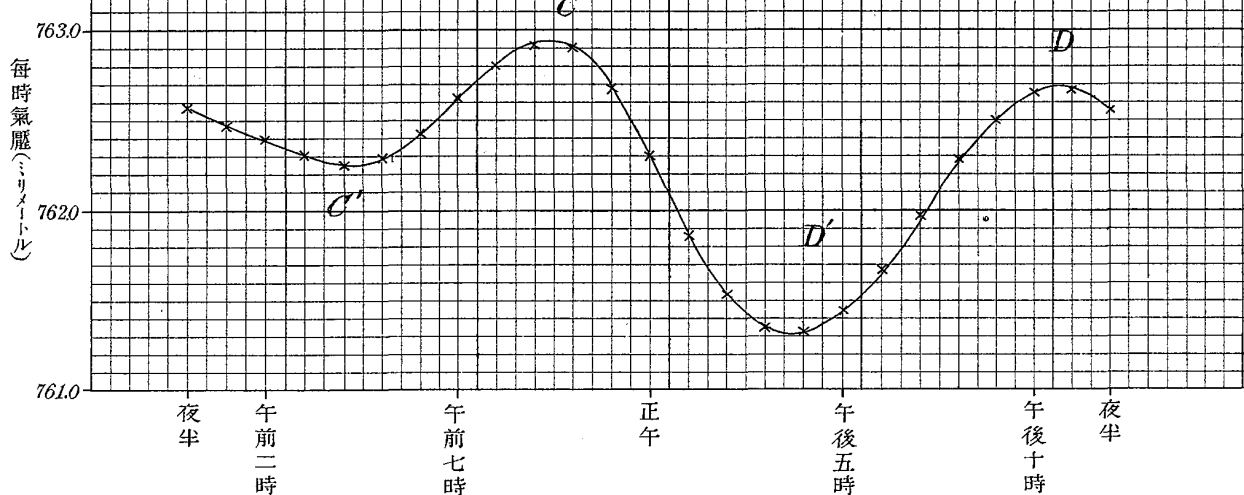
(其三) 熊本. 地震度數及氣壓一日中ノ變化



(イ) 熊本ニ於ケル地震度數一日中分布  
(但每一時間回數ノ曲線)  
(時間)



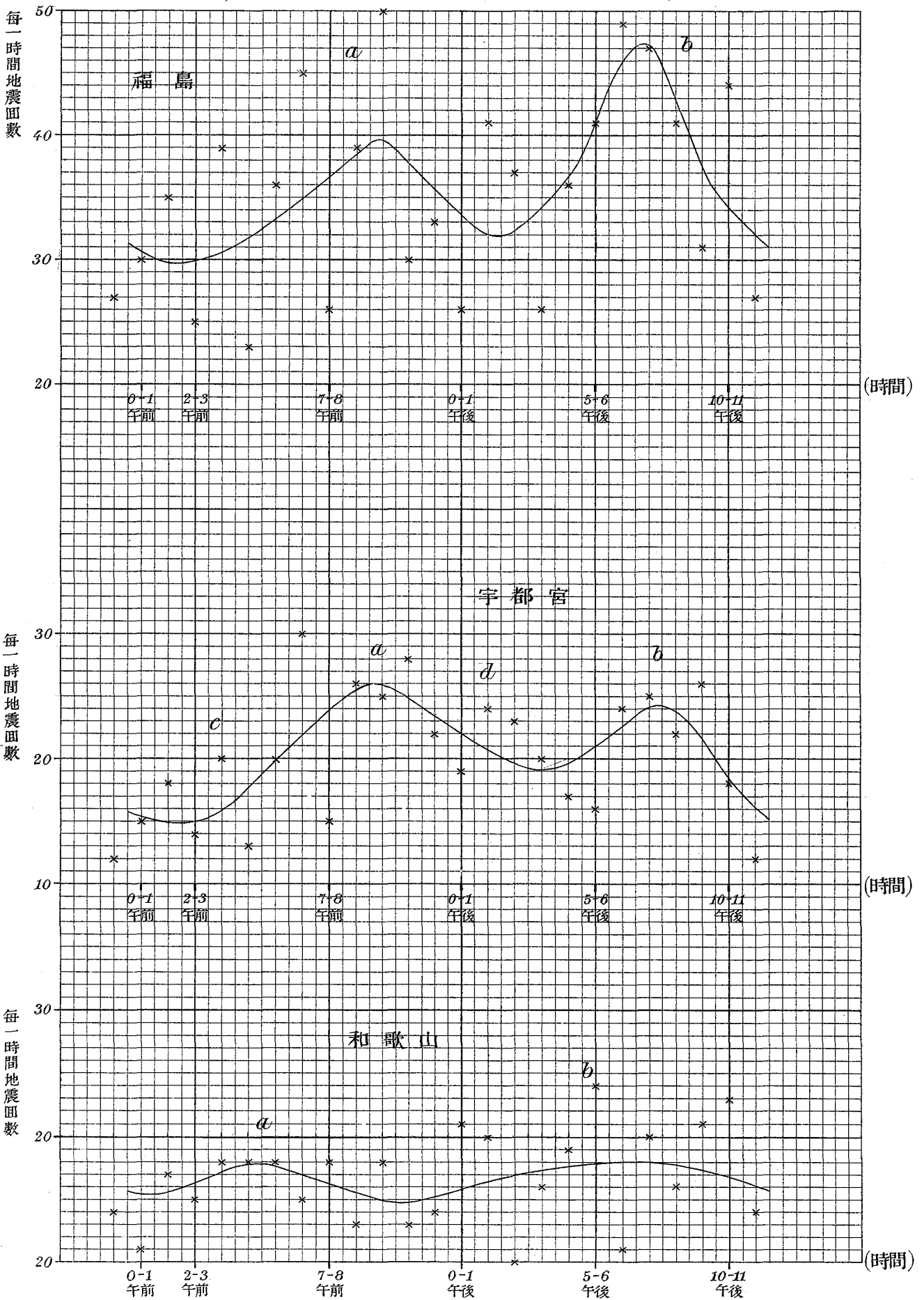
(ロ) 同上  
(但毎三時間回數ニ依ル)  
(時間)



(ハ) 熊本氣壓一日中ノ變化  
(時)

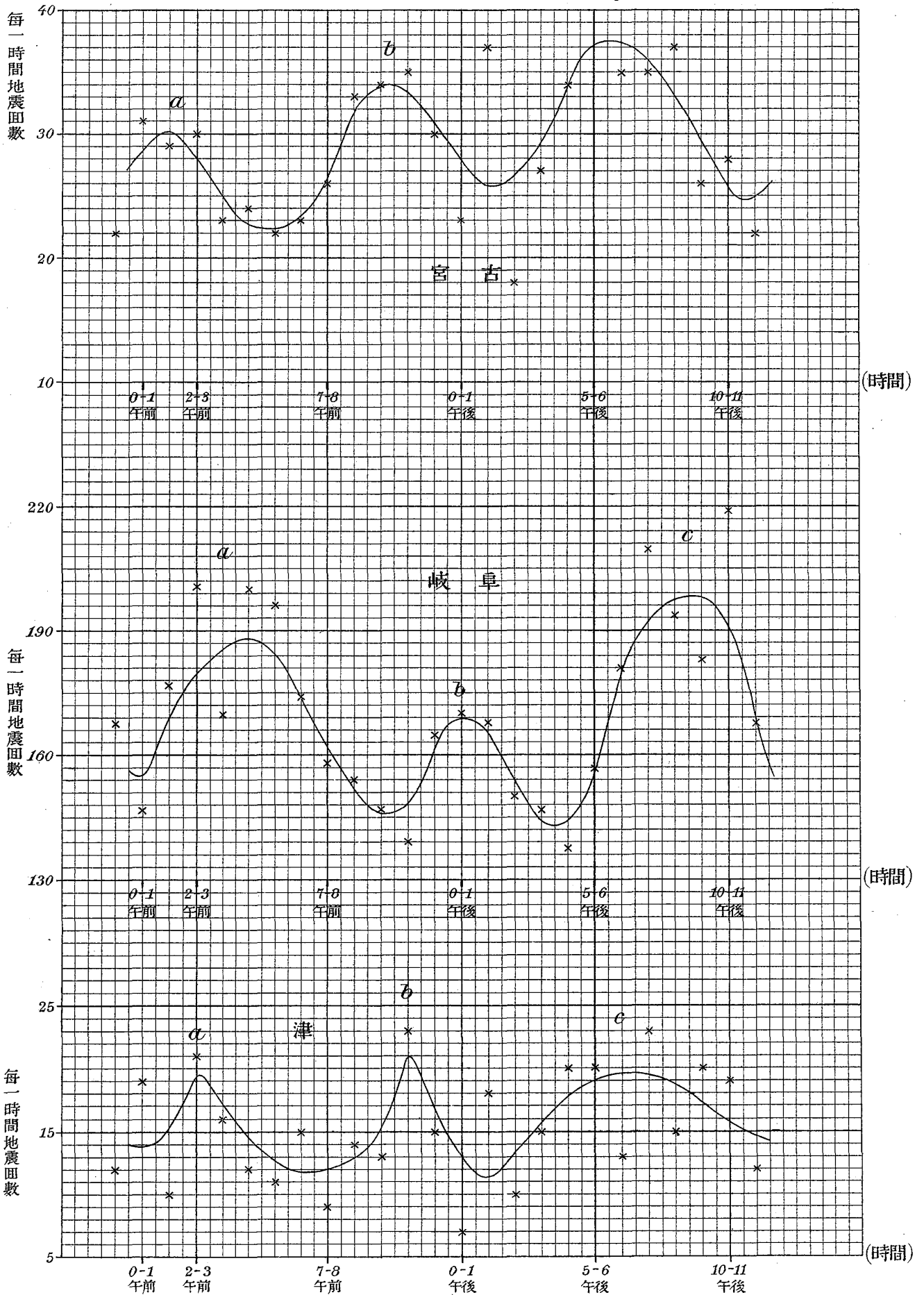
# 第十四圖

(其一) 福島. 宇都宮. 和歌山. 一日中地震回数ノ變化



# 第十四圖

(其二) 宮古. 岐阜. 津. 一日中地震度數ノ變化



# 第十四圖

(其三) 石卷. 名古屋. 鹿兒島. 一日中地震度數ノ變化

